

ナルヲ以テ被告ノ上訴權ヲ奪フモノニシテ斯ル説示ハ明カニ法律ニ違反シタルモノナリト信ス
ト云フニ在リ

(判決理由) 仍テ按スルニ陪審法第七十七條ハ裁判長カ辯論終結後陪審ニ對シ爲スヘキ説示ヲ
規定スルニ當リ特ニ犯罪ノ構成ニ關シ問題ト爲ルヘキ證據ニ付テハ止タ其ノ要領ヲ説示スヘキ
コトヲ命ス、蓋シ一切ノ證據ニ付其ノ詳細ニ亙ル説示ヲ爲スヘキコトヲ命スルニ於テハ却テ陪
審員ノ頭腦ヲ混亂セシメ法カ説示ヲ規定シタル立法精神ヲ没却スルニ至ル虞アルヘケレハナ
リ、然リ而シテ要領ヲ説示スヘキ證據カ公判ニ於テ證據調ヲ經タルモノナルコトヲ要スルハ言
ヲ俟タスト雖刑事訴訟法第三百四十條第三百四十一條ニ規定スル證據書類又ハ證據物ノ證據調
ノ方法タル證據ノ要領ヲ告ケ又ハ之ヲ示スコトト陪審法第七十七條ニ規定スル證據ノ要領ノ説
示トハ固ヨリ其ノ目的ヲ異ニスルモノナレハ猥ニ此ヲ以テ彼ヲ推スハ許ササル所ナリトス、夫
レ説示ノ目的タルヤ陪審員ニ對シテ法律知識ヲ補充シ且法廷ニ於テ雜然陪審員ノ腦裡ニ印象セ
ラレタル事實關係ヲ整頓スルニ在ルコト前記第一項説明ノ如クナルヲ以テ證據ノ要領ヲ説示ス
ルニ付テハ證據調ヲ經タル證據ノ全體ヲ一團トシテ其ノ要領ヲ説示スレハ足ルモノニシテ各證
據ニ付曩キニ證據調ノ際爲シタルト同様ニ其ノ要領ヲ告ケ又ハ之ヲ示スノ要アルモノニ非ス、
故ニ苟モ問題ト爲ルヘキ證據ニ付之ヲ説示スルニ當リ其ノ要領ヲ逸セサル限ハ縱令個々ノ證據
ノ中ニ其ノ要領ヲ告ケス又ハ之ヲ示ササリシモノアリトスルモ説示トシテノ無効違法ヲ來スモ
ノニサ非ルナリ、然ラハ原審裁判長カ所論ノ如ク或ル種ノ證據ニ付全然之カ説示ヲ爲サス又ハ
其ノ要領ヲ説示スルニ證據ノ要領ヲ告ケス又ハ之ヲ示ササリシトスルモ輒ク違法ノ説示ナリト
斷スルヲ得ス、加之記録ニ徵スレハ原審裁判長ノ爲シタル證據説示ハ克ク證據ノ要領ヲ説キ得

テ説示トシテ毫モ間然スル所ナシ而シテ所論三好方時ノ證言ノ如キハ全然犯罪ノ構成ニ重要ナ
ル關係アルモノト認メ得サルヲ以テ所論攻撃ハ當ラス論旨ハ理由ナシ、

(上告理由) 第四點裁判長ハ本件ニ付問題トナルヘキ事實トシテ四點擧ケタルモ其ノ外問題ト
ナルヘキ事實トシテハ第一事實竊取シタル短刀ヲ携ヘテ再ヒ佐伯飲食店ノ前ニ立歸リテ同店ヲ
窺ヒタルヤ否ヤ第二事實岡本ハマヨハ左手ニ鳥籠ヲ持チ居リシヤ否ヤ第三事實被告人カハマヨ
ヲ殺害ノ直前ニ兩人間ニ於テ問答ヲ爲シハマヨハ被告人ヲ蹴ラントセル事實アリシヤ否ヤヲ擧
ケサルヘカラス、第一事實ノナキコトハ證人山野邊森之助ノ供述ニヨリア明カニシテ被告人ノ
タメ最モ利益ナル點ナリ第二事實ノ鳥籠ハ本件ヲ檢舉スル端緒トシテ取扱ハレシコトハ三好巡
査ノ「籠(鳥籠)ノコトナリシニ記録ニハ斯クナリ居レリ」カアツタノテ其ノ品物カラ端緒ヲ得
タノテアリマス「藤高サイノ「私ハハマヨカスウシタ事情ヲ云フテ傘ト鳥籠ヲ拾フテ貫ヒ」被
告人ニ對スル豫審第一回訊問調書中「ハマヨハ藤高サイト一本ノ傘ヲ差シサイノ左側ニ並ンテ
左手ニ鳥籠ノ様ナモノヲ持ツテ」トアリ其ノ鳥籠カ本件ニ於テ如何ナル關係アルヤ檢事ハ此ノ
被告人ノ供述ヲ援用シテ自白ノ眞實ナル事ヲ力説シ辯護人ハ之ニ對シ本件ノ證據物ハ鳥籠ニア
ラスシテ被告人ノ宅ニテ押收セラレシ被告人ノ使用シ居リシ籠(證第四號)ニアラスヤ此ノ籠
カ本件ニ如何ナル關係アリヤ毫モ明カナラスト説キ此ノ關係ヲ明カナラシムルコトハ延イテハ
本件ニ於テ最モ疑ハシキ警察署ノ搜索ノ態度ヲ知ルコトヲ得ヘシト力説シタル所ナリ、而シテ
籠又ハ鳥籠カ全ク無意味ナルコト明カトナレハ警察署ノ不純ナル態度ヲ證セラレ被告人ニ對ス
ル自白ノ強要モ推知セラルルト同時ニ被告人及藤高サイノ豫審訊問調書ニ鳥籠カ問題トナリ居
ルニ其ノ鳥籠ハ如何ニ爲セシヤ等本件ニハ重大ナル問題ニシテ之ヲ明カニスルコトハ頗ル被

告人ニ有利ナリ、第三事實ノ無キコトハ岡本ハマヨハ胸部ニアラスシテ背部ヲ傘ノ上ヨリ一突刺サレタルノミノ事實ト同行者藤高サイノ供述トニ依リテ明白ニシテ此ノ點モ亦被告人ノタメ非常ニ利益ナルモノニシテ説示トシテハ當然爲ササルヲ得サル重要ナル點ナリ、然ルニ裁判長ハ斯ル被告人ノタメ最モ利益ナル點ニ關シテ説示ヲ爲サス次ニ裁判長ノ擧ケタル第一點ノ公訴事實維持ノ證據中岩崎タメ藤高サイ山本マサノ供述ハ皆同様ニハマヨカ被告人ヲ嫌疑シ居リシコトヲ證スルノミニシテ唯是レノミヲ以テハ問題トナラス如何トナレハハマヨハ密淫賣婦ナルヲ以テ物質ノタメニ情ヲ重ネ居リシ者ナレハ情交關係ノ男ノ中ニハ好惡ノ念アルモ厭ナル男ニ對シテ嫌疑ノ情ヲ表ハササレハ嫌ハレ居ルコトヲ知ラヌ者ハ平氣ナリ、而シテハマヨカ被告ヲ嫌ヒ居ルコトヲ知ラサル者ハ被告人獨リノミトナルモ本件ニハ何等關係ナケレハナリ、從テ證據中最モ重要ナルモノハ第一回豫審調書中被告人自身カハマヨニ嫌ハレ居ルコトヲ感得セル事實ノ供述ナリ、裁判長ノ摘示中被告人カハマヨニ嫌ハレ居ル頂上トモナルヘキ事實即チ自分ハ其ノ金ヲ取ラントシタルニハマヨハ足ニテ自分ノ右ノ目ヲ蹴リタル爲自分ハ目カ腫レテ十日程モ苦シミタル事アリ(起立セル者カ其ノ足ニテ起立セル者ノ目ヲ蹴リタリト云フコトノミヲ取リテ考フルモ常識ヲ以テハ想像スルコト能ハス此ノ點ハ辯論ノトキ力説シタリ)トノ部分ニ對シ詳細ニ説示シタルニ拘ラス被告人ノ法廷ニ於テ決シテ然ラス金ヲ取返サントスルハマヨノ肘カ怪我ニ目ニ當リタル旨ノ供述ニ付テハ説示ヲ爲サス是亦裁判長ハ被告人ノ利益ナル點ヲ省キタルモノナリ、次ニ裁判長ノ擧ケタル第三點ノ終リニ於テ窃盜犯人トハマヨヲ殺シタル犯人ハ同一ニシテ被告人ナリトノ檢事ノ意見ヲ肯定シ窃盜犯人ノ服裝等ヲ證明スヘキ證人富山カメノ犯人ノ着衣ハ緋ノ様ナ浴衣(證第十九號ハ緋ノ浴衣)及高下駄ニアラサル點證人高砂武士之助

ノ犯人ハ大キナ男(被告人ハ小柄ノ男ナルコト證第十九號ノ身丈ニヨリテ明カナリ)ナル點ヲ説示セス尤モ第四點ニ於テ富山カメノ供述ニ付テ説示セルモ之檢事ノ意見ニ同意シタルモノ即チ裁判長ハ窃盜犯人ト殺人犯人トハ同一ナリト豫斷ヲ以テ説示ヲ爲セルモノニシテ斯ル説示ノ違法ナルコトハ明カナリ、次ニ本件ニ於ケル殺人事件ト窃盜事件トハ別個ノ犯罪トシテ取扱ハレ窃盜事件ハ請求陪審事件ト爲シタルコト被告人ニ對シテ訴訟費用ヲ負擔セシメタルコトニ依リテモ明カナリ、故ニ説示中第三點ハ殺人事件トシテノ説示ニ屬シ其ノ外ニ於テ或ハ重複ノ嫌アルモ窃盜事件トシテハ分離シテ説示ヲ爲ササルヘカラス、然ルニ其ノ説示ヲ爲ササル故ニ窃盜犯人ヲ推知スヘキ服裝等ニ付テハ説示ヲ爲サス、偶々説示スレハ殺人事件ノ犯人ヲ推知スル個所ニ於テ爲スカ如キ不徹底ナル説示ヲ敢テ爲スニ至ル、要之裁判長ノ説示ハ被告ノタメ利益ナル事實關係ハ努メテ之ヲ避ケタリ是レニ裁判長ハ有罪ノ豫斷ヲ抱キテ説示ヲ爲シタルモノニシテ斯ル説示ハ不法ナリト云フニ在リ

(判決理由) 犯罪ノ構成ニ關シ問題ト爲ルヘキ事實ノ説示トシテ原審裁判長ノ示シタル事項ハ所論ノ如ク(一)ハマヨカ被告人ヲ嫌疑シ同人ヨリ金品ヲ受取リナカラ情交ノ要求ニ應セザリシ事實アリヤ否(二)夫レカ爲被告人カ煩悶シテ八月五日ノ深更ハマヨカ仲居ヲ爲シ居ル佐伯飲食店ニ到リ戸外ヨリハマヨノ舉動ヲ窺ヒ同人カ他ノ男ト情交セル如キ狀況ヲ認メ嫉妬憤慨ノ極ハマヨヲ殺害セント決意シタルモノナリヤ否(三)被告人ハ其ノ準備トシテ同夜高砂武士之助方店頭ヨリ七首一本ヲ窃取シタリヤ否(四)右七首ヲ携ヘテ右佐伯飲食店ヨリハマヨノ歸ルヲ追ヒ廣瀬神社鳥居前路上ニ於テ右七首ヲ以テハマヨノ背部ヲ突刺シ右肺ニ貫通セル刺傷二個ヲ加ヘ同人ヲシテ之ニ基因スル内出血ノ爲即死セシメタルヤ否ノ四點ニ亘リ本件答申ニ必要ナ

ル事項ヲ遺漏ナク包含シ且之ニ對スル證據ノ要領ヲ說示シテ毫モ不備ノ點ナキノミ
ナラス記録ヲ査スルモ罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示シタル述ナキヲ以テ原審裁判長ノ說示ニハ
所論ノ如キ違法存在セス論旨ハ理由ナシ

(上告理由) 第五點原裁判所ハ本件ヲ殺人事件ト窃盜事件トノ併合罪ナリトシテ取扱ヒタルモ
ノナレハ陪審員ノ答申ハ窃盜行為ハ否認スルモ殺人行爲ハ肯定スルコトモ有リ得ヘシ、(尤モ牽
連犯トセハ斯ル場合ヲ惹起セス) 從テ兩事件ノ關係ハ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點トナルヘ
キモノニシテ裁判所ハ之ヲ併合罪ト爲シタル以上法律上兩事件ハ全ク別個ノ犯罪トシテ取扱フ
ヘキモノニシテ決シテ牽連關係ニ於テ一罪ト見ルヘキモノニアラサル趣旨ノ說示ヲ爲ササルヘ
カラス、然ルニ此ノ點ニ於テ說示ヲ爲ササリシハ違法ナリ、若兩事件ノ關係ハ「檢事ハ右窃盜
殺人トハマヨヲ殺シタル犯人ハ同一人ニシテ被告人ナリト主張シタル意見ノ要旨ヲ告ケ其ノ點
ニ付テハ第四點ニ於テ其ノ通りニ證據關係ヲ説明スル旨ヲ告ケ」トノ說示ニ依リテ明白ニ爲シ
タルモノナリトセハ兩事件ノ關係ハ牽連關係ニアルモノノ如ク從テ牽連犯ノ性質ヲ帶ヒタル如
ク說示セルモノヲ要スルニ此ノ點ニ關シテハ極メテ曖昧ニ說示セルモノニシテ法律上ノ論點ニ
關シ不當ノ說示ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リ

(判決理由) 按スルニ陪審ノ評決スル所ハ一ニ犯罪ノ構成事實ノ存否ニ繫リ法律ノ適用ニ及ハ
サルハ勿論ニシテ本件ハ窃盜殺人被告事件ナルヲ以テ裁判長カ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點
ヲ說示スルニ當リ窃盜罪ト殺人罪トニ付其ノ說示ヲ爲シタル以上法ノ要求スル論點ト說示ニ缺
クル所ナキモノト謂フヘク其ノ牽連犯ナリヤ併合罪ナリヤノ點ニ付テハ特ニ之ヲ說示スルヲ要
セサルモノトス論旨ハ理由ナシ

(上告理由) 第六點裁判長ハ被告人及證人藤高サイノ法廷ニ於ケル供述ハ豫審ニ於ケル供述ト
差異アリトシテ此ノ點ニ於ケル說示ハ本件ニ於テ最モ重要ナルモノトシテ特ニ丁寧且ツ詳細ヲ
極メタルコト記録ニ依リテ明カニシテ其ノ豫審調書ハ明確ニ精讀セルモノナリ、即チ裁判長ハ
被告人及藤高サイノ訊問ノトキ豫審調書ヲ讀ミ聞カセテハ其ノ眞否ヲ確メ續イテ說示ノトキ此
ノ豫審調書ハ特ニ入念ニ陪審員ニ對シ讀ミ聞カセタルモノナリ、然ルニ其ノ上裁判長ハ兩人ニ
對スル豫審調書タケテ記録ヨリ取外シテ之ヲ陪審員ニ交付シタリ、之裁判長ハ陪審法第八十二
條第二項ノ「證據書類」ノ中ニハ如斯訊問調書ハ包含セサルモノナルニ其ノ解釋ヲ誤リタルモ
ノナリト信ス、蓋シ茲ニ所謂「證據書類」ニハ自ラ其ノ限界アリテ無制限ノモノニアラス、即
チ陪審員ヲ對象トシテ陪審員ニ對シ見セルニアラサレハ聽カスニ困難ナル場合又ハ聽カセタル
上見セルニアラサレハ徹底ヲ缺ク虞アル場合ニ於テ何人モ必要アリト肯定シ得ヘキ客觀的理由
アル場合ニ限ラル、而シテ其ノ場合ニ該當スヘキヤ否ヤノ判斷ハ勿論裁判長ノ專權ニ屬スト雖
訊問調書ノ如ク言葉ヲ記載セルモノ從テ聽カスニ困難ナラス又見セルニアラサレハ徹底ヲ缺ク
虞ナキコト(若シ此ノ虞アリトスレハソハ極メテ主觀的ナル理由即チ裁判長ノ說示ノ拙劣ナル
場合ニシテ署名捺印ニ至リテハ豫審調書ノ信憑力ヲ說示スレハ可ナリ)客觀的ニ定マレルモノ
ハ此ノ「證據書類」中ニ包含セサルモノナリ、從テ之ヲ交付シタル裁判長ノ行為ハ不法ナリ、
又陪審法ノ原則タル直接審理主義ノ上ヨリ見テ他ノ記録ヲ讀ミタルコトナキ陪審員ニ對シ特ニ
被告人ニ不利益ナル訊問調書ヲ記録ヨリ取外シテ讀マセタルコトハ極メテ不當ナリ、要之陪審
法第八十二條第二項ノ證據書類ノ交付ヲ許シタルハ陪審員ニ對シ「見セル」タメニシテ「讀マ
ス」タメニアラス從テ唯「讀マス」コトヲ目的トシテ交付シタルトキハ不法不當ナリ、而シテ

此ノ裁判長ノ不法不當ナル行爲ハ原判決ニ影響ヲ及ホスコト誠ニ甚大ニシテ陪審員カ「然リ」ト肯定シタリトスルモ理由一ニ此ノ點ニ繫ルト信スル理由アルヲ以テ原判決ハ破毀スヘキモノナリト信スト云フニ在リ、所論被告人及藤高サイニ對スル各豫審調書ハ本件ノ爲特ニ作成セラレタル文書ニシテ陪審法第八十二條第二項ニ所謂證據書類タルハ勿論ナルノミナラス同條項ニ「公判廷ニ於テ示シタル證據物云々」ト謂ヘルハ「公判廷ニ於テ證據調ヲ爲シタル證據物云々」ト謂フノ義ニ外ナラサルヲ以テ原審裁判長カ此等證據調ヲ經タル調書ヲ陪審員ニ交付シタルハ正當ニシテ毫モ非難スヘキ點ヲ發見セス、所論前記法條ニ所謂交付ハ見セル爲ニシテ讀マズ爲ニ非スト爲スカ如キハ却テ立法ノ精神ニ背馳スルノ解ト謂フヘク論旨ハ理由ナシ、辯護人第一點原判決ハ陪審員ニ對シ其ノ有スル常識ヲ阻却セシメテ爲シタル不法アリ(本件記録八六三枚八六四枚)ニ存在スル裁判長ノ諭告ナルモノハ刑事裁判事件トシテ世ニ出現シタル場合ニ於ケル事ヲ裁クモノノ常識ニ關スル論議ニ屬ス疑ハシキハ輕キニ從フトカ百人ノ罪ヲ遁スモ一人ノ冤罪ヲ慎メトカ又事件ヲ起ス當路者ノ往々ニシテ其ノ行爲常識ヲ失スル場合ノアル事ノ如キ皆之ニ刑事事々件ノ起リタル場合ニ於ケル當路者ノ有スヘキ常識ノ一ニシテ假令辯護人ニ於テ辯論スル事アリト雖特ニ新シキ事實ヲ陳述シタルニ非ス千年來ノ常識ヲ引用シタルニ過キサルナリ本件ヲ判斷スル上ニ於テモ斯ル常識ハ他ノ雜多ノ常識ト共ニ陪審員ノ腦中ニ伏在スルカ故ニ此ノ常識ニ依リテ事件ノ事案ニ於ケル證據ヲ採リテ事實ヲ公平ニ冷靜ニ判斷スヘキナリ、素ヨリ陪審員ハ法律的知識ヲ以テ事ヲ判スヘキモノニアラサレハ常識ハ唯一ノ判斷力ノ基ヲ爲スモノナリ、此レハ陪審制度ノ法意ナリト信ス、然ルニ原審法廷ニ於テ裁判長ハ陪審員ニ對シ前示諭告ニ依リ頻リニ此ノ常識ヲ外ニシテ事ニ當ルヘク力メタルノ形アリ此レ本法ノ精神ニ戾ル

モノニシテ破毀ヲ免レスト云フニ在リ、其ノ理由ナキコトハ辯護人上告趣意書第一點ニ對スル説明ニ依リテ之ヲ了解スヘシ、第二點其ノ他辯護人ヨリ提出シタル趣意書ハ同部ヲ採用シ重複シテ記載セスト云フニ在レトモ其ノ理由ナキコトハ各論旨ニ對スル説明ニ依リテ之ヲ知ルヘシハ然レトモ本件ノ判決ニ依リ定マリタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付職權ヲ以テ調査ヲ爲スニ刑法第五十四條第一項ハ前段ニ於テ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合同後段ニ於テ犯罪ノ手段タリ若ハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルル場合ニ付何レモ其ノ最モ重キ刑ヲ以テ處斷スヘキコトヲ規定シ其ノ規定スル所ハ通常既遂罪又ハ未遂罪ニ於テ現ハルル犯罪實行ノ状態ヲ基準トシテ或ル場合ハ其ノ前段ニ該當シ或ル場合ハ後段ニ該當スルモノトシテ之ヲ區別シ前者ハ犯人ノ爲シタル犯罪ノ實行々爲カ一行爲ニシテ數罪名ニ觸ルル場合ヲ豫想シ後者ハ犯人ノ實行シタル犯罪ノ手段タリ若ハ結果タル行爲ニシテ其ノ基本行爲ノ罪名トハ異ル他ノ罪名ニ觸ルル場合ヲ豫想シ殊ニ後者ハ犯人ノ實行シタル犯罪ノ普通ノ手段タリ若ハ當然ノ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルモノニ付之カ規定ヲ設タルモノナレトモ本件ニ於ケルカ如ク刑法上犯罪ノ豫備ヲ豫備トシテ處罰スル事案ニ付犯人カ殺人ノ目的ヲ以テ七首ヲ窃取シ窃取シタル七首ヲ使用シテ殺人ノ目的ヲ遂ケタルモノニ在テ右七首窃取ノ事實ハ適々殺人罪ノ豫備ニ該當シ殺人罪ノ豫備ハ豫備トシテ處罰セラルルモノナリト雖豫備カ一步ヲ進メテ實行ノ域ニ達シタルトキハ豫備ハ實行々爲ノ中ニ吸收セラレヘキモノナルカ故ニ右豫備ノ點ニ付テハ特ニ刑法第二百一條ノ罪名ニ觸ルルコトナキハ勿論ナルモ右殺人ノ行爲カ未タ進展セスシテ尙ホ豫備ノ程度ニ在ル時期ニ在テハ殺人豫備ト窃盜トハ一行爲數罪名ニ觸ルルモノト謂フヘク豫備ノ行爲カ進展シテ實行ト爲リ既遂ト爲リタル場合ニ及ヒ右一行爲中豫備ノ點カ實行々爲中ニ

吸收セラレタルニ拘ラス獨り窃盜行爲ノミカ之ト雖レテ獨立ノ一罪ヲ組成スヘキ謂ハレナク從テ窃盜ノ點ハ刑法第二百三十五條ノ窃盜ノ罪名ニ觸レナカラ其ノ殺人既遂行爲トノ關係ニ於テハ兩者ハ法律上一個ノ行爲トシテ刑法第九十九條ノ殺人ノ罪名ニ觸ルルト共ニ前掲窃盜ノ罪名ニ觸ルルモノト謂フヘク此ノ場合ハ刑法第五十四條第一項ノ適用ニ於テハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ其ノ前段ニ該當スルモノト謂ハサルヘカラス、然ルニ現判決ハ右窃盜ト殺人トハ刑法第四十三條前段ノ併合罪ニ該ルモノトシテ同法第九十九條所定刑中ノ有期懲役刑ヲ選擇シ之ニ法定ノ加重ヲ施シテ處斷シタルハ明カニ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ結局本件上告ハ理由アルニ歸シ此ノ點ニ於テ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノトス、右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ヲ適用シテ原判決ヲ破棄シ本院ニ於テ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトシ原判決認定ノ事實ヲ法律ニ照スモ被告人ノ行爲中窃盜ノ點ハ刑法第二百三十五條ニ殺人ノ點ハ同法第九十九條ニ該當スルトコロ右二者ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ殺人罪ノ刑ニ從ヒ同條所定刑中ノ有期懲役刑ヲ選擇シテ其ノ範圍内ニ於テ懲役八年ニ處スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條陪審法第六條第七條ヲ適用シテ陪審費用ノ三分ノ一及陪審並公判ニ於テ證人ニ支給シタル分ハ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

(殺人窃盜被告事件、四年(れ)二六號、四年五月三日大刑判決、法律新聞三〇二六號四頁)

【陪審裁判長カ自己ノ意見ヲ表示シタリヤ否ノ判斷】 原審公判調書ヲ精査スルニ裁判長ハ被告人ノ豫審ニ於ケル自白カ信スヘキヤ否ヤニ關シ一般的ニ且假定的ニ說示ヲ爲シ或ハ自白シタル本人カ白痴ナルトキ低能ナルトキ無學文盲ナルトキ又ハ自己ノ意思ヲ充分發表シ得サル者ナ

ルトキハ取調官憲カ威壓又ハ誘導ヲ爲ササルモ詰ラヌ考カラ嘘ノ自白ヲ爲ス場合アリ或ハ本人カ相當ノ教育モアリ低能テモナク他人ヨリ事實ヲ誣ラレ様トシテモ之ヲ辯解スル丈ケノ辯舌ノ持主ナラハ放火トカ殺人ノ如キ大罪ヲ身ニ覺ナクシテ申立ツル筈カナイカトモ一應考ヘレハ考ヘ得ラレヌコトモナイカト思ハレル或ハ又計畫的ニ偽ノ自白ヲ爲ス者モアルカラ之等モ自白ノ價值ヲ判斷スルニハ考慮セネハナラヌ點カトモ思ハル、本件被告人ノ自白カ果シテ信シ得ヘキヤ或ハ信シ得ヘカラサルヤ諸君ハ被告人ノ總テノ陳述辯解其ノ他證人ノ陳述並其ノ他ノ證據ニ基キ諸多ノ點ヨリ考察シテ宜敷判斷サレタキ旨ヲ說示シアリテ所論ノ如ク裁判長カ本件被告人ノ自白カ信スルニ足ル旨ヲ諷示シ自己ノ意見ヲ表示シタルモノト認ムヘキモノナシ(強盜殺人未遂被告事件四年(れ)四五〇號、四年六月六日大刑五判決、法律新聞三〇四二號九頁)

【陪審裁判長カ自己ノ意見ヲ表示シタリヤ否ノ判斷】 裁判長カ說示ニ際シ自己ノ意見ヲ表示シタリヤ否ヤハ其ノ說示ノ一部ノミヲ捉ヘテ容易ニ判斷スヘキモノニ非ス、必ス說示ノ全體ニ互リ虚心公正ニ之ヲ觀察シテ自己ノ意見ヲ表示シタルモノト解スヘキヤ否ヤヲ判斷スヘキモノトス、原審公判調書ヲ精閱スルニ裁判長ハ被害者八木孝之助ノ公廷ニ於ケル證言ト被告人ノ豫審第三回マテノ自白トハ一致スル點尠ナカラス、又之ニ反シテ一致シナイ點モアル、第一ハ犯人ノ服裝ノ點第二ハ贓物ノ行方ノ點ナル旨ヲ述ヘ被害者ノ犯人ノ服裝ニ關スル證言カ豫審ニ於テモ公判ニ於テモ相違スル點アル旨ヲ說示シ對話者カ相手方ノ服裝ニ全然無關心テ如何ナル着物什ンテ風テ居タカ氣ノ附カナカツト云フ事ハ通常ノ場合アリ得ヘカラサル様ニモ考ヘルコトカ出來ル、併シ又對話者カ田舎ノ老爺テ相手方ヲ平素熟知スル間柄ニアリテハ是マテ全然見タコトノナイ人ニ接スル場合ト異ナリ萬一ニモ或ハ相手方ノ服装着衣ニマテ特ニ注意ヲ拂ハサ

ル場合アリ得ルモノナルカ故ニ以上二様ノ場合ヲモ考慮シナケレハナラヌト思フ旨説示シアリテ所論ノ如ク裁判長カ犯人ノ服装ニ關スル被害者ノ供述ノ矛盾ハ意ニ介スル要ナキ旨説示シテ自己ノ意見ヲ表示シタルモノト解スルヲ得ス、又贓品ノ現在シタル場所(ム點)ト兇行現場ノ距離ニ關シテハ被告人カ本件ノ様ナ大罪ヲ犯シタルモノトセハ中津ニ行ク被害者ノ後姿ヲ見テカラ其ノ後ヲ追ヒツツ(ム)點ニ贓品ヲ捨テテ行ク丈心ニ餘裕カアツタテアラウカ兩地點ヲ往復スル丈ノ時間ノアリシコトハ想像ニ難カラサルモ被害者ハ何時誰ニ遇ヒ被害事實ヲ告ケヌトモ限ラナイカラ被告人カ歸ル途中ニ逮捕サルル危險モアルカト思ハルカラ此ノ點モ被告人ノ自白ヲ判斷スルニ考慮スヘキ點カト思ハル旨説示シアリテ裁判長カ所論ノ如ク豫斷ヲ抱キ陪審員ヲシテ自己ノ意見ヲ付度セシメ得ヘク意見ヲ表示シタルモノト解スルニ由ナシ、又所論中津警察署ノ係官ノ證言ニ關シテハ假リニ其ノ證言ヲ信用スルトセハ被告人ニ對シ亂暴ヲ取調ヲシタコトハナイト云ヒ得ル旨説示シアリテ裁判長カ右證言スヘシト説示シタルモノニ非ス、從テ之ニ依リ被告人ノ自白ハ眞實ナリト暗示シタルモノト解スルヲ得ス、又原審公判調書ニハ極メテ稀ニハ意識回復後直前ノ出來事ヲ忘失シ錯覺スルコトアリ得ル旨ノ記載アリテ裁判長ノ説示ト同一趣旨ナルコト明ナルノミナラス裁判長ハ被害者ノ公判以後ト豫審トノ供述ノ一致セサルハ自然ニ反スル嘘テ信用出來ヌトモ解セラルルカ鑑定人ノ鑑定ヲ信シ得ルナラハ敢テ被害者ノ供述ハ自然ニ反スル信用出來ナイモノトモ限ラヌ旨ノ説示記載アリテ裁判長カ所論ノ如ク違法ノ説示ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得ス、又本件贓品發見關係ニ關シ裁判長ハ若シ犯人カ被告人以外ノモノトスレハトシテ所論ノ如ク假定的説示ヲ爲シタルトモ又之ニ反シ犯人ハ被告人以外ノ者テアルカ頗ル慌テ居タタメ札ハ狀裝ノ中ニ入レテアツタノテ普通ノ書類タト思ヒ改メスシ

テ捨テ行ツタト解釋スルモノツノ見方テアル旨説示シアルカ故ニ所論ノ如ク被告人カ確的ニ本件犯人ナリトノ意見ヲ表示シタルモノト解スルヲ得ス(強盜殺人未遂被告事件、四年(れ)四五〇號、四年六月六日大刑五判決、法律新聞三〇四二號九頁)。

【裁判長ト犯罪構成ニ關スル法律上ノ論點ノ説示】 裁判長カ犯罪構成ニ關シ法律上ノ論點ヲ説示スルニ當リテハ論點ニ關スル學說ヲ一々説明スルノ要ナク裁判所カ正當ナリト信スル法律上ノ見解ノミニ付説示スルヲ以テ足ルモノトス、從テ裁判長カ傷害罪ハ相手方ヲ殺ス意思ナク只相手ニ暴行ヲ加フル意思ヲ以テ斬付ケ相手ニ負傷セシムルコトニ因リ成立スル旨ヲ説示シ、傷害罪ノ犯意トシテ傷害ノ結果ニ付認識ヲ要スル旨ノ學說アルコトヲ説示セサルモ何等ノ違法ナク、又本件ニ於ケル法律ノ論點トシテ裁判長ハ一般的ニ傷害罪ハ殺意ナク暴行ノ意思ヲ以テ斬付ケ負傷セシメタルトキニ成立スル旨ヲ説示シ陪審員ニ交付スル問書ニ於テ傷害ヲ加フル意思ヲ以テ創傷ヲ負ハシメタルモノナリヤトノ問ヲ記載シ兩者ノ用語ニ多少ノ相違アルコト所論ノ如クナレトモ曩ニハ一般的ニ傷害罪ノ犯意ヲ説明シ後ニハ具體的ニ本件ニ付傷害罪ノ犯意ヲ問書ニ記載シタルニ過キササルモノニシテ其ノ間犯意ノ觀念ニ付何等ノ矛盾齟齬ノ存スルモノニ非サレハ本件裁判長ノ説示及問書ノ記載ニ付所論ノ如キ違法アリト稱スルヲ得ス(尊屬殺人未遂被告事件、四年(れ)一五〇號、四年四月一日大五刑判決、法律新聞二九八二號九頁)。

【陪審裁判長ト證據要領ノ説示】 裁判長カ陪審ニ對シ證據ノ要領ヲ説示スルニ當リテ其ノ證據ノ信否ニ關シ自己ノ意見ヲ表示セサル限りハ證人ノ證言カ被告人ニ有利ナリヤ否ヤヲ告ケルコトアルモノ之單ニ證據ノ内容ヲ陪審員ニ了知セシムルニ過キササルモノニシテ陪審法第七十七條ノ所謂證據要領ノ説示トシテ何等ノ違法アルモノニアラス、サレハ原審裁判長カ所論ノ如ク證

人ノ供述ハ豫審以來公判ニ至ルマテ屢々變更セラレ其ノ供述ハ漸次被告人ニ有利ニ傾キ居ル旨又證人ノ供述カ前ト後ト其ノ内容ヲ異ニスルコトアルモ之カタメ何レノ證言モ信用シ得サルモノニ非ス、其ノ供述中何レヲ信用スヘキカハ陪審員ノ判斷スヘキモノナル旨説示シタルコトハ原審公判調書ノ記載ニ依リ之ヲ認メ得ルモ該説示ハ要スルニ豫審及公判ニ於ケル各證言ノ内容ノ如何ニ變遷セルヤヲ告ケ又各證言中何レノ證言ヲ信用スヘキヤハ陪審員ノ自由判斷ニ任カスル旨ヲ告ケタルモノニ過キスシテ説示シタル證據ノ信否ニ關シ裁判長ノ意見ヲ表示シタリト認ムヘキ事述ナク又所論「兇行」ナル語ハ本件公訴事實トシテ表示セラレタル被告人ノ連續シタル犯行ヲ約言シタリト解スヘキ被告人ニ罪責アルコトヲ暗示シタルモノニ非サルコト本件説示ノ全體ニ照シ明白ナルヲ以テ本件ニ於ケル裁判長ノ説示ハ違法ナシ(尊屬殺人未遂被告事件、四年(れ)一五〇號、四年四月一日大五刑判決、法律新聞二九八二號九頁)

【陪審裁判長ト證據説示ノ範圍】 陪審法第七十七條ニハ「前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪構成事實ニ關シ法律上ノ論點及問題トナルヘキ事實及證據ノ要領ヲ説示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ云々」ト規定シアリテ裁判長カ右説示ヲ爲スニ當リテハ檢事及辯護人被告人ヨリ其ノ主張事實ヲ立證スヘキ證據トシテ提出援用セラレタル證據ニ付テハ何レモ其ノ要旨ヲ説示セサルヘカラサルモノトス、原審公判調書ヲ閱スルニ辯護人ハ證人杉谷靜子ニ對スル豫審判事ノ訊問調書ヲ援用スト述ヘ當被告人ト同人ノ兄木本藤吉及妹木本菊枝間ノ往復文書六通ヲ提出シ援用スト述ヘタリ檢事辯護人被告人ハ右相手方ヨリ援用セル書面ヲ證據ト爲スニ付異議ナシト申述ヘタリト記載シアリテ辯護人ハ被告人ノ主張事實ヲ立證スル爲右ノ證據ヲ援用シタルコト明白ナリトス、仍テ裁判長ハ前條ノ説示ヲ爲スニ

ハ須ラク辯護人ノ援用シタル右證據ノ要領ヲ説示セサルヘカラサルモノナリトス、然ルニ原審公判調書中裁判長説示ノ部ヲ閱スルニ辯護人ノ右援用ノ證據ニ付一言半句言及スル所ナキハ結局辯護人ノ援用シタル證據ヲ遺脱シ是ニ對シ證據説示ヲ爲ササリシ違法アルモノニシテ原判決ハ此點ニ於テ破毀スヘキモノト信スト云フニ在リ、按スルニ陪審法第七十七條ニ依リ證據ノ要領ヲ説示スルニハ公判ニ於テ證據ヲ經タル證據ノ全體ヲ一團トシテ其ノ要領ヲ説示スルヲ以テ足り個々ノ證據ノ中或モノハ全然之ヲ説示セサルモノアリトスルモ説示ノ違法無効ヲ來スコトナキコトハ最近本院ノ判例トスル所ナリ(昭和四年(れ)第二六號同年五月三日宣告判決參照)而シテ裁判長ニ於テ證據ヲ説示スルニ當リテハ公判ニ於テ證據調ヲ經タル證據ノ全體ヲ一團トシテ其ノ要領ヲ逸セサル限リハ縱令檢事被告人又ハ辯護人ヨリ其ノ主張事實ヲ立證スヘキ證據トシテ援用若ハ提出シタルモノト雖之ヲ説示中ニ加ヘサルモ違法ニ非ス、原審裁判長ノ證據説示ヲ閱スルニ證據ノ要領ヲ適切ニ解シアリテ其ノ要領ヲ逸シ居ラサルコトハ記錄ニ照シ明カナルヲ以テ原審裁判長カ辯護人ヨリ援用若ハ提出シタル所論各證據ニ付全然説示ヲ爲ササリシトスルモ説示ノ違法ヲ惹起スルモノニ非ス(強盜殺人未遂事件、四年(れ)七八三號、四年一〇月一九日大三刑判決、法律新聞三〇七五號九頁)

【陪審裁判長ト證據説示ノ範圍】 上告趣意書第一點陪審法第七十七條ニハ前條ノ辯論終結後裁判長ハ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題トナルヘキ事實並ニ證據ノ要領ヲ説示シ云々ト規定シ説示ノ範圍及内容ヲ明示セリ、右ノ中證據ノ説示トハ證言ニシテ其ノ内容極メテ錯綜シ或ハ冗長ニ亘ルモノアルトキハ之ヲ簡明ニシ鑑定書記載ノ字句ニシテ信偏聲牙ナルモノアルトキハ之ヲ平易ニ釋明シ進ンテ甲ノ證據ヲ採用スルトキハ有罪トナリ乙ノ證據ヲ採用スルトキハ

無罪トナルヘキ等ヲ教示スルヲ意味シテ證據ノ判斷ヲ爲シ又ハ其ノ信否ヲ言説スルヲ許サス、證據ノ判斷ヲ爲スカ如キハ事實ノ判定ヲ爲スニ際シ爲ササルヘカラサル陪審員當然ノ職責ニシテ同時ニ其ノ心證ヲ動かスカ爲辯護人ノ辯論中ニ於テ或ハ檢事中ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナリトス、然ルニ第一審公判調書ヲ閱スルニ裁判長ノ爲シタル說示中辯護人ハ被告人カ銀行ヨリ謝罪セハ穩便ニ濟ス旨ヲ申向ケナカラ強硬ニ之ヲ拒ミテ官廳ノ取調ヲサヘ求メシハ被告人ニ其ノ反面高井イチノ自分カ被告人ノ手ヲ脱カレ戸ヲ叩キ折ヨリ被告人ノ態度豹變シテ金ヲ持歸リ吳レト述ヘシ事實アリトノ證言カ眞實ナリセハ被告人カ右ノ如ク強硬ニ言張リシハ其ノ體裁ヲ裝フ爲ニシテ銀行ヨリ言ハル儘ニ謝罪セハ其ノ謝罪ヲ逆用サレテ不利益トナラントコトヲ處レ強ヒテ謝罪セサリシモノト見得ラレサルニモアラサルナリトノ記載部分ハ明ニ證據ノ判斷ヲ爲シタルモノ而モ被告ノ不利益ニ判斷シタルモノニシテ法ノ許シタル範圍ヲ超越シタルモノト云ハサルヘカラサル同時ニ辯護人ノ辯論ヲ反駁シ檢專論告ノ追加ヲ爲シタルモノト云ハサルヘカラス、是ヲ其ノ實質ヨリ觀察スルモ裁判長ニシテ斯ル說示ヲ爲ストキハ純眞ナル陪審員ハ直ニ其ノ說示ニ誘ハレ被告ニ不利益ナル判斷ヲ爲スヤ必然ノ歸結ナリト云ハサルヘカラス、故ニ右說示ハ法ノ許シタル適法ノ說示ニアラスシテ違法ノ說示ナリ斯ル說示ニ基キテ爲シタル陪審員ノ答申亦違法ニ歸シ之ニ基キテ爲シタル判決亦違法ナリト云ハサルヘカラス原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レスト云フニ在レトモ、所論原審裁判長ノ說示ハ單ニ本件ニ付問題トナルヘキ強盜殺人未遂ノ事實ニ關シ證據ノ要領ヲ解示シ其ノ信否ニ付陪審ノ判斷ヲ求メタルニ過キスシテ所論ノ如ク證據ノ判斷ヲ爲シ之ヲ被告人ノ不利益ニ判斷シタルモノト認メ難ク從テ之

ニ基キ爲シタル陪審ノ答申並ニ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス(強盜殺人未遂事件、四年(れ)七八三號、四年一〇月一九日大三刑判決、法律新聞三〇七五號九頁)

【陪審裁判長ト刑及刑ノ量定ニ關スル法規說明ノ自由】 陪審法第七十七條ニハ刑又ハ刑ノ量定ニ關シ說示ヲ爲スヘキ旨ノ規定ナシト雖陪審員ヨリ說明ヲ要求スルト否トニ拘ラス裁判長カ陪審員ヲシテ事實ノ答申ヲ誤ラシメサル爲必要アリト認ムル場合ニハ罪責ノ有無ニ關シ其ノ意見ヲ表示セサル限リ陪審員ニ對シ刑及刑ノ量定ニ關スル法規ノ說明ヲ爲スコトハ法ノ禁止スル所ニ非スト解スルヲ相當トス、原審公判調書ノ記載ニ依レハ裁判長ハ本件說示ニ際シ普通ノ殺人罪及尊屬親殺人罪ノ刑並其ノ未遂減輕及酌量減輕等ノ場合ニ付法律上ノ說明ヲ爲シ且刑ノ量定ハ裁判官カ各種ノ事情ヲ參酌シテ之ヲ爲スモノナレハ陪審員ハ刑ニ願慮スルコトナク事實ヲ事實トシテ答申スヘキ旨ヲ告ケタルモノニシテ其ノ說明ナルヤ刑及刑ノ量定ニ關スル法規ノ一般の説明ニ過キスシテ本件被告人ノ罪責ニ關シ其ノ意見ヲ表示シタリト認ムヘキ又ハ被告人ノ行爲ヲ殺人未遂トシテ答申スヘキ旨ヲ示唆シタリト認ムヘキ何等ノ形跡ナキカ故ニ本件ニ於ケル裁判長ノ說示ハ陪審法第四百四條第五號ニ該當スルモノニ非ス(尊屬殺人未遂被告事件、四年(れ)一五〇號、四年四月一日大五刑判決、法律新聞二九八二號九頁)

第七十九條 裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラズト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲スモノトス
補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

陪審法 陪審手續 公判手續及公判ノ裁判 (七九條)

犯罪ノ成立ヲ阻却スル理由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ間ハ他ノ間ト分別シテ之ヲ爲スヘシ

【陪審求答手續ノ當否】 原判決ハ公判手續ニ違法アルモノニシテ破毀セラルヘキモノナリ陪審法第七九條ハ裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラスト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シ本條ハ陪審員カ答申ヲ爲スニアタリ裁判長ノ問カ何ニ解釋スヘキヤニ付疑ヲ差シ狹ミ結果陪審員各自カ問書ノ趣旨ヲ別々ニ解釋シ然リ又ハ然ラスト爲ス場合アリトナサンカ陪審員ノ眞意ヲ知ルコトヲ得ス爲ニ陪審法ノ趣旨ニ反スルコトヲ豫想シ其ノ裁判長ノ問ハ法律家ニアラサル者ト云ヘトモ何人モヨク之ヲ了得シ得ヘキモノタルヤ明ニシテ假ニ法律家ノミカ解シ得ルカ如キ所謂法律熟語又ハ如何ニ解釋シ得ヘキカニ付疑問ヲ差狹ム如キ文言ヲモ之ヲ禁シタル旨ヲ含ミタル趣旨ニシテ前審ニ於ケル裁判長ノ問ニ第一事實ニ付補問(一)中彈丸カ同人ニ當ルヘキコトヲ知リ乍ラ同人ヲ殺害スヘキコトヲ知ラスシテ發射シタル爲第二事實ニ付主問ニ前記同一文言第三事實ニ付主問ニ同一文言ハ明ニ法律家ノ用語ニシテ法律家ノミカヨク解釋シ得ルモノニシテ陪審員中解釋ヲ誤ルノ虞レナシトセス彼ノ如キ文言ヲ使用シタルハ明ニ陪審法第七九條ノ趣旨ニ反セルモノニシテ違法タルヤ明ナリト云フニ在リ、本件記録中原審裁判長カ陪審ニ交付シタル問書ヲ閱スルニ孰レモ所論ノ如ク第一事實ニ付補問(一)中彈丸カ同人ニ當ルヘキコトヲ知リ乍ラ同人ヲ殺害スヘキコトヲ知ラスシテ發射シタル爲第二事實ニ付主問ニ前記同一文言第三事實ニ付主問ニ右同一文言ノ記載アリテ右記載ノ趣旨ハ孰レモ被告ハ彈丸カ他人ニ命中スヘシト思ヒタルモ死亡スヘシトハ考ヘスシテ發射シタルノ意ニ外ナラサルヲ以テ苟モ三十歳以上ノ男子ニシテ讀ミ書キヲ爲シ得ル程度ノ陪審員ナルニ

於テハ何人ト雖法律上ノ智識ヲ要セスシテ其ノ意義ヲ了解シ得ヘキ通俗的文言ニ過キスシテ之カ解釋ヲ誤ルカ如キ虞アルコトナク直ニ之ニ對シ無條件ニ然リ又ハ然ラスト答ヘ得ヘキモノナルコト明ナレハ原審裁判長カ問書ニ所論ノ如キ文言ヲ使用シタルモ陪審法第七九條ノ趣旨ニ反スル違法アルコトナシ(殺人、殺人未遂傷害被告事件、四年(れ)五四一號、四年六月二五(日)大(刑)判決、法律新聞三〇〇五號一〇頁)

【陪審ト主問】 豫審終結決定書ヲ査閱スルニ同決定書ニハ所論ノ如キ記載アリテ其ノ趣旨ハ被告人ハかつヲ昏醉セシメ金品ヲ盜取セント企テ之カ實行ニ着手シタルモかつニ於テ意識ヲ回復シタル爲其ノ目的ヲ遂クルコト能ハサリシヨリ更ニ同人ヲ絞殺シ金品ヲ奪取セント決意シ之カ實行々爲ヲ爲シタルモ殺害ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリト謂フニ在リテ所論ノ如ク強盜ノ罪跡ヲ蔽ハンカ爲殺人ノ決意ヲ爲シタリトノ趣旨ニアラサルコト右決定ノ全趣旨ニ徴シ毫モ疑ヲ容レズ、然ラハかつヲ昏醉セシメテ金品ヲ盜取セントシテ遂ケサリシ行爲ハ別罪ヲ構成スルコトナク後ノ行爲ト共ニ單一ナル強盜殺人未遂罪ヲ構成スヘキモノナレハ本件ニ於テ公判ニ付セラレタル犯罪事實ハ單一ナル強盜殺人未遂罪ナリト謂ハサルヘカラス、而シテ陪審法第七九條第二項ニ依レハ裁判長カ陪審員ニ對シ發スル主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成要素ニ屬スル事實ノ有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲スヘキモノナレハ本件ニ於テハ單一強盜殺人未遂罪ノ構成要素ニ屬スル事實ノ有無ニ付主問ヲ發スレハ足り爾餘ノ附隨的事實ノ如キハ陪審ノ評議ニ付スル必要ナキモノナリ、然ラハ原審裁判長カ所論ノ如キ主問ヲ發シ陪審ノ評議ニ付シタルハ正當ニシテ毫モ違法ノ點ナシ(強盜殺人未遂被告事件、四年(れ)五二五號、四年六月二四(日)大(刑)判決、法律新聞三〇五六號一二頁)

第八十三條 陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議ヲ了ル前評議室ヲ出テ又ハ他人ト交通スルコトヲ得ス

陪審員ニ非サル者ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室ニ入ルコトヲ得ス

【補充陪審員ノ權限】 陪審法第三十條ハ陪審ハ檢事被告事件ヲ陳述スル時ヨリ裁判所書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同一陪審員ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ要ストアリ、同法第三十一條第一項ニ裁判長ハ事件二日以上引續キ開廷ヲ要スト思料スルトキハ十二人ノ陪審員ノ外一人又ハ數人ノ補充陪審員ヲ公判ニ立會ハシムルコトヲ得、同第二項ニハ補充陪審員ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ之ニ代ルモノトストアルヲ以テ法カ補充陪審員ヲ設ケタルハ叙上ノ事由發生シタル場合ニ同陪審員ヲシテ即時陪審構成員ニ代ラシメ公判手續ノ進行ニ支障ヲ生スルコトナキヲ期スルニ在ルコト明ナリ、故ニ補充陪審員ハ他ノ陪審員ト共ニ宣誓ヲ爲シ公判ニ立會フハ勿論裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人其ノ他陪審法第七十條第二項所定ノ人々ヲ訊問スルコトヲ得ヘシ、但シ裁判長ノ交付シタル問書ニ對スル答申ハ陪審構成員ニ限り之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ補充陪審員ト雖裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室ニ入ルコトヲ得サルモノトス、原審公判調書ヲ査閱スルニ所論藤本槌作ハ補充陪審員ニ充テラレ宣誓ヲ爲シ公判ニ立會ヒ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人ヲ訊問シタルコト明ナルモ是レ固ヨリ適法ノ行爲ニシテ之ニ對シ批議ヲ容サス、而シテ右槌作力他ノ陪審員ト共ニ評議室ニ入り答申ノ評議ニ參與シタルカ如キ事蹟ハ同調書ニ依リテハ之ヲ認め難キヲ以テ斯ル事蹟ノ存スルモノト解シ原判決ヲ批難スル論旨ハ當ラス (放火未遂事件、四年(れ)一〇三九號、四年一〇月二九日大四刑判決、法律新聞三〇八五號一二頁)

第九十六條

陪審犯罪構成事實ヲ肯定スルノ答申ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所前條ノ決定ヲ爲ササトキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

【陪審答申後ニ於ケル犯罪ノ情狀ニ關スル訊問並證據調】 陪審裁判手續ニ於ケル犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上ノ訊問及證據調ハ裁判長カ陪審員ニ對シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ其ノ答申ヲ命スル以前ニ完了スルコトヲ要スト雖刑ノ量定ニ必要ナル犯罪ノ情狀ニ關スル事實上ノ訊問並證據調ノ如キハ必スシモ陪審ノ答申前ニ爲スコトヲ要セス、其ノ答申後所謂第二次ノ辯論前ニ此ノ點ニ關スル訊問並證據調ヲ爲スヲ妨ケス、蓋シ犯罪ノ情狀ノ如キハ陪審ノ答申スヘキ犯罪構成事實ノ有無ニハ毫モ影響ナキモノト解スヘケレハナリ、然リ而シテ原審公判調書ヲ閱スルニ其ノ第一回公判ニ於テ裁判長ハ被告人ニ對シ本件犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上ノ訊問並證據調ヲ完了シタル後陪審ニ對シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ其ノ答申ヲ命シタルコト明カニシテ同第二回公判ニ於ケル裁判長ノ被告人ノ訊問及證人木本藤吉ノ證據調ハ孰レモ犯罪ノ情狀ニ關スル事實ノ訊問並證據調ニ外ナラスシテ犯罪構成事實ニ關スル訊問並證據調ニ非サルヲ以テ原審裁判手續ニハ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス (強盜殺人未遂事件、四年(れ)七八三號 四年一〇月一九日大三刑判決、法律新聞三〇七五號九頁)

【陪審答申後ノ辯論ニ於ケル犯罪成立阻却ノ事實上ノ主張ノ能否】 原審公判調書中辯護人ノ陳述シタル意見ヲ記載シタル部分ヲ査スルニ「本件公訴事實ノ有無ニ付テハ陪審ノ答申ヲ採擇セラレタルモノナル故遺憾ナルモ致方ナシ併シナカラ右認定セラレタル通り事實ナリトセハ被

告人ノ本件所爲ハ夢遊病者又ハ狂人ノ行爲トモ評スヘキ程ノモノニシテ重ク罰スルノ要ナキヲ以テ刑ノ減免アリタシ云々トアリテ其ノ趣旨ハ被告人ハ本件犯行ノ當時心神ヲ喪失シタル者ナリト云フニ歸スルモノトス、斯ル法律上ノ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事實上ノ主張ハ陪審ノ答申後ノ辯論ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ之ニ對シ判斷ヲ與フルノ要ナシ(放火未遂被告事件、四年(れ)一〇三九號、四年一〇月二九日大四刑判決、法律新聞三〇八五號一二頁)

第三節 上 訴

第三百三條 上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ事實ノ誤認ヲ理由トシル場合ハ此ノ限ニ在ラス

【陪審事件ト上告理由】 本件ハ陪審事件ニシテ原審ハ陪審ノ答申ヲ採擇シ事實ノ判斷ヲ爲シ以テ判決ヲ言渡シタルコトハ一件記録ニ徵シテ明カナリ、而シテ陪審事件ノ判決ニ對シテハ事實ノ誤認ヲ理由トシテ上告ヲ爲スコトヲ得サルコトハ陪審法第三百三條但書ノ規定スルトコロナリ、然ルニ所論ハ原審カ被告ノ所爲ヲ殺人ノ事實ナリト認定シタルニ對シ自殺幫助ノ事實ナリト主張スルモノニシテ畢竟原審ノ事實誤認ヲ主張シテ原判決ヲ批難スルモノニ外ナラサルヲ以テ叙上ノ法條ニ依リ上告適法ノ理由タラス(殺人被告事件、四年(れ)六九六號、四年九月三日大刑判決、法律新聞三〇三一號一一頁)

【利益提出不告知ノ違法】 刑事訴訟法第三百四十七條第二項ニ於テ裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益トナルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告知ヲ爲スヘシト規定セル所以ハ被告人ヲ

シテ公判審理中其ノ利益トナルヘキ證據ヲ自由ニ提出スルコトヲ得セシメ因テ以テ被告人ヲシテ自己ノ辯護權ヲ完全ニ行使スルコトヲ得セシムルノ趣旨ニ外ナラサルヲ以テ被告人ニ對スル裁判長ノ該告知ハ公判廷ニ於ケル審理手續中重要ナル事項ニ屬シ之ニ違背スルトキハ其ノ審理手續ニ重大ナル違法アルヲ免レサルモノトス、然リ而シテ該手續ハ陪審裁判ニ於テ特ニ之ヲ遵守スルヲ要セスト爲スヘキ法律上ノ根據存セサルヲ以テ陪審法第三百三條ニ依リ右手續上ノ違法ハ陪審裁判ニ於テモ等シク上告ノ理由ト爲スコトヲ得ルモノトス(衆議院議員選舉法違反被告事件四年(れ)八五六號、四年一〇月八日大刑判決、法律新聞三〇六四號九頁)

第四百四條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

- 一 法律ニ從ヒ陪審ヲ構成セザリシトキ
- 二 第十二條第一項第一號又ハ第十三條ノ規定ニ依リ陪審員タルコトヲ得サル者評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘザリシトキハ此ノ限ニ在ラス
- 三 法律ニ依リ職務ヲ執行ヨリ除斥セラルヘキ陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ第六十二條第三項ノ申立ヲ爲サザリシトキハ此ノ限ニ在ラス
- 四 忌避セラレタル陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘザリシトキハ此ノ限ニ在ラス
- 五 裁判長ノ説示法律ニ違反シタルトキ
- 六 裁判長證據トシテ説示シタルモノノ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノナルトキ
- 七 裁判長法律上ノ論點ニ關シ不當ノ説示ヲ爲シタルトキ

【陪審ノ答申ヲ採擇シテ爲シタル判決ニ對スル上告】 第三點裁判長ハ原審公判廷ニ於テ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關スル説示ヲ爲スニ際シ被告人カ保證證書ヲ外出ノ際持チ居リタリト云フ

カ證書カ最モ新シキ故疑ハルル旨説示セラレタルモ東京動産保險ノ證書ハ五月二十五六日頃被告カ受取りタルモノナルノミナラス被告ノ如キ獨身者カ外出ノ際大切ナル證書類ヲ持チ外出スルハ當然ナレハ右説示ハ不當ナリト云ヒ、第四點裁判長ハ同説示ノ際被告人カ九人橋ヨリ半鐘ノ亂打ヲ聞キ我家ニ駈ケ付ケ家ノ内ニ入ルコトカ出來タルカ證人魚住由太郎ノ供述ニ依ルト疑ハルル旨説示セラレタルモ半鐘亂打ノ時期等ノ事實ハ證人稻垣松太郎等ノ供述ニ依リ明ニシテ右説示モ不當ナリト云ヒ、第五點裁判長ノ前同一説示及檢事ノ論告中ニ被告人カ七月六日ニ東京動産保險支部ニ保險料ヲ納メタル事及他ノ支拂ヲ爲サスシテ保險料ヲ納メタル事ハ疑フニ足ルト論セラレタルモ毎月五日ニ菊野理作カ保險料ノ集金ニ來リタルニ六日ノ午後ニ至ルモ來ラズ豫テ料金ノ拂込ハ嚴格ナル取扱ト聞キ居タル故納メタル次第ニテ何等疑フニ足ラスト云ヒ、第六點檢事ハ原審公判廷ニ於テ被告人カ七月六日ノ夜石動町ニ種卵ヲ買ヒニ行クト稱シ家ヲ出テ同町ニ行カス翌朝歸宅シタルコトハ疑フニ十分ナリト論告セラレタルモ被告人ハ豫審及公判廷ニ於テ申立テタル如ク汽車ノ時間ナカリシ爲石動町ニ行ク能ハスシテ津幡地方ニテ卵ヲ買ハント思ヒ直ニ自轉車ニテ津幡ノ姉ノ家ニ行キ一泊シ翌朝自動車ニテ歸宅セシコトハ證人竹本茂三郎、中田弘ノ證言ニ依リ明カニシテ檢事ノ論告ハ不當ナリト云ヒ、第七點檢事ハ被告人カ七日ノ夜家ヲ出テ吉田すず方ニ行キ居リタルコトハ甚タ疑フニ十分ナリト論告セラレタルモ豫審及公判廷ニ於テ申立テタル如ク被告人ハ七日朝歸宅後雇人申立ハ不明確ナルノミナラス動産保險加入ハ被等ノ動作ニ憤怒シ終日空シク暮シタ食後醉餘吉田すず方ニ行キタル次第ニシテ何等疑フニ足ラサル事實ナリト云ヒ、第八點檢事ハ被告人カ六月初頃保險勸誘員菊野理作カ集金ニ來リタル際何處カ燒ケテモ金カ取レルカト申シタル事ハ疑フニ足ルト論告セラレタルモ被告人ニ於テ斯ル

言ヲ申シタリトスルモ疑フニ足ラスト思料スト云ヒ、第九點檢事ハ被告人カ七月七日ノ晚九時頃ニ今村直人ト兩名ニテ鶏ヲ三籠ニ入レ安全地帯ニ持チ出シアリタル點ハ今村直人ノ申立ニ依リ明カナル故疑フニ十分ナリト論告セラレタルモ此ノ點モ被告人ノ申立ノ如ク多數ノ鶏ヲ鳴カサスニ取り出スコトハ不可能ナルヲ以テ右論旨ハ不當ナリト云ヒ、第十點檢事ハ被告カ動産保險ニ加入シタル事及加入物品ナキニ拘ラス僞リテ加入シタル事ハ證人ノ供述ニ依リ甚タ疑フニ十分ナリト論告セラレタルモ證人寺田直人等ノ申立ハ不明確ナルノミナラス動産保險加入ハ被告カ進ンテ加入シタルモノニ非スシテ菊野等ノ勸メニ依リ加入シタルモノナレハ此ノ點ノ論告モ不當ナリト云ヒ、第十一點檢事ハ被告人カ放火前ニ中川外次郎宅ニ品物ヲ同人ニ携ヘシメテ取出シタル事實明カナル故疑フニ十分ナリト論告セラレタルモ被告人カ申立テタル如ク被告ノ留守中ニ外次郎カ持出シタル事ハ今村直人ノ申立ニ依リ明ナレハ此ノ點モ疑フニ足ラスト云ヒ、第十二點檢事ハ被告人カ七月七日ノ朝歸宅シ中川外次郎及今村直人カ放火ヲ實行セサル故非常ニ立腹シ外次郎ヲ再ヒ我家ニ出入スルコトヲ禁スルトテ追出シタル事ハ右兩名ノ申立ニ依リ明カナル故疑フニ十分ナリト論告セラレタルモ實際被告人カ放火ノ相談ヲ爲シ其ノ實行ヲ兩名ニ依頼シタリトセハ兩名ヲ優遇シ決行ノ機ヲ待ツヘキカ當然ニシテ兩名ヲ追出ス如キ事實ヲ爲ス筈ナシ右兩名間ニハ外次郎カ實行シ能ハサレハ直人カ實行スル相談アリタル事明カナリト云ヒ、第十三點檢事ハ外次郎ノ窃盜又ハ詐欺ノ最初ノ取調ハ七月十九日ニシテ被告等ノ事件ノ後ナレハ外次郎ノ陳述ハ正直ナル申立ナリ又外次郎カ放火ノ相談ニ與リタル點ハ事實ナルモ被告人カ七日ノ朝ニ至リ外次郎ニ於テ放火ヲ實行セサル故追出シタル爲放火罪ヲ犯スコトヲ免レタリト論告セラレタルモ被告人ハ同月二十日ノ午後ニ至リ放火事件ノ最初ノ取調ヲ受ケタルモ

ノナルコトハ檢事ノ調書ニ明カナリト云ヒ、第十四點檢事ハ被告人カ甚タ貧乏致シ居リタル故
 放火シタルカ如ク度々論告セラレタルモ被告人ノ事業關係ヨリ見ルモ將タ實兄ノ生活狀態上ヨ
 リスルモ甚タ不當ナル論告ナリト云ヒ、第十五點檢事ハ被告等三名ノ身許ニ付被告人ハ最モ惡
 人ニシテ被告人カ放火ヲ勸メタルコトカ事實ナリト論告セラレタルモ被告人ハ斯ル惡事ヲ爲ス
 者ニ非スト云ヒ、第十六點原審法廷ニ於テ相被告今村直人ノ辯護人ハ被告人カ七日ノ晚吉田
 才方ヲ出テ主計町ニ行クト申シテ行キタルカ被告人ノ僞ナリ金澤全般ノ遊廓ハ十二時以後ハ法
 令ニ依リ遊興ヲ禁セラレアルヲ以テ被告人ノ申立ハ甚タ不明ニシテ疑フニ十分ナリト辯論セラ
 レタルモ十二時以後ト雖遊興セシメ居ルヲ以テ右辯論ハ不當ナリト云フニ在リ

(判決理由) 按スルニ陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ裁判
 長ノ説示ニ關シ陪審法第百四條第五號乃至第七號ノ如キ事由アル場合ニハ之ヲ以テ上告ノ理由
 ト爲シ得ルコト同法條ノ明規スルトコロナリト雖同法及刑事訴訟法ヲ通覽スルモ檢事若ハ原審
 相被告辯護人意見ノ陳述ヲ云爲シ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ許容シタル法規一モ存セサルヲ
 以テ斯ル事由ニ依リテハ上告ヲ爲シ得サルモノト謂ハサルヘカラス、然リ而シテ原審第二回公
 判調書中裁判長ノ説示ノ部ヲ閱スルニ裁判長カ論旨第三點乃至第五點ニ掲記ノ如キ説示ヲ爲シ
 タルコトノ記載ナキヲ以テ斯ル説示ナカリシモノト認ムルノ外ナク、而シテ論旨第五點乃至第
 十五點ハ檢事ノ意見ニ付又論旨第十六點ハ原審相被告辯護人ノ意見ニ付夫々云爲スルモノニシ
 テ斯ル理由ハ冒頭説示ノ理由ニ依リ之ヲ上告ノ理由ト爲シ得サルモノナルヲ以テ以上各論旨ハ
 孰レモ其ノ理由ナシ(放火被告事件四年(れ)一二三號、四年四月六日大三利判決、法律新聞二九八二號

諸

法

諸法目次

衆議院議員選舉法

第四章 選舉、投票及投票所

第二十三條

○投票所開始時刻ノ遅延ト選舉效力……………一

第五章 開票及開票所

第五十二條

○投票效力ノ事實認定……………二

○句點ト他事記入……………四

第十章 選舉運動

第九十六條

○推薦狀ニ加名勸誘ト選舉違反……………六

○選舉運動ト行爲ノ適法違法……………八

○法定ノ選舉運動者ニ非サル者ノ利益供與……………八

諸法目次

行爲ト刑五四條……………九

○立候補前ノ選舉運動ト選舉違反……………一〇

第九十七條

○法定ノ選舉運動者ニ非サル者ト報酬……………一〇

第九十八條

○衆選九八條ニ所謂戶別訪問罪ノ成立……………一一

第十二章 罰則

第一百十二條

○衆選一一二條第一號ニ所謂選舉運動者ノ

解……………一二

○衆選一一二條第二號ノ利害關係誘導罪ノ

成立要件……………一三

○衆選一一二條第四號犯罪ノ成立……………一三

○選舉運動ノ報酬ト金額ノ多少……………一四

○法定ノ選舉運動者ニ非サル者ノ利益供與

行爲ト刑五四條……………一五

第一百五條

○衆選一一五條三號ニ所謂「利害關係」ノ解……………二五

第二百二十七條

○投票偽造罪ノ成立……………二七

第二百二十九條

○法定ノ選舉運動者ニ非サル者ノ利益供與

行爲ト刑五四條……………二〇

衆議院議員選舉法施行令

第十三條

○投票所ノ相當ナル設備……………二二

共通法

第三條

○奉祀者タル朝鮮人男ト内地人女戸主トノ

入夫婚姻……………三

○内鮮人ノ婚姻ト入籍シ得サル家族ノ一家

創立……………二二

○共通法ノ適用ト婚姻養子縁組届……………二四

行政裁判法

第二章 行政裁判所權限

第十七條

○適法手續違背ノ行政訴訟……………二五

○地方下級廳ノ處分ト直接行政訴訟……………二六

○町村稅滯納處分ト直接行政訴訟提起……………二六

○出訴期間經過後ノ行政訴訟……………二九

○出訴期間經過後提起ノ行政訴訟……………二九

第二十七條

○北海道廳ノ漁業免許場所ト行政訴訟……………三〇

○土地ヲ收用シ得ル事業ノ認定ト行政訴訟……………三〇

○處刑名義取消ト行政訴訟……………三三

○他人ニ對スル町稅賦課ノ取消ト行政訴訟……………三三

○土地區劃整理組合設立認可ニ對スル行政

訴訟……………三三

訴願法

第八條

○期間經過後ノ訴願……………四〇

○特別都市計画法六條ノ處分ニ對スル訴願

提起期間ノ起算點……………四〇

府縣制

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第六條

○住所ノ有無事實認定……………四三

○家資分散宣告後復權セサル者ハ府縣會議

員被選舉權ナシ……………四六

○住所存否ノ事實認定……………四六

第九條

○御料地ヲ民有地ニ更正ト行政訴訟……………元

○豫備役ヨリ現役ヘノ復職請求ト行政訴訟

ノ能否……………元

○選任決議無效ノ場合ト訴ノ適否……………元

○會社代表員トシテ訴ヲ提起セル取締役ノ

行政訴訟……………元

○道路改修請求ト行政訴訟……………元

○市道等工事促進ノ請求ト行政訴訟……………元

○府縣制一一五條ニ違背シテ提起サレタル

行政訴訟……………元

○町村制一一〇條ニ依ル異議及行政訴訟……………元

○選舉人名簿ノ失效ト該名簿登錄ニ關スル

行政訴訟……………元

○町村稅賦課ト町村會ノ出訴權ノ有無……………元

○代理權ナキ訴訟代理人ノ提起セル行政訴

訟ト效力及費用負擔者……………元

○理由ヲ附セサル裁決取消請求ト容否……………元

○出訴期間滿了後ト訴狀表示ノ被告變更ノ

能否……………元

○分級ノ選舉人名簿ト其抄本ノ調製……………五〇
 ○府縣制三六條一項ノ再選舉人名簿……………五〇
 第三十四條

○期間滿了日カ大祭祝日、日曜其他休日ナ
 ル場合ト異議申立期間……………五二

第五章 府縣ノ財務

第一款 財産營造物及府縣稅

第三百三條

○所得稅附加稅賦課ノ客體及課率……………五二

第三百六條

○縣稅附加處分ノ確定ト滯納處分……………五二

第六章 府縣行政ノ監督

第二百二十八條

○期間經過後爲シタル府縣稅賦課異議申立
 ト宥恕受理……………五三

市制

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第二十五條

○選舉權アル者ノ投票拒否ト選舉規定ノ違
 反……………五四

第三十五條

○選舉規定ノ違反ト選舉無效ノ關係……………五五

第六章 市ノ財務

第一款 財産營造物及市稅

第一百七七條

○所得稅附加稅及營業收益稅附加稅賦課ノ
 客體及課率……………五五

○附加稅ノ納稅義務發生時期及課率……………五六

第二款 歲入出豫算及決算

第三百三十四條

○課率ヲ豫算ヲ以テ定メサル市稅附加稅ノ
 賦課……………五七

都市計畫法

第五條

○東京市長ノ土地區劃整理處分……………五九
 ○代執行ト都市計畫法二六條ノ處分……………五九

特別都市計畫法

第六條

○土地區劃整理ニ依ル移轉命令取消ノ行政
 訴訟ノ能否……………六一

町村制

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十五條

○町村ニ對スル請負關係ト當選ノ效力……………五三

第二十二條

○無記名投票ノ趣旨ニ反スル無効ノ投票……………五三

第二十五條

○投票效力ノ事實認定……………五四

第三十二條

○候補者ノ制度ナキ町村議選舉……………五五

第三十三條

○當選ト無効投票トノ關係……………五六
 ○無効投票ト當選ニ異動ヲ生スル處アリヤ
 否ノ判定……………五七
 ○町村制三二條ニ所謂選舉ノ規定ノ解……………五七

○町村議選舉ノ效力ニ關シ異議申立ト訴願ノ主張事由ノ範圍ノ廣狹……………六
 ○町村制三二條第一項ニ所謂選舉人ノ解……………六

第二款 職務權限

第三十九條

○決定附議ノ日ノ記載ノ不實ト町村會決定書ノ效力……………六
 ○町會ノ決定ト效力ノ發生……………六

第四十七條

○急施事件ナリヤ否ノ認定……………六
 ○不急事件ヲ急施事件トシ村會ヲ招集シ助役及收入役選定ノ違法……………七
 ○村長ト議案ヲ急施事件ト認ムヘキヤ否ノ自由裁量……………七

第四十八條

○町村制四八條但書ノ解……………七

第三章 町村吏員

第一款 組織選舉及任免

第六十三條

○町村長ノ選舉期日……………七
 ○町村制六三條六項ニ所謂町村長職ニ在ラサルトキノ町村長ノ解……………七
 ○町村公民カ他町村ノ有給助役ナル場合ト公民權……………七

第二款 職務權限

第七十二條

○町村長ト議案ノ發案權……………七

第七十四條

○町村制四七條三項ニ反シ又七四條一項ニ該當スル議決ト監督官廳ノ取消處分……………七
 ○町村長選舉力取消サレタル場合ト當選者ノ町村長タル資格……………七

第七十八條

○收入役ト町村稅滯納處分……………七

第五章 町村ノ財務

第一款 財産營造物及町村稅

第一百條

○町稅督促狀送達ノ存否事實認定……………七
 ○町稅賦課ニ付直接縣參事會ニ訴願ノ能否……………七

第一百一條

○滯納稅金額ニ相違アル場合ト滯納處分……………七
 ○異議申立中ノ滯納處分ノ適否……………七
 ○滯納處分ノ有無ニ關スル事實認定……………七
 ○權利傷害ノ存否ト公賣處分ノ取消請求……………八
 ○基本タル町村稅ノ取消ト滯納處分ノ效力……………八

第八章 町村ノ監督

第一百四十條

○町村制一四〇條一項ニ所謂決定アリタル日及訴願期間ノ起算……………八
 ○町村制一四〇條一項ニ所謂處分決定アリ……………八

タル日ノ解……………八

○不動産差押ヲ受ケタル者ノ訴願期間ノ起算……………八

○町村稅滯納處分ニ對スル訴願提起期間……………八

○期間經過後提起ノ訴願……………八

○町村制中改正法律附則ニ所謂總選舉ノ解……………八

改正前ノ町村制

第十八條

○選舉人名簿縱覽期間ニ對スル異議ト申立期間……………八

○供覽セサル選舉人名簿ト效力……………八

第八十條

○收入役ヲ代理スヘキ吏員ニ非サル町村吏員ト稅金受領權限……………八

法例

第十條

○領事裁判地域ト不動産取得ノ第三者對抗要件……………七

裁判所構成法

第二條

○住職任命無効確認ノ訴ト司法裁判所ノ管轄權……………八九

○外國ニ對スル民事訴訟ト裁判權……………八九

○電話官廳ノ處分ニ對スル不服ト民事裁判所ノ管轄權……………九二

○普通水利組合ノ設置ト組合員ノ用水權……………九二

浦和裁判所代書人ニ關スル

內規

○地方裁判所長ト司法代書人認可願拒否ノ

適意……………三

特許法

第一條

○硫酸亞鉛ノ製法カ新規ナル工業的發明ナリヤト審理不盡理由不備……………四

第十六條

○特許法一六條代理人ノ爲ス上告ト期間ノ計算……………四

第八十四條

○特許權利範圍確認事件繫屬中ノ特許權讓渡ト當事者適格……………九五

第一百條

○特許審判ト唯一ノ證據方法却下ノ當否……………九七

第一百三條

○特許法一一三條ノ法意……………九八

第一百四十七條

○舊特許法ニ依ル特許ノ實施……………一〇〇

實用新案法

第一條

○實用新案ノ類似認定……………一〇一

○實用新案ノ類似認定ニ付主張誤解又ハ理由不備……………一〇二

第三條

○實用新案權ト類否判定……………一〇三

○除草機構造上ノ差異ト審理不盡理由不備……………一〇四

第十一條

○實用新案權ノ低觸ト許諾ノ要否……………一〇五

第二十六條

○實用新案法二六條ノ法意……………一〇六

商標法

第二條

諸法目次

○商標組成ノ主要部分ノ類似ト商標ノ類似認定……………一〇七

○商標ノ類似認定……………一〇〇

○商標類似認定ニ付實驗則ノ違背又ハ理由不備……………一一

○適法登録ニ付商品ノ混同誤認ヲ生スル虞アリヤ否ノ決定時期……………一二

○世人ヲ欺瞞スル虞アル商標……………一六

第七條

○商標無効審決確定前ノ商標專用行使ノ權利侵害ノ存否……………二七

第八條

○商標法八條ノ解……………二八

第十五條

○商標法一五條ノ「附記又ハ變更ヲ爲シテ登録商標ヲ使用シタルトキ」ノ解……………三〇

○商標法一五條ニ依ル商標ノ取消……………三三

第二十二條

○登録商標無効事件ト共同審判請求ノ許否……………三三

○同一若ハ類似商標ノ登録無效ヲ請求シ得ル利害關係人ノ範圍……………一三三

商標法施行規則

第十六條

○審判請求ノ目的タル權利ノ承繼ト審判請求書ノ訂正……………一三四

計理士法

第一條

○計理士法一條ニ所謂會計ニ關スル整理ノ解……………一三〇

明治三十九年三重縣令

二五號

○三重縣令二五號ニ所謂財産上ノ紛議ニ關

與ノ解……………一三〇
○三重縣令二五號一項但書ノ解……………一三二

出版法

第三條

○官廳資本家ニ對スル反抗懲罰ノ文書ト出版法三條……………一三三

第二十四條

醫師法

第十一條

○齒科醫ノ口蓋扁桃腺炎治療ト醫師法違反……………一三四

齒科醫師法

第十一條

○金冠、金際齒嵌入ト齒科醫術……………一三六

獸醫師法

第六條

○他人ニ對スル債務不拂ト獸醫師ノ應招義務……………一三七

藥劑師法

第十一條

○藥劑師ノ毒藥劇藥調劑ノ責任……………一三九
○處方箋使用期間ノ記載……………一四〇

鍼術灸術營業取締規則

第十二條

○味噌灸施術ト鍼術灸術營業取締規則……………一四〇

工場法

第十九條

○工場管理人ト工場法ノ適用……………一四四

大正十三年內務省令第三十六號勞働者募集取締令

第四條

○就業場外ニ於ケル應募者ノ引率行爲ト勞働者募集令違反……………一四六

傳染病豫防法

第三條

○他市町村傳染病患者ノ治療ト費用負擔者……………一四八

古物商取締法

第一條 ○古物商ト新物賣買……………一五

阿片法

第三條 ○阿片法三條ニ所謂阿片ノ授受……………一五

大正九年內務省令第四十一號

第二條 ○大正九年內務省令四一號違反罪ノ組成物
件ト沒收……………一五

國有財產法

第二條 ○神社社地ノ成立及存續……………一五
第四條 ○公用財産ト民法時效ノ適用……………一五

第十條 ○國有財産ノ境界査定ト事由及方法……………一六

國有土地森林原野下戻法

第一條 ○飛彈山林ト官民有認定……………一七

土地收用法

第七條 ○土地收用法七條ニ所謂土地ニ關スル所有
權以外ノ權利……………一六
第三十五條 ○期限附權利ト土地收用法ニ依ル收用……………一六
○土地收用裁決ノ失效ト新申請ニ基ク收用
裁決……………一五
第四十七條 ○國道新設ノ爲ニスル土地收用補償金請求

ノ相手方……………一五

○國道新設ニ依ル土地收用ト補償額ノ認
定……………一六

○收用補償額ノ認定……………一六

○土地ノ一部收用ノ爲殘地ニ損害發生ノ有
無……………一七

第五十三條

○軌道新設ニ因ル土地收用ト騒音及俯瞰防
止障壁設備補償ノ要否……………一七

第八十二條

○國道新設ニ因ル土地收用補償額不服ノ訴
ノ當事者……………一七

○抵當土地ノ收用ト所有者ノ補償金額請求
ノ正否……………一七

公有水面埋立法

第三條

○公有水面埋立ノ免許……………一七

第三十九條

○公有水面埋立法三九條一號ノ解……………一七

鑛業法

第三十二條

○石炭試掘願ノ許可ト公益侵害有無ノ事實
認定……………一七

森林法

第八十三條

○森林法八三條後段犯罪ノ成立……………一八

漁業法

第五十八條

○免許漁場外ノ漁業ト無免許漁業……………一八四

大正十三年北海道廳令第九

十九號北海道漁業取締規則

第十三條

○海ト河トノ漁場間ノ距離ト北海道漁業取

締規則一三條……………一八五

○海水ノ浸入浜上ノ程度ト海陸分界ノ決定一八五

郵便法

第二十三條

○郵便物カ居所ニ配達セラレタル場合ト受

取拒否ノ制裁……………一八七

電氣事業法

第三條

○逓信大臣ト電氣事業經營ノ可否權限……………一八八

地方鐵道法

第十四條

○地方鐵道法一四條ノ期限伸長申請ニ對ス

特設電話規則

第二十六條

○開通後五年未經過ノ特設電話ト讓渡ノ可

銀行條例

第六條

○銀行ノ營業時間ノ延長及時間外取引ノ效

力……………一九四

無盡業法

第六條

○營業區域外ニ於ケル無盡契約ノ效力……………一九九

取引所法

第十四條

○米穀取引員ノ身元保證金ノ補充金ノ性質二〇〇

度量衡法

第十六條

○自作農產物ノ路上販賣ト營業範圍……………二〇三

恩給法

第九十條

○恩給法施行前ノ軍人教育職員ノ在職年ト

南千住退隱料條例

○退隱料請求ノ容否……………二〇五

家祿賞典祿處分法

○家祿賞典祿處分法一條ニ所謂政府ノ命令

ニ依リ定リタル祿高……………二〇六

○祿高ノ改正後ト舊祿高ノ復歸ノ有無……………二〇六

○膳所藩ノ祿制改正……………二〇六

○膳所藩ノ歸田法廢止ト復籍ノ存否……………二〇七

○立藩中藩主ノ祿制改正……………二〇七

○明治五年大政官布告一二六號ノ適用……………二〇八

○證據ナキ家祿不足額ノ請求……………二〇八

○大藏省指令カ同事務省程違反ノ場合ト效

國稅徵收法

- 第三條 ○納税人ノ債權者ト國稅ニ對スル優先權主張ノ要件……………三〇
- 第十條 ○督促狀ノ指定期限前ト差押命令ノ條件付發付……………三〇
- 第十一條 ○動機ノ如何ト差押處分ノ效力……………三〇
- 第十四條 ○滯納處分ト證券ノ携帶及提示……………三一
- 第十四條 ○國稅徵收法十四條ノ解……………三一

國稅徵收法施行規則

- 第十六條 ○差押執行吏員タル資格ノ不記入ト差押調

書ノ效力……………三三

○差押ノ適否……………三三

○差押調書ノ差押財産表示方……………三三

第十七條 ○差押物件ノ解除通知書ト作製者……………三三

○滯納税金即納ノ申出ヲ排シタル差押ト適否……………三三

印紙稅法

- 第四條 ○集金郵便ニ付シタル現金受領證書ト印紙稅法違反……………三四
- 代理店ヨリノ送金ニ對シ發スル入金通知書ト印紙稅……………三六

所得稅法

第六條

第八十一條 ○事業年度期間變更存否ノ認定……………三〇

關稅法

第七十五條

○無免許者カ他人名義ヲ使用シ輸入貨物取扱業ヲ經營中ノ關稅逋脫ト擬律……………三三

第八十二條ノ二

第八十三條

○關稅逋脫ノ責任者ト追徵金算定ノ標準……………三四

織物消費稅法

第一條ノ二

○綿ト「ラミー」ヲ交織シタル織物ト課稅……………三四〇

大正十五年法律第二十四

號地方稅ニ關スル件

○會社合併ニ當リ受入純資産ノ對價トシテ交付シタル價額カ受入純資産價額ヲ超過スル場合超過所得ノ基礎タル資本金計算方……………三八

第十四條

○山林所得ノ算出……………三三

○所得稅法一四條一項五號但書該當例……………三三

○執達吏ノ書記料ト所得稅法ニ所謂收入……………三三

○合名會社員カ持分拂戻トシテ受ケタル不動産ノ價格ト認定……………三四

第二十二條ノ二

○普通所得金額留保ニ付正當ノ理由アル場合ト所得稅法二一條ノ二ノ適用……………三六

第二十五條

○所得稅法一六條一項ノ控除ヲ受クル條件……………三六

第五十九條

○所得金額決定通知書ノ配達ト受領拒絕……………三七

第七十三條ノ二

○勞務出資者ノ給料ト會社ノ損益……………三六

第二十五條

- 大正十五年法律二四號二五條ノ解……………二四三
- 大正一五年法律二四號二五條ノ解……………二四三
- 資産ノ狀況ニ依ル配當額算定ノ違法……………二四四
- 資産額及所得額ノ認定……………二四五
- 資産賦課額ノ相當ナル場合ト資産額及賦課率ノ議決……………二四六
- 所得額及資産ノ事實認定……………二四七
- 戸數割賦課額ノ資産狀況ニ依ル配當額算定ノ違反……………二四八
- 資産ノ具體的調査ノ有無ト戸數割賦課ノ效力……………二五一
- 納稅義務者ノ實力ニ相應セサル賦課……………二五二
- 恩給ト戸數割賦課ノ標準タル資産額……………二五三
- 違法ナル所得額算定……………二五五
- 恩給ト違法ナル戸數割賦課……………二五七
- 恩給ト違法ナル戸數割賦課……………二五七

地方稅制限ニ關スル法律

第二條

○地方稅制限法二條一項ニ所謂營業稅ヲ納ムル者ノ營業ノ解……………二五九

新潟縣稅賦課規則

○不動產取得稅課稅標準タル土地及建物ノ時價ノ解……………二六二

神戸市稅特別稅ノ條例

○神戸市稅特別稅條例七條ノ解……………二六三

諸法

衆議院議員選舉法

第四章 選舉、投票及ヒ投票所

第二十三條 投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

【投票所開始時刻ノ遅延ト選舉效力】 衆議院議員選舉法第二十三條ニハ投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツト規定セルヲ以テ叙上投票所開始時刻ノ遅延ハ一見同條ニ違反スルモノナルカ如キ觀アリ、然レトモ同法カ右ノ如ク規定セル所以ノモノハ選舉人ヲシテ右時間内各其ノ便宜トスル時ニ於テ投票スルコトヲ得セシメ以テ成ル可ク投票ヲ爲サシメント企圖シタルモノニ外ナラサルカ故ニ何等カ爲ニスル所アリテ故意ニ投票時間ヲ伸長短縮スルカ如キ選舉ノ自由公正ヲ阻害シタル場合ハ同條ノ違反タルヘキモ何等選舉ノ自由公正ヲ阻害シタル事實ナキニ於テハ縱令投票所ノ開始時刻カ多少遅延シタレハトテ之カ爲直ニ同條ニ違反セルモノトシテ之ニ基ク選舉ヲ無効ト爲スヘキニ非スト解スヘキモノトス、然リ而シテ證人松宮五佐松、松岡幸吉、山口博造ノ各證言及成立ニ争ナキ乙第一號證乃至第四號證及乙第五號證中成立ニ争ナキ部分ニ依レハ朝來村投票所開始ノ時刻カ四十五分ヲ遅延シタルハ投票立會人カ定刻ニ參會セサリシ爲之カ選任ノ手續ヲ爲シ其ノ立會アルマテニ右ノ時間ヲ要シタルニ基因シ尙右開始時刻ノ遅延シタルカ爲ニ棄權シタルモノ一人モナク同村ニ於ケル棄權者四十七名ハ總テ他ノ事由ニ因リ棄權

衆議院議員選舉法 選舉、投票及投票所 (二三條)

シタルモノナルコト明ナルカ故ニ同投票所ノ開始時刻ノ遅延セルカ爲ニ何等選舉ノ自由公正ヲ阻害シタルカ如キ事實ナカリシモノト認定ス、甲第一號證及第二號證中此ノ點ニ關スル記載ハ之ヲ信用セス、其ノ他右認定ヲ覆スヘキ何等ノ證據ナシ、然ラハ朝來村ノ選舉ハ前記法條ニ違反セサルモノト爲スヘク從テ之ヲ無効トスヘキモノニ非サルヲ以テ本訴原告ノ請求中其ノ無効宣告ヲ求ムル部分ハ之ヲ排斥スヘキモノトス(衆議院議員選舉ノ效力ニ關スル異議ノ訴、三年(フ)九號三年一月二十九日大民判決、法律新聞二九四九號六頁)

第五章 開票及開票所

第五十二條一項 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 二 議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 四 被選舉權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位・職業・身分・住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 六 議員候補者ノ氏名ヲ自書セサルモノ
- 七 議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカヲ確認シ難キモノ
- 八 衆議院議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

【投票效力ノ事實認定】 昭和三年二月二十日執行セラレタル衆議院議員ノ總選舉ニ際シ原告及被告ハ孰レモ青森縣第一區ヨリ之カ候補者ニ立チタル處選舉ノ結果原告ハ一萬四千三百八票被告ハ一萬四千三百七十七票ノ有效得票アリタリトシテ被告カ當選者トナリタルコトハ當事者間

ニ争ナキ所ナリ、仍テ先ツ被告ノ抗辯ニ係ル原告ノ得票中ニハ原告ノ氏名「北山一郎」ノ「郎」ノ作りノ右側ニ故意ニ黒點ヲ加ヘタルモノ二百十二票アリ又「北山一郎」ナル文字ヲ記載シタル投票ノ各所ニ故意ニ黒點其ノ他ノモノヲ記入シタルモノ五十票アリ更ニ「北山一郎」ノ「郎」ノ作りノ右側ニ故意ニ黒點ヲ附記シ其ノ他各所ニ所謂他事ノ記載アリト認ムヘキモノ百八十四票アリトノ點ニ付「被告」ノ答辯中(二)(三)(七)成立ニ争ナキ乙第三號證及同第四號證ノ追加中ソレソレ被告ノ指摘スル各投票ヲ檢スルニ、ソレソレ被告抗辯ノ如ク黒點其ノ他ノ記入存シ而モ此等ノ記入ハ概ネ同一ノ位置ニ在ル事實ニ徴シ右ハ筆勢又ハ筆癖等ノ爲ニ非ス若ハ句點ノ類ニ非スシテ何等カノ意義ヲ表示スル爲ニ故意ニ叙上ノ如キ記入ヲ爲スニ至リタルモノニ係リ即衆議院議員選舉法第五十二條第一項第五號ニ所謂議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノトアルニ該當スルモノト認ムルヲ相當トス、從テ右三口合計四百四十六票ハ全ク無効ナリト謂ハサル可カラス、次ニ被告ノ抗辯ニ係ル原告ノ得票中「一ロー」又ハ「一ロ一」ト記載アルモノノ内百九十三票ハ選舉人ノ自書セシモノニ非ストノ點ニ付(被告)ノ答辯中(十一)(十二)(十三)ニ該當ス)被告ノ指摘スル各投票(鑑定申請書附屬鑑定目的物投票證據番號目錄中乙第五號證ニ關スル分トシテ指摘セル各番號ノ投票)ヲ檢シ尙鑑定人伊木壽一、岩橋小彌太、同高柳光壽ノ各鑑定ノ結果ヲ參酌シ審按スルニ叙上各投票ノ間ニ於テ其ノ記載セル文字ノ形態大サ及各字間ノ間隔等略ホ相似タルモノ比較的多數ナルト何等筆力ノ認メ得ヘキモノナキ等ノ事實ニ徴シ其ノ内百九十二票(乙第五號證ノ追加中「二一三七號」ヲ除ク)ハ孰レモ選舉人ノ自書シタルモノニ非スシテ寧ロ字型若ハ原字ニ基キ之ヲ描寫表示シタルモノト認ムルヲ相當トス、然レトモ乙第五號證ノ追加中「二一三七號」ノ投票ハ「北山一郎」ト記載シアリテ文字拙劣ナ

ルモ右ハ選舉人ノ自書シタルモノト認ム、以上説明シタル所ニヨリ四百四十六票及百九十二票ヲ合計シタル六百三十八票ハ無効投票ナルニヨリ原告ノ有効得票中ヨリ之ヲ控除セサル可カラズ、然リ而シテ今假ニ原告ノ有効得票數及被告ノ得票ヨリ控除スヘキ票數ニ關スル原告ノ主張ヲ全部眞實ナリトシテ兩者ノ得票數ヲ比較スルニ原告ノ有効得票數一萬四千三百五十三票ヨリ前記六百三十八票ヲ控除シタル残りハ一萬三千七百十五票トナルコト算數上明ニシテ右ハ被告ノ有効得票數一萬四千三百七十七票ヨリ原告ヲ控除スヘキモノナリト主張スル五百票ヲ減シタル一萬三千八百七十七票ヨリ少キコト百二票ニシテ即被告ハ原告ヨリ多數ノ得票アリタルモノナルニヨリ當選者ナルコト勿論ナルヲ以テ原告ノ本訴請求ハ既ニ此ノ點ニ於テ失當ナリト謂ハサル可カラズ(當選ノ效力ニ關スル異議事件、三年(フ)一號、四年七月二十五日大ニ民判決、法律新聞三〇一〇號五頁)

【句點ト他事記入】 甲第一號證(選舉會ニ於テ無効トシタルモノ)ノ一票ハ字畫不整ナルモ「飛田忠」ト判讀スルヲ得ルカ故ニ之ヲ同人ニ對スル有効投票ト爲スヘク同第二號證(選舉會ニ於テ飛田忠ニ對スル有効投票トシタルモノ)中其ノ二十三及三十一ハ字形、配列、墨色、筆勢等ニ微シ型ニ據リ描出シタルモノト認ムヘク其ノ二十九ノ末尾ノ墨痕ハ句點ニシテ他事ヲ記載シタルモノト爲スヘキニ由リ右三票ハ之ヲ無効ト爲スヘキモ其ノ他ハ文字拙劣ニシテ誤字、脱字等アルモ其ノ記載ノ全體ヨリ見且議員候補者中他ニ類似ノ氏名ノ者ナキニ微シ飛田忠ヲ選舉シタルモノト認ムルニ足ルモノ、音符若クハ敬稱ヲ附記シ又ハ書損若クハ汚染アルニ過キサシタルモノト爲スヘク甲第三號證(選舉會ニ於テ瀨谷司之介ニ對スル有効投票トシタルモノ)中其ノ二十ノ末尾ノ墨痕ハ句點ニシテ他事ヲ記載シタルモノト爲スヘク其ノ

三十七ハ字形、配列、墨色、筆勢等ニ微シ型ニ據リ描出シタルモノト認ムヘキニ由リ右ハ之ヲ無効ト爲スヘキモ、其ノ他ハ文字拙劣ニシテ誤字、脱字等アルモ其ノ記載ノ全體ヨリ見且議員候補者中他ニ類似ノ氏名ノ者ナキニ微シ瀨谷司之介ヲ選舉シタルモノト認ムルニ足ルモノ又ハ「介」字ノ筆勢ノ餘打點ヲ附シ敬稱ヲ附記シ若クハ書損アルニ過キサシタルモノニシテ何レモ之ヲ有効ト爲スヘク、同第二號證(選舉會ニ於テ飛田忠ニ對スル有効投票トシタルモノ)中其ノ四及三十ノ末尾ノ墨痕ノ句點並ニ其ノ二十四ノ右側ノ黑線ハ他事ヲ記載シタルモノト爲スヘキニ由リ右三票ハ之ヲ無効ト爲スヘキモ、其ノ他ハ「忠」字ノ一畫ヲ書シ音符、振假名若クハ敬稱ヲ附記シ又ハ書損若クハ汚染アルニ過キサシタルモノニシテ、何レモ之ヲ有効ト爲スヘキモノナリ、而シテ以上ノ有効又ハ無効ト爲スヘキ投票ヲ加除スルノ結果瀨谷司之介ノ有効得票數ハ二千七百九十九票ニシテ飛田忠ノ有効得票數ハ二千七百八十票ナルカ故ニ瀨谷司之介ハ其ノ當選ヲ失フコトナク從テ之ヲ有効トシタル被告ノ決定ハ正當ナリ(茨城縣會議員選舉當選異議申立ニ對スル決定取消ノ訴、二年三〇四號、四年四月二二日行政三判決、法律新聞三〇二一號一二頁)

第十章 選舉運動

第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラス

【推薦狀ニ加名勸誘ト選舉違反】 本件控訴事實ハ「被告人等ハ何レモ民政黨佐賀縣支部ノ幹部ナルモ法定選舉運動者ニアラサルニ拘ラス昭和三年二月四日同日二十日施行ノ衆議院議員總選舉ニ佐賀縣第一區ヨリ立候補シタル福田五郎ノ當選ヲ得セシムル目的ヲ以テ同候補者ノ爲メ推薦狀ヲ發送セムトスルニ當リ同候補者ノ地盤ナル佐賀市及佐賀縣内各町村ノ有志者ニ對シ右推薦狀ニ連名方ノ諾否ヲ求ムル往復端書ヲ郵送セムコトヲ共謀シ、其翌五日市部ノ五十枚ニハ被告人豊増龍次郎、船津常六、牟田文吉郎、若林嘉逸及鴨打龜一郎、永倉義晴ノ連名ヲ又郡部ノ分三百枚ニハ被告人本村善太郎、納富嘉太郎、吉武一郎、田中直一、坂井一太及古賀健達連名ニテ今回ノ衆議院議員選舉ニ立候補シタル福田五郎ノ推薦狀ヲ發送スルニ就テハ右推薦狀ニ連名方承諾アリ度キ旨印刷シタル三百五十枚ノ往復端書ヲ作成シ之レヲ佐賀市西魚町小部松一郎外三十餘名佐賀郡東與賀村塚原藤二郎外同郡内各町村二百數十名ノ各有志者ニ郵便ニ付シテ配付シ以テ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ」ト云フニ在リ、仍テ案スルニ右事實ハ證據ニ基キ略之レヲ認定スルニ足ルト雖モ被告人等ノ該所爲ハ何等衆議院議員選舉法ノ罰則ニ違反スルモノニアラス、抑同法第九十六條ニ依レハ推薦狀ニ因ル選舉運動ハ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非ラサルモノト雖モ之レヲ爲シ得ヘキコト明カナルヲ以テ或ル人ヲ議員候補

者トシテ推薦スルニ際リ其推薦狀ヲ配布スルニ先チ之ヲ作成スル行爲ハ勿論特定ノ人ヲ議員候補者トシテ推薦スルニ付他人ニ對シ單ニ推薦狀ニ加名センコトヲ勸誘スル行爲ノ如キモ亦推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ至ルヘキ過程ノ準備行爲ニ屬シ假令其行爲カ進展スルモ結局推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ至ルニ過キサルモノナレハ均シク法ノ禁スルトコロニ非スト解セサルヲ得ス、蓋シ多數ノ者カ推薦狀ニ因ル選舉運動ヲ爲スニハ先ツ同志相謀リテ推薦者タルヘキ者ヲ確定シ然ル後推薦狀ヲ作成シ以テ其運動ヲ爲スニ至ルコト普通ノ順序ナレハ推薦狀加名勸誘ノ如キハ推薦狀ヲ確定スルニ付キ要スル準備行爲ニ過キスシテ當然推薦狀ニ因ル選舉運動中ニ包含セラルヘキ適法ノ行爲ナレハナリ、翻テ本件ヲ觀察スルニ被告人等ノ發送シタル加名勸誘ノ往復端書ニ依レハ議員候補者福田五郎ノ人格學識ヲ賞揚シ議員最適任者ナリトシ之ヲ貴村内各有權者ニ推薦シ度キニ付キ推薦狀ニ加名ヲ願フ旨記載シタルニ止マリ單ナル推薦狀加名方ノ勸誘ニ過キス即チ上叙推薦狀配付ノ一準備行爲ニ屬シ何等違法性ヲ有スルモノニ非ラサルカ故ニ本件起訴ノ事實ハ罪トナラサルモノトス、然ルニ第一審判決ハ被告人等カ右加名方勸誘ノ端書ヲ有權者ニ郵送シ旁々同人等ニ福田五郎ニ投票スヘキコトヲ依頼シタル事實アリトシ以テ前示選舉法第九十六條ニ問擬シタリト雖右端書郵送ノ事實自體ノミニテハ前說示ノ如ク單ナル加名ノ勸誘タルニ止マリ、未タ以テ投票依頼ノ事實存スルモノト謂フヲ得ス、假ニ被告人等ノ内心ニ於テ右加名勸誘ノ端書ヲ有權者ニ送付シ因テ福田候補者ノ爲メニ投票ヲ得シムル目的ヲ包藏シタリトスルモ推薦狀ニ因ル選舉運動ハ其宛名人ニ對シ被推薦者ノ爲ニ投票ヲ依賴スル目的ヲ以テ爲スモノナルカ故ニ其準備過程ニ過キサル推薦狀加名ノ勸誘狀ヲ發送スルニ際リ同一目的ニ出テタリトスルモ是ヨリ一步進ミタル推薦狀ニ因ル運動カ何人モ自由ニ爲シ得ル處ナルニ

拘ハラス獨リ夫レヨリ以下ノ加名勸誘狀ニヨル場合ヲ禁スヘキ理由ナク況ンヤ推薦狀ナルモノハ法律上何等ノ形式ナク被告等ノ發送シタル該勸誘狀ハ事實上ノ推薦狀トモ看做シ得ヘキ趣旨ナルヲ以テ推薦狀ノ表題ナシトスルモノレヲ一ノ推薦狀ト認メ得ヘキニ於テヲヤ故ニ斯ル行為ハ推薦狀ニ因ル選舉運動行為中ニ當然包含セラルルモノト解スルハ寧ロ選舉法ノ精神ニ合致シ法理ニ照シ條理ニ鑑ミ何等之レヲ禁止スヘキ事理ナキモノト謂ハサルヘカラス、而モ被告人等ノ加名勸誘狀ノ發送カ投票依頼ノ目的ニ出テタリトノ點ニ付キ何等證明ナキ本件ニ於テハ第一審判決ノ認定ハ全然不當ナリトス、只均シク加名勸誘狀ノ配付ニ付テモ其ノ勸誘者カ投票依頼ノ目的ヲ以テ選舉人個々ニ面接シ又ハ戶別訪問ノ上該勸誘狀ヲ交付シタルカ如キ場合ニ於テハ選舉法第九十八條ニ抵觸スルカ爲ニ處罰セラルルニ過キス、之レヲ以テ本件ニ當行スルヲ得サルヤ勿論ナリ、要之法定選舉運動者ニ非サル被告人等カ推薦狀ノ發送ニ先チ選舉人ニ對シ推薦狀ニ加名方勸誘ノ端書ヲ發送シタル行為カ選舉法第九十六條ノ違反ナリトノ本件公訴ハ罪トナラサルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十二條ニ則リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス (衆議院議員選舉法違反被告事件、四年一月二四日佐賀地方裁判所刑事部判決、法律新聞二九四六號七頁)

【選舉運動ト行爲ノ適法違法】 議員候補者ヲ當選セシムル目的ヲ以テ、選舉有權者ニ對シ投票ヲ求メントスル行爲ハ其ノ行爲ノ適法ナルト違法ナルトニ論ナク總テ之ヲ選舉運動ト謂フヘク從テ法定ノ選舉運動員ニ非スシテ選舉有權者ニ對スル投票ノ買収及ヒ投票ノ勸誘ヲ爲スカ如キハ固ヨリ選舉運動ニ外ナラサレハ、原審カ所論事實ヲ認定シテ被告ニ對シ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一號第三號ノ外、同法第一百二十九條第九十六條刑法第五十四條第一項前段ヲ適用處斷シタルハ正當ナリ (選舉法違反被告事件、三年(レ)一五七一號、三年一月三〇日大一刑判決、法律

新聞二九四九號一二頁)

【法定ノ選舉運動者ニ非サル者ノ利益供與行爲ト刑五四條】 衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂選舉運動トハ、議員候補者ノ爲ニ當選ヲ斡旋スル一切ノ行爲ヲ云フモノニシテ、同條ハ其ノ選舉運動タル行爲ノ適法ナル場合タルト違法ナル場合タルトヲ問ハス、苟モ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員等法定ノ資格ヲ有セサル者カ選舉運動ヲ爲スニ於テハ總テ之ヲ禁止スルモノニ外ナラス、同法第九十六條及第二百二十九條ノ罪ハ同法第九十六條ニ規定セル法定ノ選舉運動ヲ爲スノ資格ナキコトヲ以テ其ノ構成要素トシ利益ノ供與等ニ依リ選舉界ヲ腐敗セシムルコトヲ構成要素ト爲サス、同法第一百二十二條ハ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢物品其ノ他財産上ノ利益ノ供與其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲スカ如キ法定ノ方法ニ依ル特定ノ選舉運動ヲ爲スヲ以テ其ノ構成要素トシ、行爲者カ選舉運動ヲ爲スノ法定資格ナキコトヲ構成要素ト爲サス、斯ノ如ク同法第九十六條及第二百二十九條所定ノ犯罪ト同法第一百二十二條所定ノ犯罪トハ上記各別異ノ構成要素ヲ有シ、前者ノ處罰規定ト後者ノ處罰規定トハ相互ノ間ニ普通法規特別法規ノ關係ヲ有スルコトナシ、故ニ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ル法定ノ資格ヲ有セサル者カ選舉人又ハ選舉運動者ニ金錢ヲ供與スルカ如キ行爲ヲ爲スニ於テハ、同法第一百二十二條違反罪ト第二百二十九條違反罪トノ所謂想像的競合罪ヲ構成スルヤ論ヲ俟タス、原判決ノ判示スル所ハ被告人ハ法定ノ選舉運動者ニアラサルニ拘ラス選舉人數名ニ投票報酬及運動報酬トシテ金錢ヲ供與シ右選舉人ニ投票及選舉運動ヲ依頼シタリトノ趣旨ニ在ルヲ以テ原判決カ之ニ對シテ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條第一百二十九條第四號刑法第五十四條第一項ヲ適用シタル旨判示シタルハ正當ナリ (衆議院議員選舉法違反被告事件、四年一月二五日大一刑判決、法律新聞二九五號九

頁)

【立候補前ノ選舉運動ト選舉違反】 衆議院議員候補者タラムトスル者ト雖立候補届出前ニ在テハ未タ其ノ資格ヲ有セス從テ前記第九十六條所定ノ議員候補者ニ該當セサルコト言フ俟タサレハ原判決ニ於テ被告人カ議員候補者トシテ届出ヲ爲ス以前既ニ戶別訪問其ノ他ノ選舉運動ヲ爲シタル事實ヲ認メテ以テ法定ノ選舉運動者ニ非スシテ選舉運動ヲ爲シタルモノナル旨判示シ衆議院議員選舉法第九十六條ノ違反トシテ處斷シタルハ正當ナリ (衆議院議員選舉違反被告事件、四年(レ)五一三號、四年六月一二日大三刑判決、法律新聞三〇一一號七頁)

第九十七條 選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食物、船車馬等ノ供給又ハ旅費、宿泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受ケルコトヲ得演說又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者其ノ運動ヲ爲スニ付亦同シ

選舉事務員ハ選舉運動ヲ爲スニ付報酬ヲ受ケルコトヲ得

【法定ノ選舉運動者ニ非サル者ト報酬】 原判決ノ認メタル事實ハ被告人傳四郎ハ判示衆議院議員選舉ニ付判示ノ日時場所ニ於テ候補者大野敬吉ヲ當選セシムル目的ヲ以テ同人ノ選舉委員タル岡本松太郎ニ對シ自己ノ有スル投票ハ勿論他ノ選舉人ノ有スル投票ヲモ取纏メ同候補者ニ投票セシムヘク盡力スヘキ旨申込ミ之ニ對スル報酬ヲ要求シ因テ右松太郎ヨリ被告人ノ投票ニ對スル報酬ト他人ノ投票取纏ニ盡力スヘキ運動ノ報酬トヲ合シ現金三十圓ノ供與ヲ受ケタリト云フニ在リテ、之ニ依レハ被告人ハ候補者ヨリハ勿論選舉事務長ニ依リテ選任セラレタル選舉委員又ハ選舉事務員ニ非スシテ判示ノ運動報酬ヲ受ケタルモノナルコト判文上極メテ明瞭ニシテ原判文中ニ選舉運動者タル被告人傳四郎ト在ルハ畢竟被告人傳四郎ハ選舉事務長ノ選任ニ依

リタル選舉運動者ニ非スシテ單ニ事實上ノ選舉運動者タルコトヲ判示セルニ過キサルモノト解スルヲ得ヘシ、然リ而シテ衆議院議員選舉法第九十七條第二項ニ於テ選舉運動ノ報酬ヲ受ケ得ル選舉事務員トハ選舉事務長ニ依リテ選任セラレタル選舉事務員ヲ指稱スルモノニシテ選舉事務長ノ選任セサル選舉運動者ハ其ノ選舉委員タルト事務員タルトニ論ナク總テ報酬ヲ受ケルヲ得サルモノナルコト同法第一百十二條第一號第四號ニ照シ明白ナリ (衆議院議員選舉法罰則違反被告事件、三年(レ)一一七一號、三年九月二五日大一刑判決、法律新聞二九四八號九頁)

第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戶別訪問ヲ爲スコトヲ得ス何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

【衆選九八條ニ所謂戶別訪問罪ノ成立】 衆議院議員選舉法第九十八條ニ所謂戶別訪問ニハ不特定多數者訪問ハ其ノ條件ニアラサルノミナラス原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告良吉ハ昭和三年八月十日施行ノ北海道會議員選舉ニ際シ議員候補者ト爲リ被告又吉ハ其ノ選舉委員タリシトコロ被告良吉ハ投票ヲ得ル目的ヲ以テ被告又吉ヲシテ己ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ連續シテ同年七月二十一、二十二日ノ兩日ニ互リ網走郡網走町大字藻琴村濤沸村選舉有權者向井清吉外五名ノ住所ヲ訪問シタリト云フニ在リテ右事實ハ其ノ引用ニ係ル證據ニ依リ之ヲ證明スルニ足り原判決ニハ被告等カ數名ノ選舉有權者ニ對シ連續シテ戶別訪問ヲ爲シタル事實理由並ニ證據説明ニ缺クル所ナク所論ノ如キ理由不備ノ點ナキヲ以テ論旨理由ナシ (北海道會議員選舉罰則違反被告事件、三年(レ)一七五一號、三年二月二一日大一刑判決、法律新聞二九六九號一二頁)

第十二章 罰 則

第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
- 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ
- 四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ
- 五 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

【衆選一一二條一號ニ所謂選舉運動者ノ解】 衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ニ所謂選舉運動者トハ獨リ現ニ選舉運動ニ從事シ若クハ選舉運動ヲ爲サンコトノ請託ヲ受ケ之ヲ承諾シタル者ノミナラス其ノ請託ヲ受ケ之ヲ拒絕シタル者ヲモ指稱スト解スヘキヲ正當トスルカ故ニ、

原判決カ被告人ニ於テ南湖農事改良組合長タル三橋喜三郎ニ對シ磯崎縣會議員候補者ノ爲同組合員ノ投票方勸誘ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金圓供與ノ申込ヲ爲シタル旨判示セル以上三橋喜三郎ニ於テ右請託ニ應セザリシ事實アリトスルモ叙上被告人ノ行爲ヲ前記法條ニ問擬處斷シタルハ正當ナリ(縣會議員選舉罰則違反被告事件、四年(レ)五〇九號、四年六月二日大四刑判決、法律新聞三〇三九號九頁)

【衆選一一二條第二號ノ利害關係誘導罪ノ成立要件】 衆議院議員選舉法第一百十二條第二號所定ノ利害關係ノ誘導罪ハ本來利害關係ヲ利用シテ誘導ノ申込ヲ爲シタルトキハ相手方ニ於テ之ニ應シタルト否トヲ問ハス其ノ申込ト同時ニ誘導罪ハ成立シ偶相手方ニ於テ之ニ應シタルトキハ其ノ相手方ニ付キ誘導ニ應シタルノ罪ハ成立スルニ過キスシテ其ノ之ニ應セサルトキモ誘導罪ノ成立ニ影響ナク從テ亦相手方ニ於テ豫メ其ノ誘導ニ應スルノ決意アリタルト否トヲ問フヲ要セス (村會議員選舉罰則違反被告事件、四年(レ)一〇四七號、四年一〇月三十一日大二刑判決、法律新聞三〇八五號一四頁)

【衆選一一二條四號犯罪ノ成立】 投票ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ供與セラレタルモノナルコトヲ認識シナカラ選舉人ニ於テ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ受ケタルトキハ衆議院議員選舉法第一百十二條第四號ニ該當シ其ノ投票ノ前ニ於テ供與者ト當該選舉人トノ間ニ投票ノ依頼若ハ其ノ承諾アリタルコト又ハ其ノ投票力供與者ノ所期スル候補者ニ投セラレタルコトヲ要セサルモノトス、蓋シ同條ノ規定ハ選舉ニ關スル陋弊ヲ廓清シ專ラ其ノ公正ヲ保持スルコトヲ目的トスルモノナレハ縱令事前ニ於テ投票ニ關シ依頼又ハ承諾ノ事實ヲ單ニ事後ニ於テ報酬ヲ授受シタルニ止マルトスルモ投票ニ關シテ報酬ヲ授受スルカ如キハ選舉ノ公正ヲ

害シ又ハ之ヲ害スヘキ危険ヲ醸成スルコト疑ナキヲ以テ苟モ斯ノ如キ行爲アルニ於テ之カ爲メ
實害ノ發生シタルト否トニ論ナク絶對ニ之ヲ禁止セルモノト解スヘケレハナリ、從テ前掲行爲
カ投票ノ前ニ於テ投票ノ依頼若ハ承諾ナク又其ノ投票カ報酬供與者ノ所期スル候補者ニ投セラ
レサリシモノトスルモ前顯選舉法規違反ノ罪ヲ構成スルコトヲ妨クヘキモノニ非ス、原判決ノ
認定セル事實ニ依レハ被告人等ハ執レモ昭和三年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ
際シ有權者ニシテ同月二十二日ヨリ翌日二十四日迄ノ間ニ自宅其ノ他ニ於テ原審相被告藤井安
二ヨリ投票ヲ爲シタル報酬トシテ各金六十錢宛ノ供與ヲ受ケルモノナリト云フニ在リテ被告人
等ハ投票ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ右安二ヨリ供與セララルモノナルコトヲ認識
シナカラ各自判示金錢ヲ受ケタル趣旨自ラ明ナレハ其行爲ハ衆議院議員選舉法第十二條第四
號ニ該當ス(衆議院議員選舉法違反被告事件、三年(れ)一四三三號、三年十二月八日大三刑判決、法律新
聞二九六三號九頁)

【選舉運動ノ報酬ト金額ノ多少】 選舉運動ニ關シテ授受セラレタル金錢カ該運動ノ報酬タル
ヤ將タ實費タルヤハ諸般ノ事情ニ依リテ判定スヘキモノニシテ其ノ金補ノ多少ニ依リ定マルヘ
キモノニ非ス、從テ選舉運動者カ其ノ運動ニ關シテ受ケタル金三十圓カ運動報酬ナリトノ事實ヲ
認定シタリトスルモ之ヲ目シテ社會ノ通念ニ反スルモノト云フヲ得ス、而シテ原判決ニヨレハ
選舉委員タル被告人カ岡橋忠太ヨリ受領シタル金三十圓ハ同人ニ對スル貸金ノ辨濟トシテ受ケ
タルモノニ非スシテ判示選舉運動ノ報酬トシテ供與ヲ受ケタルモノニシテ其ノ事實ハ原判示各
證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ヘキヲ以テ其ノ衆議院議員選舉法第十二條第四號ノ罪ヲ構成スル
ヤ論ヲ俟タス(衆議院議員選舉法違反被告事件、四年(れ)四二三號、四年五月二十九日大三刑判決、法律新
聞三〇二〇號一〇頁)

【法定ノ選舉運動者ニ非サル者ノ利益供與行爲ト刑五四條】 (衆議院議員選舉法九六條參照)

第一百十五條 選舉ニ關シ左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以
下ノ罰金ニ處ス

- 一 選舉人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選舉運動者又ハ當選人ニ對シ暴行若ハ威
力ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ
- 二 交通若ハ集會ノ便ヲ妨ク又ハ演說ヲ妨害シ其ノ他偽計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選舉ノ自由ヲ
妨害シタルトキ
- 三 選舉人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選舉運動者若ハ當選人又ハ其ノ關係アル
社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ利害關係ヲ
利用シテ選舉人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選舉運動者又ハ當選人ヲ威逼シタ
ルトキ

【衆選一一五條三號ニ所謂「利害關係」ノ解】 衆議院議員選舉法第一百五條三號ニ所謂利害
關係ハ特殊ナルヲ以テ足り直接ナルコトヲ必要トセス、又之ヲ財産上ノ利害ノミニ局限スヘキ
理由ナキヲ以テ苟モ議員候補者ヲシテ事實上特殊ノ利害ヲ感セシムヘキ事情存在シ而シテ其ノ
事情ニシテ克ク候補者ノ意ヲ動カスノ力アリト認メラルルニ於テハ同條ノ利害關係タルニ妨ナ
ケレハ之ヲ利用シテ候補者ヲ威逼スルハ同條第三號ニ該當スヘシ、原判決ノ認定シタル事實ニ
依レハ被告ハ石井辨藏ニ對シ議員候補者星野精一ヲシテ其候補ヲ辭退セシムル様盡力アリタク
其手段トシテ高橋吉之助ニ於テ株式會社沼田銀行取締役ノ地位ヲ辭シ且同銀行ヨリ自己ノ預金

ヲ引出ス決心ヲ有スルカ如ク吹聴セハ右精一ノ父ニシテ同銀行ノ頭取ナル星野銀治ハ驚キテ精一ノ候補ヲ辭退セシムヘク精一自身ニ於テモ候補ヲ辭退スルニ相違ナカルヘキヲ以テ自分ニ於テハ勿論極力之カ宣傳ノ方法ヲ講スヘキモ是非右方法ニ依リ精一カ候補ヲ辭退スル様盡力アリタキ旨申告ケ以テ沼田銀行ニ對スル不利恐慌ヲ以テ其頭取タル星野銀治ヲ畏怖セシメ延テ其子タル候補者星野精一ニ威逼ヲ加ヘ同人ヲシテ其候補者ヲ辭退スルノ己ムヲ得サルニ至ラシムル様仕向クヘキコトヲ諮リ且之ヲ依頼シ尙佐藤金松ニ對シテモ情ヲ告ケテ辨藏ト協力シテ前同様ノ宣傳ヲ爲サンコトヲ依頼シ被告及辨藏、金松ノ三名共謀ヲ遂ケ金松ニ於テ前記謀議ノ趣旨ニ從ヒ巡查萩原芳三郎外一人ニ對シ恰モ選舉場裡ノ情勢ヲ密告スルカ如キ風ヲ裝ヒ今朝高橋吉之助カ立候補ヲ承諾シタルカ同人ハ先代ヨリ星野銀治親子ニハ迷惑ヲ懸ケラレ居ルヲ以テ此際銀行ノ重役モ罷メ數萬モアル預金ヲ引出シ正々堂々星野ニ對スルト涙ヲ流シ聲ヲ震ハセツツ申シタル由ニテ民政黨ノ幹部ハ高橋ノ言ヲ露骨ニ告ケテ交渉ハスマシテモ兎モ角今一應幹部ヨリ右ノ言ヲ腹ニ置キ銀治ニ交渉スル様ニナルヤモ知レヌ最早行ク頃ナレハ直ニ銀行ニ行キテ見ヨトノ旨ヲ告ケ若シ星野精一カ候補ヲ辭退セサルニ於テハ沼田銀行ノ取付ヲ惹起スル形勢ナルカ如ク諷シ右兩巡查ヲシテ直ニ同銀行ニ赴カシメ同人等ノ選舉情況内偵ノ機會ニ於テ星野銀治ニ右ノ趣ヲ傳ヘシムル様、而シテ更ニ銀治ヲシテ自ラ之ヲ精一ニ告ケシムル様仕向ケタル結果兩巡查ハ直ニ同銀行ニ至リ萩原巡查ヨリ銀治ニ對シ前記ノ趣旨ヲ傳ヘタル爲メ同人ヨリ之ヲ精一ニ傳ヘ因テ同人ヲシテ恐怖セシメ即日其候補ヲ辭退スルノ餘儀ナキニ至ラシメ以テ同候補ヲ威逼シタルモノナリト云フニ在リテ議員候補者ニ對スル特殊ノ利害關係ヲ利用シテ之ヲ威逼シタル事實明カナレハ原判決力之ニ衆議院議員選舉法第百十五條第三號ヲ適用シタルハ正當ニシテ理

由不備又ハ擬律錯誤ノ違法アルモノニ非ス(縣會議員選舉罰則違反被告事件、三年(れ)一三二三號、三年一月二日大三刑判決、法律新聞二九七〇號一五頁)

第百二十七條

選舉人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐偽ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

投票ヲ偽造シ又ハ其ノ數ヲ増減シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

【投票偽造罪ノ成立】

被告人上告趣意書第四點原裁判所ハ被告人カ昭和四年四月六日居村施行ノ村會議員選舉ニ際シ同村字向田德田德藏ニ依頼シ選舉人ナルモ無筆ノ爲投票ノ見込ナキ同村同字里見長次郎、大林市松、三江助三郎ノ三名ノ入場券ヲ蒐集セシメ同日同人等カ投票場ニ來リタルモノノ如ク裝ヒ選舉長タル被告カ投票用紙三枚ヲ取出シ内一枚ヲ里見長次郎ノ分トシテ之ニ自己ノ氏名(被選舉人)ヲ記載シ同村役場書記井上菊次ヲシテ他ノ二枚ヲ各大林市松及三江助三郎ノ分トシテ之ニ被告人ノ氏名ヲ記載セシメテ投票シタル所爲ヲ認定シテ之ヲ投票ノ偽造ナリト斷シ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第百二十七條第四項ニ問擬セラレタリ、然レトモ無効ノ投票ハ悉ク偽造ノ投票ニアラス被告人ノ右所爲カ投票權者タル長次郎、市松、助三郎ノ委任又ハ許諾ニ基クモノナルニ於テハ(明示又ハ默示ヲ問ハス)或ハ衆議院議員選舉法第百二十七條第三項ニ該當スル犯罪ヲ構成スヘキモ同條第四項ノ投票偽造ノ罪ヲ構成スヘキモノニアラス、蓋擅ニ投票用紙ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノト謂フヲ得サレハナリ、記錄

ヲ查閱スルニ一、檢事小泉三橋ノ德田德藏ニ對スル聽取書中選舉當日村長ヨリ大林市松、三江助三郎、里見長次郎ハ字カ書ケナイカラ私カ言フタト云フテ入場券ヲ借りテ來テ吳レト依頼セラレ右三名ヨリ入場券ヲカリテ來テ村長(被告人)ニ渡シタル旨ノ供述記載ニ、三江助三郎ニ對スル豫審ノ證人訊問調書中選舉ノ當日自分ノ不在中德田德藏カ濱田村長ノ使ナリトテ入場券ヲ借りニ來リタルヨリ二男助藏カ貸シタリ何ノ爲ニ借りニ來リタルカ其事由ヲ知ラサル旨ノ供述記載ニ、三江助藏ニ對スル同書中德田德藏カ村長濱田サンヨリ頼マレ親爺ノ入場券ヲ借りニ來リタルヨリ渡シタリ此ノ時德藏ハ此ノ入場券ヲ自分カ持ツテ行ケハ父助三郎ハ同日選舉ニ來ラサルモ投票ヲ爲シタル事ニナルト申シタリ入場券ヲ渡シタル事ヲ父ニ話シタル處父ハ唯ソウカト答ヘタリトノ趣旨ノ供述記載四、里見長次郎ニ對スル同書中選舉當日私ノ不在中德田德藏カ選舉人ノ入場券ヲ借りニ來リタルヨリ妻ノいのハ入場券ヲ同人ニ渡シテ遣リタリ村長濱田ノ使ナルコトハ後ニ聞キタリ村長ハ里見カ人ニ聞カレタラ選舉ニ行ツタト言フテ吳レトノコトヲ妻ニ申シタカ知ラサルカ其ノ事ハ自分ハ妻ヨリ直接聞キタルニアラサル旨ノ供述記載五、被告人ニ對スル一、二回ノ豫審調書第一、二審ノ公判調書中判示選舉期日ニ於テ該選舉ノ候補者タル被告人ハ當選甚タ危險ノ状態ニ瀕シタリト思ヒ多數ノ投票ヲ得ンカ爲無筆ノ爲投票ヲ爲ササル選舉權者ノ投票ヲ自己ノ爲投票シタルモノト爲サントシテ德田德藏ニ依頼シテ大林市松、三江助三郎及里見長次郎ヨリ選舉場ノ入場券ヲ借り來ラシメ以テ同人等カ選舉ニ來リタルコトトシ三名分ノ投票ヲ取出シ判示ノ如ク之ニ夫々被告人ノ氏名ヲ記入シ又ハ井上菊次ヲシテ記入セシメタル旨ノ供述記載ニ徵スレハ本件投票權者タル大林市松、三江助三郎及里見長次郎ハ何レモ被告人ノ依頼ニ應シ同人ノ使德田德藏ニ選舉ノ爲ノ入場券ヲ交付シ以テ同人等ノ投票權ヲ被

告人ニ於テ行使スルコトヲ許容シタルモノナルコト寔ニ明白ナリ、若然ラストセハ何カ故選舉ノ爲ノ入場券ヲ被告人ニ交付シテ平然タルヤ得テ之ヲ解スルコト能ハサレハナリ、蓋選舉場ノ入場投票用紙ノ受領被選舉人ノ氏名ノ記載ハ投票權行使ノ必然的牽連行爲ナリ投票ノ爲ノ入場券ヲ交付シナカラ投票用紙ノ受領ヲ拒否シ被選舉人ノ氏名記載ヲ拒否スルモノトスルカ如キハ別ニ之ヲ拒否スヘキ格段ノ事由ナキ限リ社會觀念上之ヲ承認スルコト能ハサルモノナレハナリ然ルニ原判決ハ此ノ點ニ付漫然「被告人ハ德田德藏ニ依頼シ選舉人ナルモ無筆ノ爲投票ノ見込ナキ里見長次郎、大林市松、三江助三郎三名ノ入場券ヲ蒐集セシメ云々」ト判示シテ投票ノ偽造ヲ認定セラレタルハ如上入場券ノ任意交付ノ事實ヲ遺脱セルモノト謂フヘク、然ラストセハ斯ル事實アルモ尙偽造罪ノ成立スヘキ格段ノ事由ニ付判示ヲ爲ササルモノニシテ此ノ點ニ於テ原判決ハ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルモノニアラサレハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト信スト云フニ在リ、按スルニ衆議院議員選舉法ノ罰則ヲ適用スヘキ議員選舉ニ於テ當該選舉權者ニ非サル者カ其ノ選舉權者ノ資格ヲ冒シ投票用紙ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載シテ投函スルニ於テハ衆議院議員選舉法第二百二十七條第三項前段ノ投票偽造罪成立スヘク、其ノ犯人ニシテ同條第四項ニ規定セル選舉事務ニ關係アル者ナル場合ニ於テハ右第四項ノ犯罪成立スヘキコト毫モ疑ヲ容レズ、原判示事實ハ被告人ハ昭和四年四月六日施行セラレタル中乃島村會議員ノ選舉ニ際シ同議員候補者ト爲リ且當時同村長トシテ右選舉ノ選舉長ト爲リ其ノ事務ニ關與シタル者ナルトコロ第一被告人ハ不正ニ投票ヲ得ルノ目的ヲ以テ昭和四年四月六日同村字向田德田德藏ニ依頼シ選舉人ナルモ無筆ノ爲投票ノ見込ナキ同村同字里見長次郎、大林市松、三江助三郎ノ三名ノ入場券ヲ蒐集セシメ同日選舉投票所ナル同村役場ニ

於テ受附係同村役場書記青山與次郎照合係同村助役中屋榮次郎ヲシテ右入場券ニ依リ前記三名ノ選舉人カ孰レモ投票ニ來リタルモノノ如ク帳簿ノ整理ヲ爲サシメ被告人自身ノ投票用紙三枚ヲ取出シ内一枚(里見長次郎ノ分)ニ擅ニ自己ノ氏名ヲ記載シ以テ右投票ヲ偽造シ即日之ヲ投票函ニ投入シ尙犯意ヲ繼續シ當時選舉記録係トシテ列席シ居リタル同村役場書記井上菊次ト共謀ノ上同人ヲシテ前示投票用紙ノ内他ノ二枚(大林市松及三江助三郎ノ分)ニ擅ニ被告ノ氏名ヲ各記載セシメ以テ右投票二枚ヲ順次偽造シ即時之ヲ投票函ニ投入セシメタリト云フニ在リテ被告人ノ右行爲カ前示衆議院議員選舉法第二百二十七條第四項ニ該當スルヤ論ヲ俟タス、而シテ里見長次郎、大林市松及三江助三郎カ判示選舉ニ付被告人ニ於テ自己ノ爲ニ投票スルコトヲ承諾シ若ハ委任シタル事實ハ全然原判決ノ認メサル所ナリ、故ニ之ヲ根據トシテ原判決ヲ非難スルハ當ラス、又記録ニ徵スルモ其ノ點ニ付原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナシ(公文書偽造行使村會議員選舉罰則違反被告事件、四年(れ)一二三八號、四年一月二日大三刑判決、法律新聞三〇七九號一三頁)

【第二百二十九條】第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

【法定ノ選舉運動者ニ非ル者ノ利益供與行爲ト刑五四條】 (衆議院議員選舉法九六條參照)

衆議院議員選舉法施行令

第十三條 投票記載ノ場所ハ選舉人ノ投票ヲ視ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用フルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

【投票所ノ相當ナル設備】 檢證ノ結果及證人石川辰治ノ證言ニ依レハ與謝郡三河内村投票所ノ投票記載所ハ其ノ隣席トノ間ニ一枚ノ襖ヲ立テタルニ止リ他ニ何等ノ遮蔽物ナク選舉人カ記載所ノ椅子ニ寄りタル儘上半身ヲ起シ記載投票ヲ注視スルカ如キ態度ヲ執ルトキハ其ノ隣席ニ出入セントスル他ノ選舉人ハ投票ヲ視見シ得ルノ缺點アリテ現ニ同證人ハ投票ノ記載ヲ終リ記載所ヲ立出ントスル際恰モ隣席ナル他ノ選舉人ハ投票ヲ書キ終リ上體ヲ起シテ投票ヲ默讀シ居リテ同證人ハ偶然其ノ投票ヲ視見シタル事實ヲ認メ得ヘシト雖之ト同時ニ檢證ノ結果ニ依レハ投票管理者席又ハ投票立會人席ヨリ投票ヲ視見スルコトヲ得サルハ勿論選舉人カ記載所ニ於テ文字ヲ記載スル程度ニ上半身ヲ俯スル等簡單ナル注意ヲ爲スニ於テハ容易ニ附近ニ在ル他人ノ視見ヲ防止スルヲ得ヘキ設備ナルコトヲ認メ得ルト選舉人ハ普通自己ノ投票ヲ視見セラルルヲ避クル爲投票記載ニ際シ適宜隱蔽手段ヲ講スル等相當ノ注意ヲ爲スモノト推定スヘキトニ依リ同投票記載所ノ設備ハ選舉人各自ノ注意ト相俟テ選舉ノ秘密ヲ保ツニ足ルモノト認定ス、他ニ右認定ヲ覆スヘキ選舉人カ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ證據ナク又行フコトヲ得ルカ如キ缺點アル設備ナリシコトヲ認ムヘキ何等ノ證據アルコトナシ、然ラハ同投票所ノ設備ハ結局相當ナリシモノト謂フヘシ、既ニ其ノ設備ニシテ相當ナル以上偶或ル選舉人カ特ニ開放的ニシテ上

體ヲ起シテ投票ヲ默讀シ爲ニ前記ノ如ク石川辰治ニ於テ其ノ投票ヲ覓見シタル事實アレハトテ之カ爲ニ該選舉カ法ノ規定ニ違反シテ行ハレタリト爲スヘカラサルハ勿論トス、依テ三河内村投票所ノ設備ノ相當ナラサルコトヲ原因トシ同村ノ選舉無効ノ宣言ヲ求ムル請求部分モ亦失當ナリ(衆議院議員選舉ノ效力ニ關スル異議ノ訴、三年(フ)九號、三年一月二十九日大ニ民判決、法律新聞二九四九號六頁)

共通法

第三條

一ノ地域ノ法令ニ依リ其ノ地域ノ家ニ入ル者ハ他ノ地域ノ家ヲ去ル

一ノ地域ノ法令ニ依リ家ヲ去ルコトヲ得サル者ハ他ノ地域ノ家ニ入ルコトヲ得ス

陸海軍ノ兵籍ニ在ラサル者及兵役ニ服スル義務ナキニ至リタル者ニ非サレハ他ノ地域ノ家ニ入ルコトヲ得ス但シ徵兵終決處分ヲ經テ第二國民兵役ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

【奉記者タル朝鮮人男ト内地人女トノ人夫婚姻】

奉記者タルヘキ朝鮮人男ト内地人女ト

主トノ入夫婚姻届出ヲ市町村長カ誤テ受理シタル場合ニ於テハ該入夫婚姻ハ之ヲ有效ト認ムヘキモノニ有之候、尙入夫ノ除籍手續ニ關シ朝鮮總督府法務局長ヘ照會中ノ處別紙ノ通管内各裁判所ヘ通牒相成候趣回答有之候條右ニテ御了知相成度(別紙)内鮮人間ノ入夫婚姻ニ關スル件通牒、現ニ祭祀者タリ又ハ祭祀者タルヘキ朝鮮人カ入夫婚姻ニ因リ内地人女ト主ノ家ニ入ラムトスル場合ニ於テ内地市町村長カ誤テ斯ル届出ヲ受理シタルトキハ朝鮮人男ハ從來ノ家ヲ去ルモノト解スヘク從テ市町村長カ其ノ届書類ヲ朝鮮ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ送付シタルトキハ同府尹又ハ面長ハ之ヲ受理シ除籍ニ關スル戸籍ノ記載ヲ爲スコトニ爾令取扱相成度、追テ右ハ共通法第三條ノ適用アル場合ニ限ルモノナルニ付此ノ旨御留意相成度(昭和三年一月十九日大阪區裁判所監督判事代理判事問合、同四年一〇月二一日民事局長回答、雜誌七卷一一號二四一頁)

【内鮮人ノ婚姻ト入籍シ得サル家族ノ一家創立】

内地人ニシテ一家ヲ創立シタル女ト主ニ私生子男女ノ家族アリ、右女ト主ハ廢家シテ朝鮮人男ト婚姻ヲ爲シ廢家者ノ家族ハ之ニ從ヒテ婚

家ニ入ル旨記載シタル届書ヲ其ノ所在地タル某區役所ニ提出シタルニ付某區長ハ之ヲ受理シ一通ヲ朝鮮ニ於ケル夫ノ本籍地タル面長ニ送付シ來リタリ、此ノ場合ニ於テハ廢家ハ有效ニシテ女戸主ノ家族ハ之ニ從ヒ朝鮮人男ノ家ニ入ルヘキモノナルモ廢家者ノ家族ニ滿十七年以上ノ男子アルトキハ共通法第三條第三項ニ據リ朝鮮ノ家ニ入ルコトヲ得スシテ内地ニ於テ一家ヲ創立スヘキモノトス (昭和四年七月二〇日朝鮮總督府法務局長照會、同年九月一日民事局長回答、雜誌七卷一一號一三五頁)

【共通法ノ適用ト婚姻養子縁組届】 (問題) 共通法第三條第一項ハ身分變更ノ結果本籍地カ轉スル場合ト解スヘキモノナルカ故同法ノ適用範圍ニ屬スヘキ地域タル内地、臺灣、朝鮮、關東州間男女ノ婚姻養子縁組届ヲ何レノ地ヘ爲スモ受理シ得ヘキヤ (決議) 一、内地人ト朝鮮人トカ婚姻又ハ養子縁組 (朝鮮人ハ内地人ノ養子ト爲ルコトヲ得ルモ内地人ハ朝鮮人ノ養子ト爲ルコトヲ得ス) ヲ爲シタル場合ニハ其ノ届出ハ内地、朝鮮ノ何レニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ (朝鮮民事令一、一共通法二ノ二法例一三戶籍法一〇一、九二朝鮮戶籍令八五、七八) 二、内地人ト臺灣人トカ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタル場合ニハ其ノ届出ハ内地ニ於テ之ヲ爲シ得ヘキハ勿論ナルモ臺灣ニ於テハ夫 (入夫婚姻ノ場合ハ妻) 又ハ養親カ内地人ナルトキハ届出ハ臺灣ノ警察官署ヲ經テ内地ノ當該市町村長ニ之ヲ爲シ得ヘク然ラサルトキハ届出ハ臺灣ニ於テハ之ヲ爲スコト能ハス (大正一一勅令四〇七號臺灣ニ施行スル法律ノ特例ニ關スル件五戶籍法一〇一、九二) 三、關東州ニ於ケル支那人ト日本人トカ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタル場合ハ二ニ掲ケタルト同様ナリトス (關東州裁判事務取扱令二戶籍法一〇一、九二) (四年一〇月九日法曹會決議、雜誌七卷一二號一一七頁)

行政裁判法

第二章 行政裁判所權限

第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

【適法手續違背ノ行政訴訟】 北海道一級町村制第九十一條ニ依レハ北海道ニ於ケル町村稅ノ賦課ニ對スル行政訴訟ハ其ノ賦課ヲ爲シタル町村長ニ異議ノ申立ヲ爲シテ該町村長ノ決定ヲ受ケ其ノ決定ニ不服アル者ハ北海道支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ更ニ北海道長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル場合ニ提起シ得ルモノトス、然ルニ本件下湧別村稅ノ賦課ニ付テハ異議申立ヲ爲シ決定ヲ受ケタルコトハ訴狀添付ノ昭和二年一月六日附下湧別村長ノ決裁書ニ依リ之ヲ認ムルコトヲ得ルモ、該決定ニ對シ北海道支廳長ニ訴願シテ其ノ裁決ヲ受ケ其ノ裁決ニ不服ニシテ更ニ北海道長官ニ訴願シテ其ノ裁決ヲ受ケタルコトヲ認ムヘキ何等ノ證據ナキニ依リ本訴中右村稅ノ賦課ニ對スル部分ハ適法ノ手續ニ違背セルモノニシテ行政裁判法第二十七條第一項ニ依リ却下スヘキモノトス (地方稅及村稅賦課更正請求ノ訴、二年一五三號、三年一二月二〇日行

政一判決法律新聞二九五八號一五頁)

【地方下級廳ノ處分ト直接行政訴訟】 行政裁判法第十七條ニ依レハ法律勅令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外行政訴訟ハ地方上級行政廳ニ訴願シ其ノ裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス、而シテ特別都市計畫法第十一條ニ依リ同法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲ス處分ニ準用セラルヘキ都市計畫法第二十六條ハ單ニ特別都市計畫法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲ス處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル旨ノ規定タルニ止マリ、下級地方行政廳ノ處分ニ對シテ地方上級行政廳ニ訴願シ其ノ裁決ヲ經ルコトナクシテ直ニ行政訴訟ノ提起ヲ認ルメタル規定ニ非ス、其ノ他ノ法律勅令中本件東京市長ノ處分ニ對シテ地方行政廳ニ訴願シ其ノ裁決ヲ經ルコトナクシテ直ニ行政訴訟ノ提起ヲ認メタル規定ナキヲ以テ本件東京市長ノ處分ニ對シテ地方上級行政廳タル東京府知事ニ訴願シ其ノ裁決ヲ經ルコトナクシテ提起セラレタル本訴ハ行政裁判法第十七條ニ違背シ同法第二十七條第一項ニ依リ却下スヘキモノトス(違法處分取消ノ訴、三年二七六號、四年二月一八日行政二判決、法律新聞二九九二號一二頁)

【町村稅滯納處分ト直接行政訴訟提起】 町村稅滯納處分ノ行政訴訟ニ就テハ町村制第一百十一條第六項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ヲ經ルヲ要スルモノナルニ拘ラス本訴ハ未タ東京府參事會ニ對シ訴願裁決ノ手續ヲ經タルモノニ非サルカ故ニ不適法ナリトス、原告ハ本件ニ付テハ長谷川秀樹ヲシテ原告ニ代リ東京府參事會ニ訴願セシメ昭和二年十二月二十四日其ノ裁決ヲ受ケタル旨辯疏スルモ該訴願ハ長谷川秀樹カ自己ノ資格ニ於テ爲シタルモノニシテ原告ノ代理人トシテ爲シタルモノト認ムルヲ得サルカ故ニ其ノ辯疏ハ理由ナシ(滯納違法公賣處分取消並

ニ損害金請求ノ訴、四年一〇一號、四年四月一〇日行政三判決、法律新聞三〇一五號一五頁)

【恩給ニ關スル直接行政訴訟提起】 本訴ノ要旨ハ原告ハ元判事ナリシカ明治四十五年六月七日大審院ニ於テ詐欺及瀆職ノ罪ニ依リ懲役八年ニ處セラレ大正三年懲役六年ニ同四年十一月十日懲役四年八月十六日減刑セラレ輕罪ノ受刑者トナリシ處昭和三年十一月十日同年勅令第二七一號復權令第一條ニ依リ復權シタルヲ以テ、同四年一月十六日附ヲ以テ被告ニ對シ普通恩給請求書ヲ提出シタルニ、被告ハ同年二月十二日附ヲ以テ原告ノ請求ヲ排斥スル旨裁定シタルニ因リ該裁定ヲ取消シ原告ハ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル旨ノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ、本件ノ如キ普通恩給ノ請求ニ對スル被告ノ裁定ニ不服ナル爲行政訴訟ヲ提起スルニハ恩給法第十三條ニ依リ被告ニ具申シ其ノ裁決ヲ經ヘキモノナルニ拘ハラス、原告カ其ノ手續ヲ履行セサルコトハ訴狀自體ニ依リ明ナルヲ以テ本訴ハ行政裁判法第二十七條第一項ニ所謂適法ノ手續ニ違背スルモノナルカ故ニ同項ニ依リ之ヲ却下スヘキモノトス(普通恩給請求ノ訴、四年一三八號、四年五月八日行政三判決、法律新聞三〇二七號一二頁)

【區劃整理執行ニ付市長ノ爲ス移轉命令ト直接行政訴訟提起】 行政裁判法第十七條第一項ニ依レハ行政訴訟ハ法律勅令中特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得サルニ拘ラス本件移轉命令ニ對シテハ東京府知事ニ訴願シ其ノ裁決ヲ經タルモノニ非サルヲ以テ、本訴ハ適法ノ手續ニ違背シタルモノナルカ故ニ同法第二十七條第一項ニ依リ之ヲ却下スヘキモノトス(特別都市計畫法ニ基ク土地區劃整理ニ關スル換地處分取消請求ノ訴、三年二三號、四年六月二八日行政三判決、法律新聞三〇四九號一〇頁)

【内務大臣ノ訴願裁決ヲ經タル營業免許取消處分ト行政訴訟ノ能否】 行政裁判法第十七條第

三項ニハ「各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス」トアルヲ以テ内務大臣ニ訴願シ其ノ裁決ヲ經タルコト訴狀自體ニ依リ明瞭ナル本件營業免許ノ取消處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス (不當營業免許取消ノ訴、四年六七號、四年二月二十六日行政一判決、法律新聞二九八九號一六頁)

第十九條 行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

【既判力ノ範圍】 本件選舉ニ於ケル高田茂ノ當選ノ無効ナルコトハ當裁判所カ昭和三年七月三日同二年第二百七十二號事件ノ判決ヲ以テ宣告シタル所ニシテ其ノ既判力ノ範圍ニハ該主文ノ因テ生スル理由タル遠山方景及高田茂ノ各有效得票ノ數ヲモ包含スルモノナレハ原告ハ今更其ノ有效得票ノ數ヲ云爲シテ遠山方景ノ當選ノ效力ヲ爭フコトヲ得サルモノトス (縣會議員選舉ノ效力ニ關スル訴、三年三二五號、四年二月九日行政三判決、法律新聞二九八五號九頁)

第三章 行政訴訟手續

第二十二條 行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此ノ限ニ在ラス
訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算並ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

【出訴期間經過後ノ行政訴訟】 市會議員選舉ノ效力ニ關スル行政訴訟ハ府縣參事會ノ裁決書ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ交付ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ提起スルヲ要スルコトハ市制第六十條第二項ノ定ムル所ナリ、而シテ原告等カ本件裁決書ノ交付ヲ受ケタルハ昭和四年三月八日ナルヲ以テ其ノ翌日ヨリ起算シ前示三十日ニ原告ノ住居地ヨリ當裁判所所在地ニ至ル距離五十六里餘ニ對スル行政裁判法第二十二條第二項及舊民事訴訟法第六十七條第一項所定ノ伸長日數七日ヲ加ヘタル三十七日ノ出訴期間ハ同年四月十四日迄ナルモ同日ハ日曜日ニ當リ同法第六十六條第二項ニ依リ之ヲ期間ニ算入セサルカ故ニ右出訴期間ハ同月十五日ヲ以テ滿了スルモノトス、然ルニ本訴ハ同月十七日ノ提起ニ係リ法定ノ出訴期間ヲ經過シタルモノナルヲ以テ行政裁判法第二十七條第一項ニ依リ之ヲ却下スヘキモノトス (選舉ノ效力ニ關スル福島縣參事會不當裁決取消請求ノ訴、一四一號、四年五月八日行政三判決、法律新聞三〇二七號一一頁)

【出訴期間經過後提起ノ行政訴訟】 町稅滯納處分ニ關スル行政訴訟ハ府縣參事會ノ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ提起スルヲ要スルコトハ町村制第四十條第二項ノ定ムル所ニシテ該期間ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス、而シテ原告カ本件裁決書ノ交付ヲ受ケタルハ昭和三年九月二十二日ナルカ故ニ本訴ノ提起期間ハ同月二十三日ヨリ起算シ前示三十日ニ原告住居地ト當裁判所トノ距離九十五里ニ對スル行政裁判法第二十二條第二項及舊民事訴訟法第六十七條第一項所定ノ伸長日數十二日ヲ加ヘタル四十二日ニシテ該期間ハ同年十一月三日ヲ以テ滿了スヘキモ同日ハ明治節ニ當ルヲ以テ其ノ翌日タル四日ヲ以テ滿了セルモノトス、然ルニ本訴ハ同月二十二日提起セラレタルモノナルヲ以テ法定ノ出訴期間ヲ經過シ、適法ノ手續ニ違背スルモノトス (行政訴訟訴、三年三〇四號、三年一二月

八日行政三判決、法律新聞二九七三號一頁)

第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサル

モノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

【北海道廳ノ漁業免許場所ト行政訴訟】 大正十三年北海道廳令第九十九條漁業取締規則第十條ニ依レハ漁業免許場所ノ指定ハ、特定ノ漁業免許ヲ出願シ得ヘキ場所ヲ指定スルニ止リ、漁業ノ免許ヲ爲スモノニ非サルカ故ニ、漁業法第五十五條ニ規定セル行政訴訟ニ該當セス、其ノ他法律勅令中斯ノ如キ事項ニ付行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナキヲ以テ、本訴中被告カ大正十五年七月二十五日附北海道廳告示第六百五十四號ヲ以テ爲シタル鱒ノ特別漁業免許場所ノ指定ニ關スル部分ハ不適法ナリ(北海道廳告示ヲ以テ爲シタル鱒特別漁業免許場所ノ指定ニ關スル件、一五年二七三號、三年九月二十九日行政三判決、法律新聞二九五六號九頁)

【土地ヲ收用シ得ル事業ノ認定ト行政訴訟】 (事實)本訴ノ要旨ハ埼玉縣知事ハ昭和三年四月五日埼玉縣大里郡深谷町大寄村及新會村內ニ於テ放水路ヲ新設スルニ必要ナル土地ヲ土地收用法ニ依リ收用スル爲、同法ニ依リ土地ヲ收用スルコトヲ得ル事業タルノ認定ヲ被告ニ申請シ、被告ハ同年五月二十一日前示申請ノ事業ハ放水路新設ノ公共ノ利益トナルヘキ事業ナリト認定シ、同日其ノ公告ヲ爲シ、起業者ハ同年六月十三日收用土地細目公告ヲ爲シ、以テ原告等ノ土地所有權ヲ侵害シタルニ依リ被告ノ爲シタル事業認定ハ之ヲ取消シ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ(理由)然レトモ土地收用法中土地收用審査會ノ違法裁決ニ由リ

權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル旨ヲ規定シアルモ、土地ヲ收用スルコトヲ得ル事業ノ認定ニ關シテハ行政訴訟ノ提起ヲ許ス旨ノ規定ナキニ依リ、右ニ關シテハ行政訴訟ノ提起ヲ許サルノ法意ナリト解スルヲ相當トス (土地收用事業認定取消ノ訴、三年二一〇號、三年一月八日行政一判決、法律新聞二九五八號九頁)

【處刑名義取消ト行政訴訟】 本訴ノ要旨ハ明治二十六年九月二十五日被告ハ原告ニ對シ窃盜罪トシテ重禁錮七月監視六月ニ處スル旨言渡シタルモ當事被告ハ徵兵義務ヲ盡シ在郷軍人トシテ居村ニ於テ漁業ニ從事シ罪ヲ犯シタルコトナク從テ處刑セラレタルコトナキカ故ニ右ハ原告ノ姓名ヲ知ル不良ノ徒カ原告ノ姓名ヲ詐稱シ服罪シタルモノト思料セラルルカ故ニ右原告ノ受刑名義ノ取消ヲ求ムル爲昭和三年十月二十五日被告ニ申請シタルニ、被告カ法律ニ明文ナシトノ理由ヲ以テ之ヲ却下シタルハ失當ナルヲ以テ之カ取消ヲ求ムト謂フニ在レトモ、斯ノ如キ事項ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ノ提起ヲ認メタル規定ナキカ故ニ本訴ハ受理スヘカラサルモノトス(不實ノ處刑名義取消ノ訴、三年二九二號、三年一月八日行政三判決、法律新聞二九七三號一〇頁)

【他人ニ對スル町税賦課ノ取消ト行政訴訟】 原告ハ昭和三年七月二十日佐敷町長ノ發シタル町税特別稅戶數割賦課ハ違法錯誤ノモノナリトシ、同年八月二日同町長ニ異議申立ヲ爲シタル處同町會ハ同月八日右賦課ニ何等違法錯誤ナシト決定ヲ爲シタルモ同決定ニ服スル能ハス、同月二十日被告ニ訴願シタルニ同年十一月二十日附昭和三年度佐敷町税特別稅戶數割賦課ニ關スル訴願人矢野春太郎ノ異議申立ニ對シ昭和三年八月八日佐敷町會カ爲シタル決定並ニ昭和三年七月二十日佐敷町長カ訴願人ニ對シテ爲シタル昭和三年度佐敷町特別稅戶數割前期賦課ハ之ヲ取消ストノ裁決ヲ與ヘタルモ、原告ハ自己一個ノ賦課ニ對シ訴願シタルモノニ非スシテ、昭和

三年六月二十九日佐敷町長ノ提出シタル四十九號議案、昭和三年度佐敷町特別稅戶數割納稅義務者資力算定議案ニ依ル賦課ハ全部違法錯誤ト認ムルニヨリ全部之ヲ取消シ更ニ適法ナル賦課ヲ爲スヘシトノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ、町村制第十條ハ町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノニシテ、他人ニ對スル賦課ノ取消ヲ求ムル行政訴訟ノ提起ヲ許シタルモノニ非ス、其ノ他法律勅令中右ノ如キ場合ニ行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ、而シテ原告ニ對スル賦課ハ其ノ訴願ニ對スル裁決ニ依リ己ニ取消サレタルヲ以テ本訴ハ行政裁判法第二十七條ニ依リ却下スヘキモノトス(町村特別稅戶數割賦課違法錯誤ニ付訴、三年三二四號、三年一月二七日行政一判決、法律新聞二九七三號一六頁)

【土地區劃整理組合設立認可ニ對スル行政訴訟】 都市計畫法第十二條第二項ハ土地區劃整理ニ關シテハ同法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理法ヲ準用スル旨ヲ規定シ、本件認可處分ハ耕地整理法ヲ準用シテ爲シタルモノナリ、然ルニ耕地整理法第六條ハ本法中別ニ規定アル場合ヲ除クノ外土地ノ所有者、占有者、關係人其ノ他整理施行地ニ權利ヲ有スル者ハ耕地整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得スト規定シ、同法ニ於テハ耕地整理組合ノ設立認可ニ對シテハ同法第八十六條ニ定ムル場合ニ於テ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ許シタルノ外行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナシ、而シテ都市計畫法第二十六條モ本件ノ如キ場合ニ行政訴訟ノ提起ヲ許シタルモノニ非ス、其ノ他法律勅令中本件ノ如キ事項ニ付行政訴訟ノ提起ヲ許シタルモノナシ(區劃整理組合設立認可取消ノ訴、三年二九九號、三年一月二七日行政一判決、法律新聞二九七七號一〇頁)

【町村營造物廢止處分ニ對シ行政訴訟ノ能否】 本件宇村杉遊園地ハ大正十年九月五日ノ笹岡村會ニ於テ村ノ事業トシテ該遊園地設置ノ件及同村大字大室宇村杉部落落民中(原告等中荒木四男哉、大野寅次郎、大野與之助、荒木久吉、荒木杉藏、大野深吉、山崎喜藏、荒木寅太郎、荒木善吉、今津三郎、大野與四郎、大野キンヲ除キタル者及原告等以外ノ者八人)ヨリ同年九月五日附ヲ以テ同村長宛出願シタル村ニ對スル右遊園地經營ノ費用寄附受納ノ件ヲ議決シ、大正二年新潟縣令第五號土木工事取締規則ニ依リ大正十五年十月十八日同縣知事ノ許可ヲ受ケ工事ヲ施行シ設立シタルモノニシテ、原告等ハ該遊園地ニ於ケル水路ヲ風致上、衛生上又ハ防火上ノ設備ニ使用シ遊氷場ヲ公衆ト共ニ體育ノ發展上ニ使用スルニ過キサルモノナルコトハ原告等ノ申立ツル所ナリ、然レハ該遊園地ハ純然タル村ノ營造物ニ外ナラス、原告等ハ住民トシテ其ノ一般使用權ヲ有スルニ過キサルモノトス、然ルニ此ノ如キ町村住民ノ營造物使用權ハ營造物ノ存在ヲ前提トスルモノニシテ之ニ依リ營造物ノ廢止ヲ阻止シ町村ヲシテ營造物ヲ存續維持セシムルノ權利アルモノニ非ス、然レハ縱令被告カ右營造物ノ設置及廢止ニ關スル事情ヲ熟知シタルニ拘ラス、原告等ニ諮問セス、突然其ノ廢止ヲ許可シタル事實アリトスルモ、原告等ハ該處分ニ對シ町村制第十條ニ依リテハ勿論明治二十三年法律第六號ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス、其ノ他法律勅令中斯ル事件ニ付行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナシ

(水路並遊泳場廢止願ニ對シ與ヘラレタル許可取消ノ訴、三年三三四號、四年一月二四日行政一判決、法律新聞二九七七號一五頁)

【市會ノ議決無効ノ判決ヲ求ムル行政訴訟】 本訴ノ要旨ハ昭和三年十一月二十三日鶴岡市會ノ可決セル内川改修變更費寄附額五萬二千五百圓内二萬五千圓ハ赤川水利組合ヨリ寄附セラル

へキ了解ヲ得タルモノニシテ殘額二萬七千五百圓ハ鶴岡市ヨリ寄附セラルヘキモノナリ、然ルニ右工事完成ニ依リ直接ニ利益ヲ受クヘキモノハ同市戸口ノ百分ノ一ニモ過キサル新田田圃及道形地内ニ多大ノ田地畑地ヲ所有セル一、二大地主ニ過キス此ノ如キ僅少ナル受益者ノ爲ニ鶴岡市全體カ平等ニ負擔スルノ理由ナキモノナルカ故ニ該決議無効ヲ求ムト云フニ在レトモ市制其ノ他法律勅令中此ノ如キ事項ニ付行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(行政訴訟四年四八號、四年二月七日行政一判決、法律新聞二九八三號一六頁)

【他人ニ對シ爲サレタル課稅標準決定ニ對スル行政訴訟】 原告カ本訴ニ於テ取消ヲ求ムル被告ノ課稅標準ノ決定ハ合名會社安藤商店ノ昭和二年一月一日ヨリ同年十二月三十一日ニ至ル事業年度分及昭和三年一月一日ヨリ同年同月十八日ニ至ル事業年度分ノ甲普通所得乙超過所得純益金ト並清算所得ノ金額ヲ決定シ之ヲ合名會社安藤商店ニ通知シタルモノナルコトハ其ノ記載自體ニヨリテ明カニシテ安藤由由市ニ對シテ第一種所得並營業純益ノ決定ヲナシタリト認ムヘキニアラス、而シテ合名會社安藤商店ノ登記簿謄本ニヨレハ同商店ハ總社員ノ同意ニ依リ昭和三年一月十八日解散シ其ノ清算人ハ萬木茂一郎ニシテ安藤由由市ハ其ノ清算人ニアラス、然レハ本訴ハ安藤由由市カ他ノ人格者ニ對シテナサレタル第一種所得並營業純益金額ノ決定ノ取消ヲ求ムルモノニ外ナラスシテ、法令中斯ノ如キ訴ヲ許シタル規定存セス(所得金額取消ノ訴、三年一三六號、四年二月二〇日行政二判決、法律新聞二九八五號一四頁)

【知事ノ選舉人名簿ノ再調製命令ト行政訴訟】 石川縣能美郡寺井野町長中浦藤吉カ昭和三年九月十五日現在ニ依リ調製シタル同町衆議院議員選舉人名簿及同町會議員選舉人名簿ノ縱覽期間中同町當局ハ町民ノ申立ニ因リ成規ノ手續ヲ執ラス恣ニ右各名簿ノ改竄塗抹ヲ爲シタル處同

縣知事ハ同年十二月二十二日附石川縣告示第六百八十四號第六百八十五號ヲ以テ前示各選舉人名簿ノ再調製ヲ告示シ同月二十四日町長ニ對シ右各名簿ノ再調製ヲ命シタリ、然レトモ前示各名簿ハ之ヲ無効トスヘキモノニ非ス、從テ之ヲ再調製スヘキ限ニ在ラサルヲ以テ其ノ趣旨ノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ、斯クノ如キ事項ニ關シテハ法律勅令中行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナシ(寺井野町選舉人名簿ニ對スル石川縣知事ノ爲シタル命令不服ノ訴、四年四一號、四年三月二日行政三判決、法律新聞二九九二號一五頁)

【出訴期間滿了後ト訴狀表示ノ被告變更ノ能否】 原告ハ昭和三年九月二十七日「被告神奈川縣、右法律上代理人神奈川縣知事池田宏」ト記載シタル訴狀ヲ當裁判所ニ提出シタル後昭和四年一月十七日ニ至リ訴狀中「被告神奈川縣右法律上代理人神奈川縣知事池田宏」トアルヲ「被告神奈川縣知事池田宏」ト訂正スル旨ノ訴狀訂正申立書ヲ更ニ當裁判所ニ提出シタルモノナルコトハ記錄上明確ナリ、是ニ由リ之ヲ觀レハ訴狀ニ於ケル被告ハ公共團體タル神奈川縣ニシテ、訴訟訂正申立書ニ於ケル被告ハ地方長官タル神奈川縣知事タルコトモ亦明瞭ナリ、而シテ斯クノ如ク被告ヲ變更スルコトハ出訴期間滿了後ニ於テハ最早之ヲ許ササルハ當裁判所判例ノ既ニ示ス所ノ如シ(大正十五年第三百三號不當裁決取消請求事件ニ對スル昭和二年二月一日宣告ノ判決)然ルニ原告カ訴狀訂正申立書ヲ當裁判所ニ提出シタルハ出訴期間滿了後ナルコトハ記錄上明ナルヲ以テ原告ノ爲シタル被告ノ變更ハ不適法ニシテ本件ハ其ノ後ニ於テモ依然公共團體タル神奈川縣ヲ被告トシテ當裁判所ニ繫屬スルモノト爲ササルヲ得ス、而シテ本訴ハ公有水面埋立免許ノ出願ニ對スル拒否處分ノ取消ヲ求ムル訴ナルヲ以テ地方長官タル神奈川縣知事ヲ被告ト爲スヘキコト當然ナリ、從テ公共團體タル神奈川縣ヲ被告トスル本訴ハ不適法トシテ之ヲ

却下スヘキモノトス (公有水面埋立出願却下ノ裁決ニ對スル異議ノ訴、三年二五二號、四年三月六日行

政二判決、法律新聞二九九六號一〇頁)

【理由ヲ附セサル裁決取消請求ト容否】 (事實)原告ハ秋田縣仙北郡金澤町會議員タリシ處國稅滯納ノ爲昭和二年十一月一日大曲稅務署長ヨリ滯納處分ヲ受ケタルニ因リ同町會ハ同年十二月十一日附ヲ以テ原告カ同町會議員ノ被選舉權ヲ有セサル旨決定シタリ、仍テ原告ハ被告ニ訴願シタルニ被告ハ同三年四月一日附ヲ以テ右決定ハ之ヲ取消スヘキ限ニ在ラサル旨裁決シタリ原告ハ之ニ服セス本訴ニ及ヒタルモノナリ、原告主張ノ要旨ハ被告ノ裁判ハ不當ナルヲ以テ之ヲ取消ス旨ノ判決ヲ求ムト云フニ在リ (理由) 原告ハ被告ノ本件裁決ハ不當ナリト云フモ何等其ノ理由ヲ主張セサルヲ以テ該裁決ノ取消ヲ求ムル原告ノ請求ハ之ヲ採用スルニ由ナシ (町會議員被選舉權ニ關スル訴、三年一〇一號、法律新聞二九九六號一五頁)

【代理權ナキ訴訟代理人ノ提起セル行政訴訟ト效力及費用負擔者】 藤谷智亦郎及田中秀四郎ハ原告金子紋吉、森榮八及眞藤勇助ノ訴訟代理人トシテ本訴ヲ提起シタルモ、其ノ代理權ヲ證スヘキ書類ヲ提出セサルニ因リ代理權アルモノト認メ難ク從テ其ノ訴ハ不適法ナルヲ以テ之ヲ却下シ之ニ關スル訴訟費用ハ右兩名ヲシテ連帶負擔セシムヘキモノトス (家祿賞典錄ニ關スル處分不服ノ訴、四三年四六號、四年四月五日行政二判決、法律新聞三〇〇九號一四頁)

【町村稅賦課ト町村會ノ出訴權ノ有無】 本訴ノ要旨ハ秋田縣由利郡龜田町長ハ同町居住者武田多三郎ニ對シ昭和三年度第一期分特別稅戶數割ヲ賦課シタル處同人ハ該賦課ヲ違法ナリトシ異議申立ヲ爲シタルニ依リ、原告ハ昭和三年十一月一日該異議申立ヲ排斥スル旨ノ決定ヲ爲シタリ、同人ハ之ヲ不當トシ更ニ被告ニ訴願シタルニ被告ハ昭和四年一月十八日附ヲ以テ原告ノ

爲シタル決定ハ之ヲ取消ストノ裁決ヲ爲シタルモ不服ニ付本訴ニ及ヒタリト謂フニ在リ、然レトモ町村制第一百條第三項ニハ町村會カ裁決ニ不服アル場合ヲ包含セス、又同第五項ニハ「前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得」トアリテ町村會ニ出訴權ヲ認ムル旨ノ規定ナシ (特別稅戶數割訴願ニ對スル裁決取消ノ訴、四年一〇三號、四年四月六日行政一判決、法律新聞三〇一五號一一頁)

【選舉人名簿ノ失効ト該名簿登錄ニ關スル行政訴訟】 本件選舉人名簿ハ昭和二年九月十五日現在ニ依リ調製セラレタルモノナルヲ以テ、該名簿ハ同三年十二月二十五日其ノ效力ヲ失ヒタルモノナリ、從テ本訴ハ同日ヲ以テ其ノ目的消滅シタルモノナレハ原告ノ請求ハ理由ナキニ至リタルモノトス (村會議員選舉人名簿登錄ニ關スル不當裁決取消請求ノ訴、三年一一六號、四年四月一日行政三判決、法律新聞三〇一五號一二頁)

【町村制一一〇條ニ依ル異議及行政訴訟】 營造物ノ權利ヲ侵害シタル行政處分ナキトキハ町村制第一百條ニ依リ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス、從テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス (營造物ヲ使用スル權利ニ關スル不當裁決不明ノ訴、三年三一〇號、四年五月九日行政一判決、法律新聞三〇一八號一六頁)

【市道等工事促進ノ請求ト行政訴訟】 道路法其ノ他ノ法律勅令中市道確設並溝側工事促進ヲ求ムル行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナシ (土道第二二二一號處分取消並市道確設促進ノ訴、三年三〇六號、四年五月七日行政三判決、法律新聞三〇二四號一六頁)

【府縣制一一五條ニ違背シテ提起サレタル行政訴訟】 府縣稅ノ賦課ニ關シ不服アルトキハ府縣制第一百五條ニ依リ府縣知事ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シ、府縣參事會ノ決定ヲ受ケ、其ノ決定

ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモ、本件ニ付テハ原告ハ長野縣上水内郡津和村長ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シ同村長ヨリ却下處分ヲ受ケ、之ニ對シ被告ニ訴願シテ却下ノ裁決ヲ受ケ、之ニ對シ本訴ヲ提起シタルモノナレハ本訴ハ適法ノ手續ニ違背セルモノトス(行政訴訟、四年九五號、四年六月一七日行政三判決、法律新聞三〇四六號九頁)

【道路改修請求ト行政訴訟】

長野縣上水内郡津和村道第三百十號線ハ原告先代ノ墓地ニ通スル道路ナルトコロ同村篠根熊三郎ハ全部畑ト爲シタルヲ以テ同人ニ對シ該道路ヲ改修スヘキ旨請求シタルモ應セサルニ依リ津和村長ニ對シ之ヲ改修セシムヘキ旨屢々請求スルモ是又應セサルヲ以テ更ニ被告ニ訴願シタルニ被告ハ右訴願ヲ却下スル旨ノ裁決ヲ爲シタルヲ以テ本訴ニ及ヒタル次第ナリ、依テ被告ハ町村道管理者ヲシテ長野縣上水内郡津和村道第三百十號線ニ相當スル道路ヲ改修セシムヘシトノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ、道路法其ノ他ノ法律勅令中斯ル事項ニ付行政訴訟ヲ許シタル規定ナキカ故ニ本訴ハ受理スヘカラサルモノトス(地方行政廳ノ違法處分ニ關スル訴、四年一六八號、四年六月二〇日行政一判決、法律新聞三〇四六號九頁)

【會社代表者トシテ訴ヲ提起セル取締役ノ選任決議無効ノ場合ト訴ノ適否】

當裁判所ノ職權

調査ノ結果ニ依レハ金澤精練染色株式會社ノ代表者ナリトシテ本訴ヲ提起シタル取締役三浦仁平ヲ外四名ノ者ト共ニ金澤精練染色株式會社ノ取締役ニ選任シタル昭和四年十二月十一日ノ同社株主總會ニ於ケル取締役選任決議ハ金澤地方裁判所ニ於テ無効ト判決セラレ右判決ハ昭和五年五月二十日確定シタルコト明ナルヲ以テ本訴ハ金澤精練染色株式會社ノ代表權無キ者ノ提起シタルモノトナスヘク、從テ行政裁判法第二十七條ニ所謂適法ノ手續ニ違背スルモノトシテ之ヲ却下スヘキモノトス(精練業法ニ依リ營業不許可處分ニ對スル訴、四年九二號、四年六月二五日行政

一判決、法律新聞三〇四九號一六頁)

【豫備役ヨリ現役ヘノ復職請求ト行政訴訟ノ能否】

原告ハ陸軍砲兵中佐トシテ能ク軍人タル

ノ體面ヲ保持シ官吏服務紀律其ノ他ノ諸規律ヲ嚴守シ職務ヲ全フセシニ拘ラス被告カ原告ヲ豫備役ニ編入セシハ被告カ原告ニ對シ私的惡感情ヲ抱懷スルニ至リシ際偶々原告ヲ精神病者ノ如ク誣謗スル者アリシヲ盲信シ且之ヲ故意ニ惡用シタルモノニシテ被告ハ原告ヲ退職セシムル爲原告ヲ由良要塞參謀ヨリ第四師團司令部定員外トシ第四師團長ヲシテ原告ニ申譯的ノ課題ヲ與ヘ其ノ未夕報告期ニ至ラサルニ原告ヲ待命トシ原告ニ何等旨ヲ論スコトナク退職セシメタルハ將校分限令ニ違反セルモノナルヲ以テ被告ニ對シ原告ヲ豫備役ヨリ現職ニ復職セシムヘキ旨ノ判決アラントコトヲ求ムト謂フニ在リ、然レトモ法律勅令中此ノ如キ事項ニ關シ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナキヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ却下スヘキモノトス(行政訴訟、四年一八六號、四年六月二七日行政一判決、法律新聞三〇五二號一六頁)

【御料地ヲ民有地ニ更正ト行政訴訟】

御料地ヲ民有地ニ更正ノ請求ニ付テハ法律勅令中行政

訴訟ノ提起ヲ認メタル規定ナシ(誤謬御料地ヲ民有地ニ更正ノ訴、四年一八八號、四年七月一日行政二判決、法律新聞三〇五二號一六頁)

訴願法

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス
 行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ
 訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

【期間經過後ノ訴願】 本訴中工事實費受益者負擔金納入告知處分ニ對スル部分ニ付テハ右告知
 書ハ昭和二年十一月二十日札幌市長ヨリ原告ニ交付シタルモノナルコトハ原告ノ争ハサル所ナ
 ルヲ以テ右處分ニ對シ原告カ昭和三年八月十七日被告ニ訴願ヲ提起シタルハ訴願法第八條第一
 項ノ訴願期間ヲ經過シタルモノニシテ被告カ訴願法第九條第一項ニ依リ之ヲ却下シタルハ違法
 ナリト謂フヲ得ス (土道第二二二二號處分取消並市道確設促進ノ訴、三年三〇六號、四年五月七日行政
 一判決法律新聞三〇二四號一六頁)

【特別都市計畫法六條ノ處分ニ對スル訴願提起期間ノ起算點】 昭和二年六月二十五日附ヲ以
 テ原告ニ對シ東京市長ノ發シタル換地豫定地變更命令ハ即特別都市計畫法第六條ニヨル行政處
 分ニシテ昭和二年六月三十日原告之ヲ受領シタルコトハ原告ノ認ムル所ナルヲ以テ、之ニ對ス
 ル訴願ハ昭和二年六月三十日ヨリ六十日經過セサル以前ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス、然ルニ原
 告カ右變更命令ニ對シ訴願ヲ提起シタルハ昭和二年十月二十七日附ナルコト原告ノ認ムル所ナ
 ルヲ以テ、右訴願ハ法定ノ期間ヲ經過シタル後ニ於テ提起セラレタルモノナルコト明ナリ、而

シテ東京市長カ右變更命令ヲ強制執行スルタメ昭和二年十月一日代執行ヲナシタルコト被告ノ
 認ムル所ナリト雖而モ之ノ代執行アリタル故ヲ以テ右變更命令ニ對スル訴願提起ノ期間ニ變更
 ヲ來タスヘキ理由ナシ (不當處分取消ノ訴、三年二二二號、四年五月一八日行政二判決、法律新聞三〇
 二七號一五頁)

府縣制

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第六條一項 府縣内ノ市町村公民ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

【住所ノ有無事實認定】 證人山下政治ノ證人ハ臨山啓次郎方ノ店員ニシテ同人方ニ居住ス、同人ノ依頼ニ依リ同人所有ノ長崎市本博多町四十九番地所在家屋ノ借主原告岩永方ヘハ大正十五年一月ヨリ昭和四年一月迄引續キ各月末ニ家賃ノ請求ニ赴キ居レリ、其請求ニ赴ク際ハ同人ノ妻ニ面會スルコト多ク原告岩永カ本村ニ赴キ不在ナリシコト二、三度アリ、大正十五年一月頃右家屋修繕ノ爲ニ、同年夏頃南京虫驅除ノ爲ニ同家ニ赴キタル際ニハ原告岩永ノ外ニ妻子書生、下婢等居住シ居リタリ、同人カ同家ニ引越シタル際ハ下婢二名書生一名ナリキ、現在書生二名ニテ内一名ハ子供ノ守役ヲ爲シ居レリ、同家ノ間取ハ階下四室階上三室疊數六七十枚ニテ家賃七十圓、家具ハ六、七名分アリ、同人ハ日蓮宗ニテ特ニ佛間トシテノ仕切ナキモ佛壇ノ如キモノヲ見受ケタリ、昭和二年夏ノ初頃同所ニテ女兒出生シタルコトヲ知ル旨ノ供述、同土橋岩雄ノ原告岩永トハ舊知ノ間柄ニテ互ニ往來ス、原告岩永ハ最初本博多町十一番地所在家屋ノ玄關ト二階トヲ借受ケ食事ハ仕出ニ依リ書生一名ト共ニ辯護士業務ニ從事シ其後同町四十九

番地ニ移リ其事務所ニハ妻子、書生、下婢等同居シ居リ、大正十五年頃妻ハ同所ニテ出産シタリト覺ユ、右事務所ハ其前本田恒之ノ辯護士事務所タリシモノニシテ本村ノ家屋ト比較スレハ家屋狭ク建物古ク庭園ナキモ貧弱ナルモノニ非ス、倉庫モアリ堂々タルモノナル旨ノ供述ト乙第九號證(昭和三年九月二十八日附長崎市長證明書)ニ於ケル「現在人員(雇人共)六人(内二人ハ小兒)」ノ記載トヲ對照考覈スルトキハ原告岩永ハ遅クトモ大正十五年一月以後彼村ニ住所ヲ有セサリシ者ト認ムルヲ相當トス、甲第一號證ハ本件決定書、同第二號證(原告岩永宛ノ内國通運株式會社湊町支店ノ大正十四年九月二十九日附貨物受取證)ハ荷物受取人タル同人ノ住所ヲ長崎彼村トシテ引越荷物二十三箇ヲ運送スヘキ旨ノ證書、同第三號證(原告岩永宛昭和三年一月二十二日附朝長醫院ノ同二年分藥代領收書)ハ單ニ同人家族等ノ藥代ヲ證スルニ過キス同第四號證(昭和二年十月二十八日附本村長證明書)同第五號證(同月十五日附原告岩永ノ寄留簿更正屆及同月二十八日附本村長證明書)及同第九號證(同月十八日附長崎市長證明書)ハ大正十五年一月十一日附原告岩永ノ寄留屆カ居所寄留届ナルコトヲ、同第六號證(昭和二年十月九日附浮田地所部貸家管理人東平敬一郎證明書)及同第八號證(原告岩永宛ノ葉書)ハ單ニ原告岩永カ大正十四年十月頃歸郷シタルコトヲ、同第七號證(同年九月二十一日附電報符箋)ハ同人宛ノ電報カ本村宛ニ轉送セラレタルコトヲ、同第十號證(同人ノ戶籍抄本)ハ同人カ同十五年六月十一日前戸主ノ隱居ニ因リ家督相續ノ届出ヲ爲シタルコト當事者間爭ナキ事實ヲ同第十二號證(昭和二年十月十五日附大村警察署長證明書)ハ原告岩永ノ本籍ヨリ彼村停車場迄ノ距離及所要徒歩時間ヲ、同第十三號證(同人宛大正十五年一月二十日附本村長告知書)ハ岩永トキヨヲ彼村尋常小學校ニ就學セシムヘキ旨ノ告知アリタルコトヲ、同第十四號證及同第

十六號證(同人又ハ同人及妻宛ノ本村長ノ信書)及同第十五號證(同人宛寺田要人外六名ノ信書)ハ同人ニ對シ本村ニテ開催ノ映畫會、勤儉獎勵、講演會又ハ橋梁改築竣工祝賀會ノ通シテリタルコトヲ、同第十七號證(昭和二年十月十五日附佐世保稅務署長證明書)ハ同人ニ對シ佐世保稅務署ニ於テ同年分ノ所得金額ノ決定及課稅アリタルコトヲ、同第十八號證(同年九月七日附本村長證明書)ハ大正十五年度及昭和二年度ノ村稅ヲ本村ニテ同人ニ賦課シタルコトヲ、同十九號證(昭和二年十月十五日附長崎稅務署長證明書)ハ同署長ニ於テ同人ノ所得金額ノ決定ヲ爲シタルコトヲ、同第二十號證(同月十八日附長崎市長證明書)ハ同市ニ於テ同人ノ納稅シ居ラサルコトヲ、同第二十一號證(同月八日附彼杵尋常高等小學校長證明書)ハ同人ノ長男長女カ前者ハ大正十四年九月ヨリ後者ハ同十五年四月ヨリ引繼キ同校ニ在學スルコトヲ、同第二十二號證(昭和二年ノ愛國婦人會彼杵委員區ノ會費領收證)ハ同人ノ妻ノ同會費ヲ同委員區ニ於テ領收シタルコトヲ、同第二十三號證(商業登記簿抄本)ハ同人ノ株式會社大村銀行監查役トシテノ住所カ同登記簿ニ本籍トナリ居ルコトヲ、同第二十四號證(同年十月十日附株式會社大村銀行營業部長ノ證明書)ハ同人ノ同銀行監查役トシテノ出張旅費及日當等カ本村ヲ標準トシテ計算給與セラレ居ルコトヲ、同第二十五號證(長崎縣內務部長宛同年十月八日附本村長ノ回答書)及同第二十六號證(住居年數ノ制限特免ニ關スル議決案謄本)ハ同人ニ付本村會カ住所年限特免ノ議決ヲ爲シタル顛末及同人ノ住所ニ關スル本村長ノ意見ヲ、同二十七號證乃至同第三十九號證、同四十一號證乃至同第四十九號證(同人宛ノ郵便物及電報)ハ斯カル通信又ハ其符箋ニ於ケル同人ノ肩書ハ本村トナリ居ルコトヲ、同第四十號證(昭和二年二月十八日附租稅領收證書)ハ佐世保稅務署カ昭和二年度ノ同人ノ租稅ヲ領收シタルコトヲ、同第五十

號證ノ一、二(長崎市金庫ノ領收證書)ハ同人ニ對スル同三年度ノ所得稅附加稅督促手數料及延滞金ヲ長崎市金庫カ領收シタルコトヲ、同第五十一號證(昭和四年三月九日附被告ノ裁決書)同五十五號證(長崎市長徵稅令書)及同第五十六號證(昭和三年十一月五日附長崎市參事會決證書)ハ同人ニ對シ同年度同市稅所得稅附加稅ノ賦課アリ同人カ異議ノ申立ヲ爲シ決定アリ更ニ同人カ訴願ヲ爲シ右賦課取消ノ裁決アリタルコトヲ、同第五十二號證(同年十二月十九日附本村長證明書)ハ本件選舉後タル同年九月十五日現在ヲ標準トスル本村村會議員選舉人名簿ニ同人ヲ登錄シアルコトヲ、同第五十三號證(同年十一月二十日附本村長證明書)ハ同人カ相續ニ因リ本村内ニ田畑山林宅地及家屋ヲ所有シ居ルコトヲ、同第五十四號證(同日附千綿村長證明書)ハ同人カ相續ニ因リ同村内ニ田畑山林原野及宅地ヲ所有シ同村ニ納稅管理人ヲ定メ届出ヲ爲シ居レルコトヲ、同第五十七號證(同月二十日附本村長證明書)ハ同人カ地租、府縣稅、市町村稅ニ付關係法規ニ依リ納稅管理人ヲ本村長ニ届出テ居ラサルコトヲ知ラシムルニ過キス同第五十八號證ハ陸地測量部圖ニ過キス同第五十九號證(昭和四年五月二日附本村長證明書)ハ同人カ本村役場ニ大正十五年以來印鑑ノ届出テヲ爲シ居レルコトヲ、同第六十號證(同日附長崎市長證明書)ハ同人カ同市役所ニ印鑑ノ届出ヲ爲シ居ラサルコトヲ、同第六十一號證(同日附日附大村警察署長證明書)ハ同人及妻カ大正十四年九月大阪市ヨリ本村ニ歸住シ引續キ住居シ居ル旨同署ノ戶口調査簿ニ記載シアルコトヲ、同第六十二號證(昭和四年五月二日附本村妙法寺住職ノ證明書)ハ同人カ父ノ隱居ニ因リ家督ヲ相續シ同寺ノ檀家トシテ本村自宅ニ於テ佛事供養ヲ爲シ居ルコトヲ、同第六十三號證(同月二十一日附彼杵驛長證明書)ハ同人カ本村ヲ住所トシ同驛ヲ起點トシテ長崎驛ニ到ル定期乘車券ヲ大正十五年、昭和二、三年中購入シ居リタ

ルコトヲ知ラシムルニ過キス、同第六十四號證(昭和四年五月二十二日附木内豐昭宛原告岩永ノ照會書)及同第六十五號證(同月二十三日附原告岩永宛ノ右ニ對スル回答書)ハ木内豐昭カ本件ニ關スル證人トシテノ供述ノ意義ニ關スル照會及回答ニ過キス、同第十一號證(昭和二年十月八日附彼杵驛長證明書)ハ措信シ難シ、其他原告引用ノ證人岩永武知、田川務、寺田要人丸本末八、渡邊北一、山下政治、古賀良治及土橋岩雄ノ各供述ハ何レモ前示認定ヲ覆スニ足ラス、然ラハ原告岩永藤樹ハ本件選舉ノ當時彼杵村ニ住所ヲ有セサル者ナルカ故ニ同人ハ長崎縣々會議員ノ被選舉權ヲ有セス、從テ同人ノ當選ヲ無効トシタル被告ノ本件決定ハ正當ナリ

(縣會議員當選異議決定ニ對スル訴、二年二五一、二八〇號、四年七月七日行三判決、法律新聞三〇五七號一頁)

【家資分散宣告後復權セサル者ハ府縣會議員被選舉權ナシ】原告カ大正五年十月二十八日家資分散ノ宣告ヲ受ケ本件選舉ノ際未タ復權ノ決定ヲ經サリシコトハ當事者間爭ナキ所ナリ、從ツテ破産法第三百八十六條第二項ニ依リ他ノ法令ノ適用上原告ハ破産者ト見做サルルカ故ニ原告ハ町村制第七條第一項第二號ニ該當シ町村公民ノ要件ヲ缺ク結果府縣制第六條ニ依ル府縣會議員ノ選舉權ヲ有セサルコト明瞭ナリトス(選舉ノ效力ニ關スル異議申立ニ付テノ府參事會ノ決定ニ對スル不服ノ訴、三年二〇〇號、四年四月一日行政三判決、法律新聞三〇〇九號一三頁)

【住所存否ノ事實認定】被告及參加人ハ參加人ハ從前ヨリ本件選舉當時迄引續キ富山縣下新川郡新屋村新屋ニ住所ヲ有シタリト主張スルモ、證人村井条治カ證人ハ大正十五年一月三日新屋村駐在所ニ赴任シ爾來勤務スル巡查ニテ駐在所ト參加人ノ家トノ距離ハ約十町ナリ、一日一回同村ヲ巡回スルモ參加人ニ會スルコト稀ナリ、駐在所ニ着任ノ際及其後戶口調査ノ際同村ノ

參加人ノ家ニハ同人ノ母カ居リタルモ參加人及妻ハ居ラス、參加人カ同村ニテ從來病室ニ使用シタル建物ヲ同年五月頃ヨリ取毀ニ着手シテ之ヲ宇奈月ニ移シ其他醫院ノ設備ノ大體ノ物モ亦同地ニ移シタリ、見聞スル所ニ依レハ參加人ハ其醫業ヲ八分通り宇奈月ニ移シ新屋村ニ於テ醫業ニ從事スルハ二分位ナリ、參加人カ同村ノ家ニテ診療ニ從事シタルコトヲ見タルコトナキ旨ノ供述、證人若狹善作ノ證人ハ新屋村ニ生レ永年同村ノ町方面ニ居住ス、參加人ハ同村ニテ醫業ヲ爲シ居タルモ大正十三年九月頃藥局ノ者ヲ伴ヒ宇奈月ニ赴キ翌年六、七月頃妻ヲモ件ヒ行キ同年中ト記憶ス從來病室ニ使用シタル建物ヲ毀テ之ヲ宇奈月ニ移シ同年ヨリハ新屋村ニテ開業シ居ラス、參加人ハ尙同村ニ家ヲ所有シ月一回位同村ニ來ルモ同人ノ身體ハ宇奈月ニ在リ同地ニテ開業シ居レリ、參加人ハ新屋村ノ町方面ヨリ同村會議員ニ選舉セラレタル者ナルモ同人カ宇奈月ニ行キタル關係上同村會開會ノ際出席セサルコトアル爲村民間ニ不平ヲ唱フル者アリタル旨ノ供述、證人佐々木半左工門ノ證人ハ大正十二年四月二十六日ヨリ同十五年六月二十九日迄ノ間日本電力株式會社ノ社員トシテ内山村ニ在勤シ退社後モ昭和三年二月長野縣下へ出稼前途ハ營業上日常同村へ往來シ居タリ、大正十四年十一月頃ト記憶ス參加人ハ新屋村ノ住居ヲ宇奈月ニ移シタリ、同人ハ始終同地ニ在ルヲ以テ同地ニ住居スルモノト認メ居レリ、同人ノ妻モ雇人モ右時期頃ヨリ同地ニ來リ居レリト記憶ス、而シテ參加人カ宇奈月ニ來リタル際ハ新屋村ニ少シク通ヒ居タル様ナルモ其後ハ餘リ通ハサル様ナリ、宇奈月ノ病院ニ雇醫師アルモ參加人自身カ主トシテ醫業ニ從事スル旨ノ供述、證人山形九部兵衛ノ證人ハ大正十四年九月六日内山村助役ニ就任シ爾來引續キ在職シ村治上ノ實務ハ全部之ヲ管掌シ居レリ、同十五年九月十五日現在ニ依リ調製シタル縣會議員選舉人名簿ニ參加人ヲ登載セサリシ理由ハ在任年限ノ要件

タル二年ニ一年四月餘不足ナリト認メタルニ由ル、参加人ヲ同年一月以來同村ノ住民ト認メタルハ同月宇奈月商工會長ニ推サレ同年五月同村小學校宇奈月分教場設置陳情ノ代表者トナリ同年七月宇奈月消防組小頭部長トナリ同年九月ニハ右分教場建設費寄附ノ總代トナリ且宇奈月神社創立ノ代表者トナリタルコト、調査、消防等ノ用事ノ爲證人カ何時病院ニ赴クモ参加人及家族カ居ルコト其他ノ狀況ヨリ之ヲ認メタルモノナリ、又同人ハ同村ヘ寄留ノ手續ヲ爲シ居ラサルモ住所アル以上賦課シ得ルモノナルカ故ニ同年度ニ於テ参加人ニ對シ戸數割ヲ賦課セントシ申告書ヲ配付シタルモ申告ナク詳細算定スルコトヲ能ハサリシ際新屋村ニ於テモ同人ニ對シ戸數割ヲ賦課シ居レル旨聞及ヒタルヲ以テ課稅競合シ複雑ナル問題ヲ生センコトヲ慮リ賦課ヲ見合セ昭和二年度ニハ村會ニテ同人ニ對スル歩合ヲ四戸ト決定シタルモ同人ヨリ特別寄附ノ申出アリタルヲ以テ賦課セサルコトトシタキ旨ノ村長ノ提議ニ村會議員カ同意シタル結果賦課セザリシモノナリ、同村ノ一般村民ハ同人ヲ村ノ人ト認メ居レリト思料ス三、四ヶ月ノ出稼人ヲ村ノ人ト稱スルコトナシ、同人ノ生活狀態ハ大正十五年以來變動ナキ旨ノ供述並ニ甲第一號證(昭和二年十二月一日附内山村長證明書)中参加人ノ内山村ニ於ケル大正十五年度ノ所得額カ同人ノ總所得額一萬一千八百三十八圓中一萬一千四百八十六圓ナル旨ノ記載同第十四號證ノ一ノ三(大正十四年四月廿八日参加人提出ノ同年第三種所得申告書)中参加人ノ現住所ヲ下新川郡新屋村新屋六三〇一番地ト記載シアルニ反シ同證ノ二ノ三(大正十五年四月二十九日参加人提出ノ同年第三種所得金額申告書)中ニハ参加人ノ現住所トシテ同郡内山村桃原四二六ト記載シアルコト等ヲ綜合考覈スルトキハ参加人ノ住所ハ大正十四年十一月新屋村新屋ヨリ内山村宇奈月ニ移リタルモノト認ムルヲ相當トス、乙第一號證ノ一(有限責任新屋村信用購買販賣組合

定款ノ一部)同證ノ二(昭和二年十月四日附同組合長ノ證明書)同第二號證(其成立真正ナリトスルモ)ノ一(大正十三年七月一日附日本電力株式會社々長山岡順太郎ヨリ参加人ニ對スル檢診醫囑託辭令書)同證ノ二(同年十月一日参加人ノ覺書)同第三號證ノ一(内山、新屋兩村長ニ對スル昭和二年十月三日附富山縣內務部長ノ照會書)同證ノ二(右ニ對スル内山村助役ノ同月四日附回答書)同證ノ三(右ニ對スル新屋村長ノ同日附回答書)同證ノ四(内山村長宛同縣內務部長ノ四月五日附照會書)同證ノ五(右ニ對スル内山村助役ノ同月七日附回答書)同證ノ六(下新川郡柵山村用水關係町村組合規定)同第四號證ノ一(同縣內務部長宛同三年四月二十五日附内山村長回答書)同證ノ二(同部長宛同月二十四日附富山市長回答書)同證ノ三(同縣第一區ノ内下新川郡ノ衆議院議員選舉人確定名簿抄本)同證ノ四(同縣第一區ノ内富山市ノ同名簿抄本)同第五號證ノ一(同年二月四日附柵山村長證明書)同證ノ二(同月二日附新屋村長證明書)同第六號證ノ一乃至六(参加人所有ノ新屋村所在家屋寫眞)丙第一號證(陸地測量部圖)同第二號證(昭和三年一月二十七日附内山村長證明書)同第三號證(同月二十四日附新屋村長證明書)同第四號證(同二年十二月十三日附内山村長ノ證明書)並ニ證人後藤清造、竹山幸四郎、中山佐平ノ供述及同村井条治、福澤武治ノ供述中参加人引用ノ部分、之ヲ要スルニ参加人ハ本件選舉ノ際新屋村ニ住所ヲ有セス、且内山村ニ住所ヲ有スルコト二年ニ滿タス、從テ右兩村ノ何レノ公民ニモ非サルカ故ニ、本件選舉會ノ處分並ニ之ヲ是認シタル被告ノ決定ハ共ニ失當ナリ(縣會議員當選ノ效力ニ關スル異議申立ニ對スル縣參事會ノ決定取消請求ノ訴、二年二四四號三年一二月六日行政三判決、法律新聞二九五八號一一頁)

第九條 府縣會議員ノ選舉ハ其ノ府縣内ニ於ケル市町村會議員選舉人名簿ニ依リ之ヲ行フ

町村制第三十八條ノ町村ニ於テハ同法第十八條乃至第十八條ノ五ノ規定ニ準シ選舉人名簿ヲ調製ス
ヘシ

前項ノ選舉人名簿ハ之ヲ町村會議員選舉人名簿ト看做シ第一項ノ規定ヲ適用ス

【分級ノ選舉人名簿ト其抄本ノ調製】 大正十五年ノ内務省令第三十九號府縣制中改正法律附
則第三項ノ規定ニ依ル命令ノ件ニ則リ昭和二年九月十五日現在ニ依リ調製セラレタル本件選舉
人名簿ニ付同令第五條ニ依リ準用セラレル市制第二十一條第一項ニ依レハ選舉人名簿原本ハ横
須賀市選舉區ノ全部ヲ通シ一體トシテ之ヲ調製スヘキモノトス、從テ假令之ヲ數冊ニ分級スル
モ該原本ハ各冊毎ニ獨立スルモノニ非サルヲ以テ各冊中ヨリ其一部宛ヲ取りテ抄本ヲ調製スル
モ之ヲ以テ名簿原本ニ依ラサル抄本ナリト云フヲ得ス、故ニ本件選舉ニ於テ第三乃至第五投票
區ニ付變更セラレタル新區域ニ適合セル選舉人名簿ノ抄本ヲ調製シ之ヲ使用シタレハトテ之カ
爲該選舉ハ府縣制第十八條第三項ニ違背シタリト云フヲ得ス(縣會議員選舉ノ效力ニ關シ異議申立
ニ對スル決定取消ノ訴、四年七五號、四年五月六日行政三判決、法律新聞三〇二七號九頁)

【府縣制三六條一項ノ再選舉ト選舉人名簿】 昭和三年八月五日執行ノ本件再選舉ノ際石川縣
鹿島郡選舉區内ノ各町村ニ於テハ未タ町村會議員ニ付次ノ總選舉ナカリシコト乙第一號證(鹿
島郡前回總選舉年月日調)ニ依リ明ナルカ故ニ、本件再選舉ニハ大正十五年法律第七十三號府
縣制中改正法律附則第三項ニ基ク同年内務省令第三十九號ニ依ル選舉人名簿ヲ用ウヘキモノト
ス、而シテ同令第五條町村制第十八條及第十八條ノ四ニ依レハ町村會議員ノ選舉人名簿ハ毎年
九月十五日ノ現在ニ依リ調製スヘキモノニシテ其ノ年十二月二十五日ヲ以テ確定シ次年ノ十二
月二十四日迄之ヲ據置クヘキモノナルカ故ニ昭和三年八月五日執行ノ本件再選舉ニハ其ノ前年

タル同二年九月十五日現在ニ依リ調製シタル選舉人名簿ヲ用ウヘキコト勿論ナリ、原告ハ本件
再選舉ハ府縣制第三十六條第一項ニ依ル選舉ナルカ故ニ同年九月二十四日執行ノ前ノ選舉ト形
式上ニモ實體上ニモ同一性ヲ有スヘキモノナルノミナラス、同法第三十條第二項ノ規定ニ徴ス
ルモ前ノ名簿ヲ用ウヘキモノナリト主張スト雖同法第三十六條第一項ニ依ル選舉ハ選舉無效ト
確定シタル場合ニ於テ行フ選舉タルニ止マリ、形式上及實體上凡テノ點ニ於テ前ノ選舉ト同一
ナルコトヲ必要トスルモノニ非ス、又同法第三十條第二項ハ唯選舉人名簿ノ保存ニ關スル規定
ニ過キスシテ其據置期限ヲ經過スル以上選舉ニ之ヲ用ウヘカラサルコトハ毎年之ヲ調製セシム
ルニ見ルモ明瞭ナルカ故ニ原告ノ主張ハ失當ナリ、然ラハ本件再選舉ニ後ノ名簿ヲ用キタルハ
何等選舉ノ規定ニ違反スル所ナシ(選舉無效並ニ當選取消ノ訴、三年二六四號、四年二月二六日行政
一判決、法律新聞二九八九號一五頁)

第三十四條一項 選舉人又ハ議員候補者選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選
舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十一條第一項又ハ前條第二項ノ告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣
知事ニ申立ツルコトヲ得

【期間滿了日カ大祭祝日、日曜其他休日ナル場合ト異議申立期間】 被告ハ本件異議ハ府縣制
第三十四條第一項ニ依リ選舉ノ日タル昭和三年六月十日ヨリ十四日ノ期間滿了タル同月二十四
日迄ニ之ヲ申立ツルコトヲ要スルニ拘ラス、本件異議申立書ハ同月二十五日東京府知事ニ提出
セラレタルモノナルカ故ニ、法定ノ申立期間ヲ經過シタルモノナリト云フモ同項ノ異議申立期
間ノ計算ニ付テハ其期間滿了日カ大祭祝日、日曜日其他ノ休日ナルトキハ一般ノ通則ニ依リ其
翌日ヲ以テ滿了日ト爲スヘキモノトス(東京府會議員選舉ノ效力ニ關スル訴、三年二〇六號、三年一

一月一日行政三判決、法律新聞二九五六號一三頁)

第五章 府縣ノ財務

第一款 財產營造物及府縣稅

第三百三條 府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ムル所ニ依ル

府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

【所得稅附加稅賦課ノ客體及課率】 法人ニ對スル所得稅附加稅ハ本稅ヲ標準トシ其ノ稅額ヲ定メテ賦課スルモノナレトモ其ノ客體ハ本稅ト同シク各事業年度ノ所得ナリト認ムヘキカ故ニ其ノ納稅義務ノ有無及範圍ハ本稅ト同時ニ定マルヘキモノト解スルヲ相當トス、從テ各事業年度終了ノ日ノ屬スル年度ノ現行法令ヲ適用シ其ノ課率ニ依リ賦課セサルヘカラサルコトハ當裁判所昭和三年第三二三號事件ニ於テ判示シタル所ノ如シ、然レハ本稅決定ノ日ノ屬スル年度ノ課率ニ依リタルコト爭ナキ本件縣稅所得稅附加稅ノ賦課ハ違法ニシテ之ヲ是認シタル被告ノ決定亦失當ナリ(縣稅賦課ニ關スル縣參事會ノ決定ニ對スル訴、三年二八八號、四年四月一日行政一判決、法律新聞三〇一八號九頁)

第三百十六條四項 第二項ノ規定ニ依ル督促又ハ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限マテニ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スヘシ

【縣稅附加處分ノ確定ト滯納處分】 本件地租附加稅及大正十五年度縣稅戶數割ノ賦課ニ原告

主張ノ如キ錯誤アルモノト假定スルモ原告力法定ノ期間内ニ異議申立ヲ爲ササリシカ爲右賦課ハ確定シタルモノナレハ之ニ基キテ爲シタル本件滯納處分ハ違法ニ非ス(縣稅滯納處分ニ對スル異議申立裁決取消ノ訴、三年二一四號、四年一月三十一日行政三判決、法律新聞二九七七號一六頁)

第六章 府縣行政ノ監督

第二百二十八條五項 異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

【期間經過後爲シタル府縣稅賦課異議申立ト宥恕受理】 原告ハ本件縣稅戶數割ノ賦課ニ對スル訴外中川卯平等ノ異議申立ハ府縣制第一百五條第一項ノ期間經過後ニ係ルヲ以テ之ヲ受理シ決定シタルハ違法ナリト云フモ、右縣稅戶數割後期分ニ付テハ徵稅傳令書ノ交付カ大正十二年十月二十五日ニシテ之ニ對スル異議申立カ大正十三年一月二十一日ナルコトハ當事者間爭ナキ事實ニシテ府縣制第一百五條第一項ノ期間内ナリ、其ノ前期分ニ付テハ徵稅傳令書ノ交付カ大正十二年八月十五日ナルヲ以テ同條項ノ期間ヲ經過セリト雖府縣制第二百二十八條第五項ニ依レハ異議ノ申立ハ期間經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ、被告力宥恕ノ意味ニテ府縣制第一百五條第一項ノ期間經過後右中川卯八等ノ異議申立ヲ受理シ決定シタルハ違法ナリト云フヲ得ス(縣稅戶數割賦課ノ異議申立ニ對シ爲シタル裁決ニ對スル訴、一五年四九三號、四年三月三〇日行政一判決、法律新聞三〇〇三號一四頁)

市制

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第二十五條ノ二項 確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉人名簿ニ登錄セラレルコトヲ得サル者ナルト

キハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

【選舉權アル者ノ投票拒否ト選舉規定ノ違反】 山中只吉及野崎孫助カ本件選舉人名簿ニ登錄セラレアルコト、山中只吉カ獨立ノ生計ヲ營ム者ナルコト、山中只吉及野崎孫助ノ投票ヲ拒否シタルコト明ナリ、而シテ被告ハ其ノ裁決ニ於テ野崎孫助ハ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ非スト云フモ何等ノ立證ヲ爲ササルカ故ニ同人カ本件選舉人名簿ニ登錄セラレアル以上同人ヲ以テ獨立ノ生計ヲ營ム者ト認メサルヘカラス、然ラハ同人並ニ前示ノ如ク獨立ノ生計ヲ營ム者ナルコト明ナル山中只吉ノ投票ヲ拒否シタルハ選舉ノ規定ニ違反シタルモノトス (市會議員選舉ノ效力ニ關スル訴、二年一〇號、四年二月二八日行政三判決、法律新聞二九九二號九頁)

第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スル虞アル場合ニ限り其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限り當選ヲ失フコトナシ

【選舉規定ノ違反ト選舉無効ノ關係】 選舉會カ定メタル最少得票當選者西山精一ト最多得票落選者江淵俊政トノ得票數ノ差カ二票ナルヲ以テ假ニ右兩名カ江淵俊政ニ投票シタルモノトシ其ノ得票數ニ二票ヲ加フルトキハ七十票トナリ西山精一ノ得票數ト同數トナリ前者カ年長者ナルコト前示ノ如クナルカ故ニ右選舉規定ノ違反ハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スル虞アルヲ以テ、改正前ノ市制第三十五條ニ依リ本件選舉ハ全部之ヲ無効トスヘキモノトス (市會議員選舉ノ效力ニ關スル訴、二年一〇號、四年二月二八日行政三判決、法律新聞二九九二號九頁)

第六章 市ノ財務

第一款 財產營造物及市稅

第十七條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノノ左ノ如シ

- 一 直接國稅及府縣稅ノ附加稅
- 二 特別稅

直接國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

【所得稅附加稅及營業收益稅附加稅賦課ノ客體及課率】 法人ニ對スル所得稅及營業收益稅ハ

市制 市ノ財務 財產營造物及市稅 (一一七條)

該法人ノ各事業年度毎ニ其ノ所得又ハ純益ニ付賦課スルモノニシテ其ノ所得又ハ純益ノ有無及數量ハ各事業年度ノ終了ト同時ニ實質的ニ確定スヘキモノナリ、故ニ所得税及營業收益税ノ納稅義務ノ有無及其ノ範圍ハ當該事業年度ニ於ケル法律ニ依リ之ヲ定メサルヘカラス、而シテ附加税ハ本税ヲ標準トシテ其ノ税額ヲ定メ賦課スルモノナレトモ其ノ客體ハ本税ト同時ニ定マルヘキモノト解スルヲ相當トス、從テ各事業年度終了ノ日ノ屬スル年度ノ現行法令ヲ適用シ其ノ年度ノ課率ニ依リ賦課セサルヘカラス、然レハ本件ニ於テ若松市長カ原告會社ニ對スル係爭事業年度ノ所得税附加税及營業收益税附加税ヲ當該事業年度以後ニ於ケル本税決定ノ日ニ屬スル年度ノ課率ニ依リ賦課シタルハ違法ナリ(所得税附加税及營業收益税附加税賦課取消ノ訴、三年三三三號、四年四月一日行政一判決、法律新聞三〇一八號一〇頁)

【附加税ノ納稅義務發生時期及課率】 法人ニ對スル所得税及營業收益税ハ該法人ノ各事業年度毎ニ其ノ所得又ハ純益ニ付賦課スルモノニシテ其ノ所得又ハ純益ノ有無及數量ハ各事業年度ノ終了ト同時ニ實質的ニ確定スヘキモノナリ、故ニ所得税及營業收益税ノ納稅義務ノ有無及其ノ範圍ハ當該事業年度ニ於ケル法律ニ依リ之ヲ定メサルヘカラス、而シテ附加税ハ本税ヲ標準トシテ其ノ税額ヲ定メ賦課スルモノナレトモ其ノ客體ハ本税ト同時ニ定マルヘキモノト解スルヲ相當トス、從テ各事業年度終了ノ日ノ屬スル年度ノ現行法令ヲ適用シ其ノ年度ノ課率ニ依リ賦課セサルヘカラス、然レハ本件ニ於テ若松市長カ原告會社ニ對スル係爭事業年度ノ所得税附加税及營業收益税附加税ハ當該事業年度以後ニ於ケル本税決定ノ日ノ屬スル年度ノ課率ニ依リ賦課

シタルハ違法ナリ(所得税附加税及營業收益税附加税賦課取消ノ訴、三年三三三號、四年四月一日行政一判決、法律新聞二九八三號一〇頁)

第二款 歲入出豫算及決算

第三百三十四條 市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

【課率ヲ豫算ヲ以テ定メサル市税附加税ノ賦課】 市制第十六條ニハ「市ハ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ、市ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠金、其ノ他法令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市税及夫役現品ノ賦課徵收スルコトヲ得」ト規定シ、同第三百三十三條ニハ「市長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遲クモ年度開始ノ一月前ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ」同第三百三十四條ニハ「市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得」ト規定シ又同第四百三十三條ニ基キ定メタル市制町村制施行規則第三十三條ニハ「市町村税其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スヘシ」同第三十四條ニハ「各年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歲出ニ充ツルコトヲ得」ト規定シアルニ依リ之ヲ綜合考覈スルニ、市税ノ賦課ハ財產其ノ他ノ收入ヲ以テ市ノ必要費用其ノ他ノ支出ニ充テ仍不足アル場合ニ限り之ヲ爲シ得ルモノニシテ而モ其ノ收入ヲ以テ支出ニ充テ仍不足ナリヤ否ヤハ豫算ヲ調製シ又ハ之ヲ追加若ハ更正シテ之ヲ明瞭ニセサル以上市費支辨ノ爲ニ賦課ノ必要アリト云フコトヲ得サルヲ以テ、市税ヲ賦課スルニハ其ノ賦課ノ標準

及課率ヲ豫算ニ依リ定ムルコトヲ要スルモノトス、是岐阜市ノ市税賦課徴收規程第三條ニモ「市税ハ毎年度豫算ニ定メタル課率ニ依リ賦課徴收ス」ト規定セル所以ニシテ同條ノ趣旨ハ市税ノ賦課徴收ハ必ス豫算ニ於テ定メタル課率ニ依ルコトヲ要スルモノト解セサルヘカラス、然レハ追加縣稅家屋稅ニ對シ適用スヘキ課率ヲ豫算ヲ以テ定メス單ニ本稅一圓ニ付金七十五錢ノ課率ヲ以テ市税附加稅ヲ賦課スル旨ノ議決ヲ爲シ、之ニ基キテ爲シタルコト爭ナキ本件家屋稅附加稅ノ賦課ハ前示市制ノ法意及岐阜市稅賦課徴收規程第三條ノ規定ニ背キ豫算ヲ定メタル課率ニ依ラサル違法アルモノニシテ取消ヲ免レサルモノトス（市稅違法賦課取消ニ關スル訴、三年二七五號、四年七月九日行政一判決、法律新聞三〇五二號一二頁）

都市計畫法

第五條 都市計畫事業ハ勅令ノ定ムル所ニヨリ行政廳之ヲ施行ス

主務大臣特別ノ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニヨリ行政廳ニ非サル者ヲシテ其出願ニヨリ都市計畫事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

【東京市長ノ土地區劃整理處分】 本件東京市長ノ處分ハ内務大臣ノ處分タル效力ヲ有スルモノトシ直ニ之ニ對シテ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノナル旨主張スルモ、都市計畫法及特別都市計畫法ニ依レハ東京市ノ土地區劃整理ハ行政官廳ニ於テモ亦東京市長ニ於テモ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノニシテ、而カモ大正十三年三月二十七日東京市告示第百一十一號ニ依レハ係争地區ハ東京市長ニ於テ土地區劃整理ノ執行ヲ爲スヘキ地區ニ屬スルコト明ナルヲ以テ本件東京市長ノ處分ハ同市長カ土地區劃整理ノ執行ニ關シ自己ニ屬スル權限ニ基キテ爲シタル處分ニシテ、行政官廳タル内務大臣ノ權限ニ屬スル事項ニ付同大臣ノ代理トシテ爲シタルモノニ非ストスルヲ正當トス（違法處分取消ノ訴、三年二七六號、四年二月一八日行政二判決、法律新聞二九九二號一三頁）

第二十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

【代執行ト都市計畫法二六條ノ處分】 本件ノ代執行ハ特別都市計畫法第六條ノ規定ニ基キ東京市長カナシタル移轉命令ノ執行ノタメニ東京市長カナシタルモノナルモ同法第十一條ニヨリ

同法ニ準用セラレタル都市計畫法第二十六條ニ所謂「本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分」トアルニ該當セサルコト明ナリ (不當處分ノ取消ノ訴、三年二二一號、四年五月一八日行政二判決、法律新聞三〇二七號一五頁)

特別都市計畫法

第六條一項 前條ノ土地區劃整理施行ノ爲メ必要アル時ハ換地豫定地ヲ指定シテ土地區劃整理施行地
區内ニ存スル建物其ノ他ノ工作物ノ所有者ニ對シ其ノ移轉ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少ク
トモ三ヶ月前ニ所有者及占有者ニ其ノ旨ヲ豫告スヘシ

【土地區劃整理ニ依ル移轉命取消ノ行政訴訟ノ能否】 本件ハ東京市長カ特別都市計畫法第六
條ニ依リ原告ニ對シ爲シタル建物其他ノ工作物ノ移轉命令ノ取消ヲ求ムルニ在リ、然ルニ同法
ニ依リ行政廳ノ爲シタル建物其ノ他ノ工作物ノ移轉命令ニ對シテハ同法第十一條ニ於テ準用シ
タル都市計畫法第二十六條ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ルコトハ當裁判所カ大正十五年第百
八十九號、第九十七號、第二百號、第二百三號及第二百六號事件ニ付昭和二年十二月廿七日
判決シタル所ノ如シ、被告ハ都市計畫法第十三條第二項ハ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ
付耕地整理法ヲ準用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得ル旨ヲ規定
セルニ右規定ニ基キ同法施行令第十五條乃至第十九條ヲ以テ特ニ公共團體ニ關スル規定ヲ設ケ
タリト雖其ノ各條中ニ訴願及行政訴訟ニ付都市計畫法第十三條ニ所謂別段ノ定アルヲ見ス、是
公共團體カ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ其ノ處分命令ニ對シテ耕地整理法ヲ準用シ難キ
理由ナク又土地所有者等ノ一人若ハ共同又ハ組合ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合トノ間ニ
差異ヲ設クヘキ理由ナキニ由ルモノニシテ公共團體カ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ訴
願及行政訴訟ノ提起ヲ許ササルノ法意ナリト主張スト雖、都市計畫法第十三條第二項ハ公共團
體ノ施行スル土地區劃整理ニ付同法ニ規定ナク又耕地整理法ヲ準用シ難キ事項ニ付勅令ヲ以テ

必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得ル旨ヲ規定シタルニ止マリ同法ニ規定アル事項ニ付テハ當然同法ノ規定ヲ適用スヘキモノナルヲ以テ同法第十三條第二項及之ヲ準用シタル特別都市計畫法第九條ニ基ク勅令中ニ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ關スル訴願及行政訴訟ニ付規定ナキノ故ヲ以テ直ニ耕地整理法ヲ準用シ訴願及行政訴訟ヲ許ササルノ法意ナリト解スヘキニ非ス、而シテ行政廳又ハ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付都市計畫法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ規定アル事項ノ行政處分ニ對シテハ同法第二十五條ニ依リ訴願ヲ同法第二十六條ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノト解スヘク、此等ノ規定ハ特別都市計畫法第十一條ニ依リ同法又ハ同法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ準用セラレタルヲ以テ特別都市計畫法又ハ同法律ニ基キテ發スル命令ニ規定アル事項ニ關スル行政處分ニ對シテモ之ニ依リ訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ルモノト解スヘク、從テ此ノ點ニ付都市計畫法第十三條第二項及特別都市計畫法第九條ニ依ル勅令中ニ規定ヲ設クルノ必要ナキモノトス、又行政廳又ハ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ト土地所有者等ノ一人若ハ共同又ハ組合ニ依リ施行スル土地區劃整理トノ間ニハ前者ハ行政廳又ハ公共團體ノ職權ニ依リ行政爲トシテ私人ノ土地ニ付施行スルモノナルニ後者ハ土地所有者等カ各自ノ土地ニ付自ラ施行スルモノナルノ差アリ、後者ノ施行ニ付訴願及行政訴訟ヲ許ササルモ前者ノ施行ニ付テハ之ヲ許スヘキ理由アルヲ以テ前記勅令ノ規定中ニ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付訴願法及行政訴訟ニ關シ規定ナキハ兩者ノ間ニ差異ヲ設クヘキ理由ナキニ因ルモノト認ムルヲ得ス、從テ被告ノ前記主張ハ不當ナリ之ヲ要スルニ被告ノ妨訴抗辯ハ理由ナシ（土地區劃整理ニ依ル移轉命令取消ノ訴、三年一七五號、四年二月九日行政一判決、法律新聞二九八二號五頁）

町村制

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十五條

選舉權ヲ有スル町村民ハ被選舉權ヲ有ス

在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選舉權ヲ有セス

選舉事務ニ關係アル官吏及町村ノ有給吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

町村ノ有給ノ吏員教員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ其ノ町村ノ町村會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

【町村ニ對スル請負關係ト當選ノ效力】

岡田龜吉ハ本件選舉ノ當時山波村ニ對シ請負ノ關係

ニ在リタル事實アリシコト原告主張ノ如シト假定スルモ該事實ハ被選舉權ノ闕格原因タルモノ

ニ非サルカ故ニ之カ爲メ同人ノ當選カ無効タルヘキモノニ非ス（村會議員選舉及當選效力ニ關スル

縣參事會不當裁決取消ノ訴、三年二九四號、四年二月二八日行政三判決、法律新聞二九九二號二〇頁）

第二十二條

選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

【無記名投票ノ趣旨ニ反スル無効ノ投票】

北山村會議場ハ縱二十一尺橫十五尺ノ室ニシテ其

ノ中ニ長十二尺五寸幅一尺二寸八分ノ卓子ヲ二尺五寸ノ間隔ヲ以テ二列ニ並ヘテ議員用トシ、

町村制 町村會 組織及選舉（一五條、二二條）

其ノ一端ニ議長及書記用トシテ長二尺五寸ノ卓子ヲ置キ議長書記各一人議員十二名出席シタル事實ヲ綜合考覈スルトキハ、本件選舉ノ執行ニ際シ選舉長タリシ助役須藤勇初メ一派ノ村會議員カ通謀シテ多數ノ傍聽者ヲ狹隘ナル村會議場ニ入場セシメテ各議員ノ背後ニ居ラシメ各議員カ其ノ投票用紙ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載スルニ當リ他人ノ窺知ヲ避クルコト不可能ナラシメタルモノト認ムルヲ相當トス、各證中右認定ヲ覆スルニ足ルモノナシ、從テ本件選舉ハ町村制第二十二條第一項所定ノ無記名投票ノ趣旨ニ反スル違法ノ選舉ニシテ其ノ投票ハ無効ナルヲ以テ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アルコト勿論ナルカ故ニ本件選舉ハ全部無効タルヘキモノトス (組合會議員選舉無効ノ訴、三年七一號、三年二月六日行政三判決、法律新聞二九七三號九頁)

第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサル者
- 二 現ニ町村會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
- 五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ非ラス
- 七 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

【投票效力ノ事實認定】 甲第二號證ノ一ノ第一字右側ノ「ス」字ハ第一字ヲ誤記シ其カ「鈴」ナルコト明白ナラシムヘク記載シタルモノト認ムヘク、同證ノ三ノ投票中原告指摘ノ墨痕ハ書

損ニ過キス且記載ノ全體ヨリ觀テ同人ヲ選舉シタルモノト認ムルニ足り、同證ノ四ノ原告指摘ノ墨痕ハ書損、同證ノ五ノ第三字ハ誤記、同證ノ六ハ「八」ヲ遺脱シタルニ過キスト認ムヘキカ故ニ右五票ハ何レモ鈴木仙八ノ有效得票ト爲スヘキモノトス、然レトモ同證ノ二ノ投票ノ末字ハ「二」ニシテ他事記入ト認ムヘク、從テ町村制第二十五條第六號ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス、原告ハ鈴木仙八ノ有效得票中尙無効トスヘキモノ三票アリト主張スルモ斯カル投票ナシ、又被告ハ乙第一號證ノ投票ヲ鈴木仙八ノ有效得票中ニ加算スヘキモノナリト主張スルモ同證ノ末字ハ「モ」ニシテ「チ」ノ誤記ト認メ難ク他事記入ト認ムヘキカ故ニ同號ニ依リ之ヲ無効トスヘキモノトス、然ラハ鈴木仙八ノ有效得票數ハ百五十七票トナル、次ニ原告ハ甲第三號證ノ投票ヲ原告ノ有效得票トスヘキモノナリト主張スルモ右投票ニハ「前田正雄」ト記載シアリテ他ニ議員候補者前田千賀良アリテ多數ノ得票アリタルコトハ原告ノ争ハサル所ナルカ故ニ同人及原告ノ何レヲ選舉シタルモノナリヤヲ確認シ難キヲ以テ右ハ同條第四號ニ依リ之ヲ無効トナスヘキモノトス、然ラハ原告ノ有效得票數ハ百五十七票トナリ鈴木仙八ト同數トナルモ原告カ年長ナルコトハ當事者間争ナキ所ナルカ故ニ原告ハ當選者タルヘク鈴木仙八ハ當選者タルヘキ者ニ非ス、從テ町會ノ決定ヲ取消シ原告ノ當選ヲ無効トシタル被告ノ本件裁決ハ失當ナリ (町會議員當選無効ノ裁決取消請求ノ訴、三年二二九號、四年七月一九日行政三判決、法律新聞三〇四一號九頁)

【候補者ノ制度ナキ町村議選舉】 本件選舉ニ於テ盛田清之助カ立候補シタル旨ノ葉書ヲ各選舉人ニ郵送シタルコト及同人以外「モリタ」姓ノ立候補者ナキコトハ疑ナク又同人ノ有效得票ハ係争投票以外百六票ナルカ故ニ係争投票ハ盛田清之助ノ有效得票ト認ムルヲ相當トス、原告

ハ町村會議員選舉ニ付テハ議員候補者ノ制度ナキカ故ニ選舉人ノ自由意志ニ依リ何レノ公民ヲモ選舉シ得ヘキモノナルノミナラス盛田清之助ノ立候補ノ事實ハ一般選舉人ニ於テ周知ノ事實ナキカ故ニ係争投票ヲ以テ同人ノ有效得票ト認ムヘキモノニ非スト主張スト雖モ、議員候補者ノ制度ナキ町村會議員選舉ニ於テモ選舉人ハ事實上立候補シタル者ヲ選舉スルヲ通常トスヘク而シテ盛田清之助カ立候補シタル旨ヲ各選舉人ニ通知シタレハ原告ノ主張ハ理由ナシ(村會議員當選ノ效力ニ關スル訴、三年三八九號、四年三月五日行政三判決、法律新聞二九六號九頁)

第三十二條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトナシ

【當選ト無効投票トノ關係】 原告ハ町村會議員選舉ノ效力ニ關スル異議事件ニ於テハ選舉カ其ノ規定ニ違反セルヤ否ヤ又其ノ違反ノ爲選舉ノ結果ニ異動ヲ生スル虞アリヤ否ヤニ付審察シ異動ヲ生スル虞アルトキハ選舉全部ヲ無効トスヘク人的ニ當選ノ效力ヲ定ムヘキモノニ非スト云フモ、町村制第三十二條ニハ「選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス、但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトナシ」トアルヲ以テ、假令選舉ノ效力ニ關スル争ニ於テモ審査ノ結果假ニ無効投票ヲ控除スルモ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ當選者ハ其ノ當選ヲ失ハシムヘキモノニ非サルコト明ナルカ故ニ原告ノ右主張ハ理由ナシ(町會議員選舉事務ニ關スル訴願裁決ニ對スル不服ノ訴、二年二六〇號、四年六月一四日行政三判決、法律新聞三〇四一號一二頁)

【無効投票ト當選ニ異動ヲ生スル虞アリヤ否ノ判定】 原告ハ無効投票ノ爲當選ニ異動ヲ生スルノ虞アリヤ否ハ各當選者ノ得票中ヨリ無効投票ヲ控除シタル票數ト次位ニ在ル者ノ得票數トヲ對比シテ決スヘク、次點者ノ得票數ト對比シテ決スヘキモノニ非スト云フモ、町村制第三十二條ニ所謂「當選ニ異動ヲ生スルノ虞アルトキ」トハ當選者中ノ順位ニ異動ヲ生スル虞アル場合ヲ謂フモノニ非スシテ、當選者カ落選者トナリ落選者カ當選者タルヘキ虞アル場合ヲ指シタルモノト解スヘキカ故ニ無効投票ノ爲當選ニ異動ヲ生スル虞アリヤ否ハ當選者ノ得票中ヨリ假ニ無効投票ヲ控除シタル票數ト落選者ノ得票數トヲ對比シテ判定スルヲ相當トス(町會議員選舉ノ效力ニ關スル訴、四年三五號、四年四月五日行政三判決、法律新聞三〇一五號一〇頁)

【町村制三二條ニ所謂選舉ノ規定ノ解】 原告ハ本件選舉ニ於テ新發田町理事者カ未入場ノ選舉人ニ對シ町長ト同志ノ候補者ニ對スル投票ヲ促シ以テ選舉ニ干渉シタリト主張スルモ、町村制第三十二條ニ所謂選舉ノ規定トハ選舉執行ノ手續ニ關スルモノヲ指稱シ罰則ノ規定ノ如キハ之ヲ包含セサルヲ以テ、假ニ右主張ノ如キ事實アリシトスモル之ヲ以テ選舉ノ規定ニ違反シタルモノト云フヲ得ス(町會議員選舉取消ノ訴、二年二七三號、四年六月一四日行政三判決、法律新聞三〇四一號一四頁)

第三十三條 一項二項 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第二十九條第一項又ハ第三十一條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ七日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ
前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

【町村議員選舉ノ效力ニ關シ異議申立ト訴願ノ主張事由ノ範圍ノ廣狹】 町村會議員選舉ノ效力ニ關スル訴願ニ於テハ其ノ前提タル異議申立ニ於テ主張セザリシ事由ト雖苟モ當該選舉ノ效力ニ關スルモノナル限り之ヲ主張スルヲ妨ケス (村會議員ノ選舉ノ效力ニ關スル不當裁決取消請求ノ訴、一五年二七一號、四年二月四日行政三判決、法律新聞三〇一八號一四頁)

【町村制三三條一項ニ所謂選舉人ノ解】 町村制第三十三條第一項ニ所謂選舉人トハ單ニ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者及該名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シテ選舉當日選舉會場ニ到リタル者ノミニ限ラス、廣ク町村制ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル者ヲ指稱スルモノト解スルヲ相當トス (大正十二年七月二十五日宣告同十一年第三百三十七號事件判決參照) (村會議員選舉當選效力ニ關スル不當裁決取消ノ訴、三年一一七號、四年四月一〇日行政三判決、法律新聞三〇一五號一二頁)

第二款 職務權限

第三十九條 町村會ハ町村ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス
【決定附議ノ日ノ記載ノ不實ト町村會決定書ノ效力】 町村會ノ決定書ニ於ケル決定附議ノ日ノ記載カ事實ニ適合セザルコトアルモ其ノ決定書ハ無効ニ非ス (村會議員ノ被選舉權否認ニ關スル石川縣參事會ノ裁決ニ對スル不服ノ訴、三年二六八號、四年二月七日行政一判決、法律新聞二九八三號一五頁)

【町會ノ決定ト效力ノ發生】 適法ニ成立シ適法ニ交付セラレタル町會ノ決定ハ直ニ其ノ效力

ヲ生スルモノニシテ、單ニ決定書ノ交付ヲ取消シ更ニ之ヲ交付スルモ決定ノ效力ニ異動ヲ生スルモノニ非ス (町稅特別戶數割賦課取消ノ訴、三年一七〇號、四年二月二八日行政一判決、法律新聞二九九二號九頁)

第四十七條 町村會ハ町村長之ヲ招集ス議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ニ付スヘキ事件ヲ示シテ町會招集ノ請求アルトキハ町村長ハ之ヲ招集スヘシ
町村長ハ會期ヲ定メテ町村會ヲ招集スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ町村長ハ更ニ期限ヲ定メ町村會ノ會期ヲ延長スルコトヲ得
招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
町村會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得會議ニ付スル日前三日目迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ
町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

【急施事件ナリヤ否ノ認定】 原告カ本件議決ニ係ル事件ヲ以テ急施ヲ要スルモノト認定シタル事由即養蠶時季ニ際シ更ニ村會ヲ招集シ村會議員ノ家業ヲ妨クルヲ遠慮シタルカ如キ、村會招集開會ノ爲必要ナル經費ノ節約ノ如キ、選舉人名簿調製期日迄ニ他ニ村會ノ議決ヲ求ムヘキ事件カ豫想セラレザリシカ如キ、又特ニ村會ヲ招集スルトキハ文村長カ坂本武次郎ニ好意ヲ寄スルモノノ如ク一般村民ニ感セシムルノ虞アルヲ慮リタルカ如キコトハ何レモ之ヲ理由トシテ本件ノ場合若ハ其ノ議決ノ事件ヲ以テ、町村制第四十七條ニ所謂急施ヲ要スルモノト爲スニ足ラス、又本件議決カ議員三名ノ缺席アルノ外出席議員全員一致ノ決議ニ依ル建議ニ基クノ故ヲ以テ之ニ關シ同條ノ適用ナキモノト爲スコトヲ得ス、從テ同條第三項ニ依リ法定ノ期間ヲ存シ

テ告知ヲ爲スコトヲ要スルモノト謂ハサルヲ得ス、然レハ文村長ノ右議案ノ付議ハ同條第三項ニ違反スルモノニシテ之ニ基キテ爲シタル文村會ノ議決亦違法ナリ(村會議決取消處分ニ關スル訴

三年二七一號、四年九月五日行政一判決、法律新聞三〇一八號一二頁)

有給吏員タル書記ハ隨意

【不急事件ヲ急施事件トシ村會ヲ召集シ助役及收入役選定ノ違法】
ニ收入役代理ヲ辭職シ得ヘキモノニ非サルヲ以テ村出納ノ閉鎖セラレル虞ナク右ノ事情ニ在リテハ收入役選定ノ事件ハ急施ヲ要スルモノト謂フヘカラス、又助役選定ノ事件ニ付テハ原告ノ主張ニ係ル昭和三年一月十八日任期滿了後缺員ナル事實ノミヲ以テハ急施ヲ要スルモノト認ムルコトヲ得ス、然レハ本件ノ會議事件ハ急施ヲ要スルモノニ非サルニ拘ラス之ヲ急施事件トシテ法定ノ期間ヲ置カス村會ヲ召集開會シ助役及收入役ヲ選定シタル違法アルモノニシテ被告カ之ヲ取消シタルハ正當ナリトス(村會ノ議決取消處分ニ對スル不服ノ訴、三年一七三號、三年二月二

七日行政一判決、法律新聞二九七三號一五頁)

原告ハ一定ノ議案ヲ急施事件ト認ムヘ

【村長ト議案ヲ急施事件ト認ムヘキヤ否ノ自由裁量】
原告ハ一定ノ議案ヲ急施事件ト認ムヘキヤ否ヤハ村長ノ權限ニ在リト主張スルモ、町村制第四十七條第四項ノ規定ハ斯ノ如キ認定ヲ村長ノ自由裁量ニ委ネタルモノト解スルコトヲ得サルハ當裁判所カ大正四年第十七號事件(大正四年三月二十日宣告)ニ於テ判示シタル所ナリ(村會ノ議決取消處分ニ對スル不服ノ訴、三年一七三號、三年二月二七日行政一判決、法律新聞二九七三號一六頁)

【第四十八條 町村會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第五十條ノ

除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ召集ニ應ズルモ出席議員定數ヲ缺キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

【町村制四八條但書ノ解】

町村制第四十八條但書ニ所謂「議長ニ於テ出席ヲ催告シ云々」ノ

規定ハ召集ニ應シタル議員全員ニ對シテ催告ヲ爲スヲ要スル趣旨ニシテ應召集員中召集ノ場所ニ現在スル者ノミニ對シテ之ヲ爲シ仍出席議員半數ニ滿タサルニ拘ラス會議ヲ開クコトヲ許シタルモノニ非スト解スルヲ相當トス、本件ニ於テ原告ヲ村長ニ選舉シタル村會ハ出席議員定數ヲ缺キタル爲議長ニ於テ應召集員中召集場所タル巢本村役場ニ現在シタル者ノミニ對シテ出席ノ催告ヲ爲シ出席者議員定數ノ半數ニ滿タサルニ拘ラス會議ヲ開キ選舉ヲ執行シタルコトハ當事者間爭ナキ所ナルニ依リ、右選舉ハ町村制第四十八條但書ノ規定ニ反シ違法ニシテ之ヲ取消シタル被告ノ處分ハ相當ナリ (違法處分取消請求ノ訴、三年一二五號、三年三月二七日行政一判決、法律新聞二九五四號九頁)

第三章 町村吏員

第一款 組織選舉及任免

第六十三條 町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

町村長ノ在職中ニ於テ行フ後任町村長ノ選舉ハ現任町村長ノ任期滿了ノ日前二十日以内又ハ現任町村長ノ退職ノ申立アリタル場合ニ於テ其ノ退職スヘキ日前二十日以内ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得

第一項ノ選舉ニ於テ當選者定マリタルトキハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

町村制 町村吏員 組織選舉及任免 (六三條)

町村長ニ當選シタル者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ當選ニ應スルヤ否ヲ申立ツヘシ其ノ期間内ニ當選ニ應スル旨ノ申立ヲ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第二十九條第三項ノ規定ハ町村長ニ當選シタル者ニ之ヲ準用ス
助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム町村長職ニ在ラサルトキハ第一項ノ例ニ依ル
第二項乃至第五項ノ規定ハ助役ニ之ヲ準用ス
名譽職町村長及名譽職助役ハ其ノ町村公民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル
有給町村長及有給助役ハ第七條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ町村ノ公民トス

【町村長ノ選舉期日】 町村長選舉ノ期日ニ付テハ法令中特別ノ明文ナキモ、町村制ノ規定全體ヨリ觀テ機關ノ曠缺ヲ防ク爲現任町村長ノ任期滿了ノ日直前相當ノ期間内ニ右任期滿了ノ時ヨリ就職スルモノトシテ、町村長ヲ選舉スルコトハ妨ケサルモ、其ノ相當期間以上ニ遡リテ選舉ヲ執行スルコトハ之ヲ許ササルノ法意ナリト解スルヲ相當トス、然ルニ本件ニ於テハ村長ノ任期滿了前三十五日ニ相當スル昭和三年七月二十四日村長選舉ヲ執行シタルコト當事者間爭ナキ所ナルニ依リ、此ノ如キハ機關ノ曠缺ヲ防クニ必要ナル相當期間以上ニ遡リテ選舉ヲ執行シタルモノト認ムヘク違法ナリト云ハサルヲ得ス(村長選舉取消處分取消ノ訴、三年二二二號、四年三月一二日行政一判決、法律新聞二九六號一二頁)

【町村制六三條六項ニ所謂町村長職ニ在ラサルトキノ町村長ノ解】 原告ハ代理村長アリシニ拘ラス村會ニ於テ神尾幸一ヲ助役ニ選舉シタルハ違法ナルヲ以テ同人ハ助役タルノ資格ナシ、從テ同人ノ爲シタル本件賦課ハ違法ナリト謂フモ、町村制第六十三條第六項ニ所謂町村長職ニ

在ラサルトキノ町村長中ニ監督官廳ノ選任シタル代理者ヲ包含セサルモノト解スルヲ相當トス、從テ當時代理村長アリシト雖モ同條第二項ノ所謂町村長職ニ在サルトキニ該當スルヲ以テ村會カ助役ヲ選舉シタルハ適法ナリ、然レハ同助役ノ爲シタル本件賦課ニ付テハ右原告主張ノ如キ違法ナシ(村稅戶數割後期分賦課取消ノ訴、三年二九八號、四年二月一六日行政一判決、法律新聞二九八五號一二頁)

【町村公民カ他町村ノ有給助役ナル場合ト公民權】 原告ハ本件選舉當時德重重作及小田壽吉ハ他町村ノ有給助役タリシカ爲新發田町ニ於ケル公民權ハ中止セラレタル旨主張スルモ、或ル町村ノ公民カ他町村ノ有給助役ヲ勤務スルトキハ町村制第六十三條第八項ニ依リ在職ノ間其勤務町村ノ公民權ヲ併有スルニ止マリ、之カ爲住所地町村ノ公民權ヲ中止セララルカ如キ規定ナキヲ以テ右主張ハ理由ナシ(町會議員選舉取消ノ訴、二年二七三號、四年六月一四日行政三判決、法律新聞三〇四一號一四頁)

第二款 職務權限

第七十二條 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事
- 二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
- 三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

町村制 町村吏員 職務權限 (七十二條)

四 證書及公文書類ヲ保管スル事
 五 法令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金、町村税又ハ夫役現品ヲ賦課徴收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項

【町村長ト議案ノ發案權】 本案ノ主タル争點ハ納税及居住ノ年限ニ關スル制限特免ノ議決ニ關シ町會カ其ノ發案權ヲ有スルヤ否ヤノ點ニ在リ、仍テ按スルニ町村制第七十二條第二項第一號ニ於テ町村長ノ擔任スル事務ノ概目ノ一トシテ町村長ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スルコトヲ明記セルヲ以テ、特ニ發案權ヲ町村會ニ與ヘタリト解スヘキ第三十五條第四十三條等ノ如キ規定ナキ以上ハ發案權ハ町村長ノミニ屬スルト謂ハサルヲ得ス、故ニ西郷町會カ自己ノ發案ニ依リ原告ニ對スル納税及居住ノ日限ニ關スル制限特免ノ議決ヲ爲シタルハ越權ニシテ該議決ニ基キ同町會ニ於テ原告ヲ町長ニ選舉シタルハ違法タルヲ免レス、然レハ被告カ右議決及選舉ヲ取消シタルハ適法ナリ (町會ノ議決及選舉取消ノ訴、三年一三八號、三年一月一八日行政一判決、法律新聞二九五四號一〇頁)

第七十四條 町村會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ町村長ハ議決ニ付テハ之ヲ再議ニ付セスシテ直ニ府縣參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ爲シタル町村會ノ議決仍其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ

監督官廳ハ前二項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得

第一項若ハ第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第一項又ハ第二項ノ議決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

【町村制四七條三項ニ反シ又七四條一項ニ該當スル議決ト監督官廳ノ取消處分】 原告ハ假リニ本件議決ヲ以テ違法ナリトスルモ、本件ノ如キ輕微ナル瑕疵ノ爲本件ノ如キ善美ナル議決ヲ取消スヘキニ非スト主張スト雖、假リニ本件議決ノ内容カ原告主張ノ如ク善美ナリトスルモ事件ノ告知ニ關スル町村制第四十七條第三項ノ法定期間ニ關スル欠缺アリ、議決カ違法ナル以上被告カ第七十四條第三項ニ依リ之ヲ取消シタルハ不當ナリト謂フヲ得ス (村會議決取消處分ニ關スル訴、三年二七一號、四年九月五日行政一判決、法律新聞三〇一八號一二頁)

【町村長選舉カ取消サレタル場合ト當選者ノ町村長タル資格】 被告ハ原告ハ選舉取消處分ト同時ニ村長タル資格ヲ失ヒタル者ニシテ町村制第七十四條第四項ノ所謂村長ニ該當セス、本件訴訟ヲ提起スルノ權限ナシト抗辯スルモ、町村會ノ選舉ニ依リ町村長トナリタル者ハ假令監督官廳ノ處分ニ依リ其ノ選舉ヲ取消サルモ該處分ニ對シ救済ヲ求メ得ル間ハ町村長タル資格ノ喪失ハ未タ確定セルモノト云フコトヲ得サルノミナラス、其ノ取消處分ハ自己ノ權利ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ右ノ救済ヲ求ムル場合ニ付テハ町村制第七十四條第四項ノ所謂町村長ニ該當シ出訴シ得ルモノト解スルヲ相當トスルコトハ當裁判所判例ノ示ス所ノ如シ (違法處分取消請求ノ訴、三年一二五號、三年一月二七日行政一判決、法律新聞二九五四號九頁)
 第七十八條 町村長ハ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ事務ニ付テ

ハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

【收入役ト町村税滯納處分】 原告ハ町村制第八十條ノ法意ニ徴シ同法第七十八條第二項ノ「町村吏員中」ニハ收入役ヲ包含セスト主張スルモ同法第八十條第一項ハ收入役本來ノ職權ヲ定ムルニ過キスシテ同法第七十八條第二項ハ町村吏員ノ範圍ヲ制限セサルカ故ニ町長カ收入役ニ代理セシメ本件滯納處分ヲ爲サシメタルハ違法ニ非ス(町會議員失職處分取消ノ訴、三年二六三號、四年六月二一日行政三判決、法律新聞三〇五二號九頁)

第五章 町村ノ財務

第一款 財産營造物及町村税

第一百條 町村税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ町村長ハ七日以内ニ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手数料及加入金ノ徵收並夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス
前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願及ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

【町税督促狀送達ノ存否事實認定】 證人辻萬三ノ證人ハ大正十三年六月ヨリ昭和三年五月末迄高田町長ニ在職中原告ニ對シ同二年十月六日及同年十二月六日ノ兩度ニ町税滯納ニ關スル督促狀ヲ使丁中谷政吉ヲシテ送達セシメタリト覺ユ、右督促狀ノ送達ハ直接證人ヨリ使丁ニ命セサリシモ收入役以下會計係ニ於テ命シテ送達セシメタリト思フ旨ノ供述、同仲井太郎ノ證人ハ大正九年六月ヨリ昭和三年十二月迄高田町收入役ニ在職シタリ、其ノ在職中乙第一號證ノ一乃至三ノ督促狀ヲ各作成ノ日タル同二年十月六日及同年十二月六日ノ兩度ニ使丁中谷政吉ヲシテ原告ニ送達セシメタル旨ノ供述ト乙第一號證ノ一(同二年十月六日附原告宛督促狀送達書)同證ノ二及三(同年十二月六日附原告宛督促狀送達書)及第二號證(奈良縣屬岩本新太郎ノ高田町役場使丁中谷政吉ニ對スル同三年十月二十七日附聽取書)トヲ對照スルトキハ本件滯納處分原告ニ對シ督促狀ノ送達アリタルコト明ナリ(町會議員失職處分裁決取消ノ訴、三年二六三號、四年六月二一日行政三判決、法律新聞三〇五二號九頁)

【町税賦課ニ付直接縣參事會ニ訴願ノ能否】 原告ハ本件係争ノ町税賦課ニ對シ穴吹町長ニ異議申立ヲ爲シタリト云フモ原告ヨリ被告ニ提出シタル訴願書ニ「此ノ課稅法ハ全然根據ナキ不適法テアリマシテ早速異議ヲ申出テル筈テアリマスカ老人ノ事テ規定ニモ通セス異議ノ期間ヲ過シマシタカ右様ノ事情ヲ申上タナラハ情狀酌量ノ上御取上ケ下サルトノ事テアリマスカラ右税金ノ取消方ヲ御訴ヘ致シマス」トアルニ依リ穴吹町長ニ異議申立ヲ爲ササリシモノト認ムルヲ相當トス、原告カ援用スル穴吹町長カ協町檢事局ニ於テ爲シタル供述及督促狀配布ニ當リタル町役場使丁ノ復命ハ假ニ原告申立ノ如クナリトスルモ右認定ヲ覆スニ足ラス、然ラハ右訴願

ハ町村制第十條ニ規定セル手續ニ違背セルモノニシテ之ヲ却下シタル被告ノ裁決ハ違法ナリト云フヲ得ス (違法處分ニ對スル訴、三年二六〇號、法律新聞三〇一五號一五頁)

第百十一條

町村稅、使用料、手数料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

滞納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滞納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

【滞納稅金額ニ相違アル場合ト滞納處分】 原告ニ對シ昭和二年度大東村特別稅戶數割第一期分ニ付督促令狀アリタルコトハ乙第三號證ニ依リ明ニシテ、右戶數割稅金額八圓同年特別地稅附加稅全期分二圓八十錢、督促手数料四十錢、延滞金二十三錢、合計十一圓四十三錢徵收ノ爲原告ニ對シ、同二年九月十三日牝牛一頭ノ差押處分ヲ爲シタルコトハ乙第二號證ニ依リ明ナリ

從テ假ニ原告主張ノ如ク其稅金額ニ相違アリタリトスルモ右戶數割ヲ滞納シ居リタルコトハ原告ノ爭ハサル所ナルカ故ニ、該滞納處分ハ少クトモ同稅ニ關スル限り適法ナリト爲ササルヘカラス (大東村長不當處分並ニ宮崎縣參事會ノ裁決ニ對スル不服ノ訴、三年一七六號、四年五月八日行政三判決、法律新聞三〇二七號一〇頁)

【異議申立中ノ滞納處分ノ適否】 原告伊藤太郎衛ハ本件賦課ニ關シ當別村長ニ異議ノ申立ヲ爲シタルモ同村長カ何等決定ヲ與ヘシテ本件差押ヲ爲シタルハ不法ナリト云フモ、假令賦課處分ニ付異議ノ申立ヲ爲スモ該處分カ取消サレサル限り同村長ノ爲シタル滞納處分ハ之ヲ違法ナリト謂フヲ得ス (差押處分ニ對スル訴、三年二七九號、四年五月三日行政三判決、法律新聞三〇二四號一五頁)

【滞納處分ノ有無ニ關スル事實認定】 原告主張ノ要旨ハ原告カ本件稅金ヲ滞納シ居リタルハ事實ナルモ昭和三年三月七日士別町役場吏員飯塚仁治カ原告方ニ來リタル節差押吏員タルノ證票ヲ提示セス又滞納處分ノ爲出張シタル旨ノ告知ヲモ爲ササリシヲ以テ原告ハ單ニ納稅ノ督促ナリト思料シ金員ヲ差出シテ同日附領收書 (甲第一號證及第二號證) ノ交付ヲ受ケタルモノナレハ差押ヲ受ケタルモノニ非ス、若シ差押アリタルモノトセハ右領收書ヲ交付スルコトヲ得サルノミナラス、差押調書謄本ノ交付ヲ爲シ之カ領收ヲ證スヘキモノナカルヘカラサルニ其ノ證左ナク又同役場備付ノ滞納處分徵收金交付簿及收入原簿ニ滞納處分ニ依リ右定員ヲ徵收シタル旨ノ記載ナルヘカラサルニ其ノ記載ナキニ依リテ之ヲ見レハ原告ハ差押ヲ受ケタルモノニ非サルコト明ナリ、然ラハ被告ノ裁決ハ失當ナルヲ以テ之ヲ取消ス旨ノ判決ヲ求ムト云フニ在リテ立證トシテ甲第一號證乃至第三號證ヲ提出シタリ (理由) 甲第一號證 (士別町書記飯塚仁治

作成ノ昭和三年三月七日附町稅戶數割督促手數料及延滯金領收證) 及同第二號證(同上同日附町稅家屋割、督促手數料領收證) ト士別町役場備付ノ滯納處分徵收金交付簿及收入原簿ニ本件稅金ヲ滯納處分ニ依リ徵收シタル旨ノ記載ナキコトノ當事者間爭ナキ事實トヲ綜合考覈スルトキハ原告ハ昭和三年三月七日稅金等納付ノ爲本件通貨ヲ士別町書記飯塚仁治ニ交付シ同人カ之ヲ受取リタルモノニシテ差押ヘタルモノニ非サルコトヲ認ムルニ足ル (三年三四〇號、四年七月一五日行政三判決、法律新聞三〇五七號一二頁)

【權利傷害ノ存否ト公賣處分ノ取消請求】 原告主張ノ事實ヲ眞實ナリトスルモ三河島町長ノ爲シタル本件公賣處分ハ其ノ目的物ノ抵當權者、競落人又ハ受贈者ノ權利ヲ傷害スルハ格別、原告ノ權利ヲ傷害シタルモノト爲スヲ得サルカ故ニ原告ノ請求ハ理由ナシ (滯納ノ爲違法公賣處分ニ對スル府參事會裁決取消ノ訴、三年一八號、四年一月二十九日行政三判決、法律新聞二九八三號一頁)

【基本タル町村稅ノ取消ト滯納處分ノ效力】 町村稅ノ賦課ニ違法アルモ其ノ賦課力取消サレサル限り之ニ基キテ爲シタル滯納處分力違法ニアラサルコトハ當裁判所カ昭和二年第九十八號(同三年二月九日宣告)ニ於テ判示シタルトコロノ如シ、而シテ本件滯納處分ノ基本タル賦課ニ付被告ハ之ヲ取消ス旨ノ裁決ヲ爲シタリト雖、本件滯納處分力右裁決ノ確定前ニ爲サレタルコトハ被告ノ認ムルトコロナルカ故ニ該處分ハ何等違法ニ非ス、從テ之ヲ取消シタル被告ノ本件裁決ハ必當ナリ (村稅滯納處分ニ關スル訴、四年一一四號、四年七月一〇日行政三判決、法律新聞三〇五二號一六頁)

第八章 町村ノ監督

第四百十條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

【町村制一四〇條一項ニ所謂決定アリタル日及訴願期間ノ起算】 厚岸町會ノ前記決定書カ昭和三年八月二日厚岸町大字眞龍寺ニ於ケル原告ニ宛テ郵便ニ依リ送達セラレタルコト及該決定ニ對スル原告ノ訴願ノ提起カ昭和三年八月三十一日ナルコトハ原告ノ主張自體ニ於テ明ニシテ該送達ノ日ノ翌日ヨリ起算スレハ右訴願ハ法定期間ヲ經過セルモノナルコトハ原告ノ爭ハサル所ナリ、然ルニ原告ハ前記決定書ノ送達アリタル當時ハ商用ノ爲出張不在中ニシテ昭和三年八月十九日歸宅シ該決定書ヲ受領シ同月三十一日訴願ヲ提起シタルモノナルヲ以テ該訴願提起ノ日ハ未夕法定ノ訴願期間ヲ經過セサルモノナリト主張スルモ、該訴願ハ北海道一級町村制第一條ニ依リ準用シタル町村制第四百十條第一項ニ依リ決定アリタル日ヨリ二十一日以内ニ提起ス

ルコトヲ要スルモノニシテ住所又ハ居所ニ決定書ヲ送達アリタルトキハ宛名人カ現實之ヲ受領シタルト否トヲ問ハス右町村制第四百十條第一項ニ所謂決定アリタルモノト解スヘク、前記決定書ヲ送達シタル場所カ原告ノ住所ナルコトハ前記訴願書及本件訴狀中原告ノ住所ノ記載ニ依リ明ナルヲ以テ本件厚岸町會ノ決定アリタルハ該決定書ヲ原告ノ住所ニ送達シタル昭和三年八月二日ニシテ之ニ對スル訴願期間モ亦其ノ日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス(北海道參事會ノ決定ニ對スル不服ノ訴、三年二八三號、四年二月二六日行政一判決、法律新聞二九八五號一頁)

【町村制一四〇條一項ニ所謂處分決定アリタル日ノ解】 原告ハ本件訴願期間ハ假ニ町村制第四百十條第一項ノ規定ニ依ルヘキモノトスルモ處分ノ決定ノ日ヨリ起算スヘキモノナルノミナラス、國稅徵收法第十四條ニ依レハ財産差押ノ場合ニ於テ第三者ハ其ノ財産ニ付賣却執行五日前提テハ何時ニテモ所有權ヲ主張シテ其ノ取戻ヲ請求シ得ルモノナルヲ以テ被告ノ裁決ハ不當ナリト主張スルモ、町村制第四百十條第一項ノ文詞ハ處分アリタル日又ハ異議ニ對スル決定アリタル日ヨリ提起期間ヲ起算スヘキ旨ヲ規定シタルモノニシテ處分ノ決定ノ日ヨリ起算スヘキ旨ヲ規定シタルモノト解スヘキニ非ス(違法處分ニ對スル訴、一五年四九二號、四年三月三〇日行政一判決、法律新聞三〇〇三號一四頁)

【不動産差押ヲ受ケタル者ノ訴願期間ノ起算法】 北海道一級町村制ニ依リ北海道一級町村ニ準用セララルル町村制第四百十條第一項ニ依レハ北海道一級町村ニ於ケル町村稅滯納處分ニ關スル訴願ハ該處分アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス、而シテ此ノ期間ハ不動産ノ差押ヲ受ケタル者ニ在リテハ該差押調書謄本ヲ交付セラレタル日ヨリ之ヲ起算スルモノト解スルコト相當ナリ(滯納處分取消ノ訴、三年二八七號、四年七月一五日行政三判決、法律新聞三〇五七號一二頁)

五七號一二頁)

【町村稅滯納處分ニ對スル訴願提起期間】 原告ハ本件訴願提起期間ニ付テハ町村制ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非スシテ訴願法ノ規定ニ依ルヘキモノナリト云フモ、同法第十七條ニハ訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノハ各其規定ニ依ルトアルヲ以テ、本件訴願ノ如キ町村制ニ提起期間ノ規定アルモノニ付テハ同法ニ依ルヘク訴願法ニ依ルヘキモノニ非ス、而シテ町村制第四百十條第一項ニ依レハ異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシトアリ、原告カ本件差押處分ノ執行ヲ知悉シタルハ執行當日ナルコト其ノ爭ハサル所ナルヲ以テ該處分ノ日ヨリ二十六日後ニ提起シタル本件訴願ハ右規定ニ違背シ不適法ナリトス(違法處分ニ對スル訴、三年二五四號、四年三月二八日行政三判決、法律新聞三〇〇三號一五頁)

【期間經過後提起ノ訴願】 乙第一號證(昭和四年二月廿七日附北海道參事會議長宛上士別村長回答書)並ニ被告提出ノ昭和四年三月十九日附小清水郵便局長宛北海道參事會議長照會書及同年五月二十五日附同議長宛同局長回答書ノ各記載ニ依レハ本件滯納處分ノ差押調書謄本カ原告ニ交付セラレタルハ昭和三年五月六日ニシテ之ニ關スル原告ノ訴願書カ上士別村役場ニ到達シタルハ被告提出ノ該訴願書ニ押捺セラレタル同村役場ノ受付日附印ニ徴シ同年七月十一日ナリ、然レハ該訴願ハ前記ノ法定期間經過後ニ提起セラレタルモノナルカ故ニ被告カ之ヲ却下シタルハ正當ナリ(滯納處分取消ノ訴、三年二八七號、四年七月一五日行政三判決、法律新聞三〇五七號一二頁)

附則 (大正十五年法律第七十五號)

町村制 町村ノ監督 (一四〇條)

本法中公民權及議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年勅令第二百八號ヲ以テ公民權及議員選舉ニ關スル規定ヲ除クノ外同年七月一日ヨリ施行)

〔町村制中改正法律附則ニ所謂總選舉ノ解〕 大正十五年法律第七十五號町村制中改正法律附則第一項ニ依レハ同法中公民權ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ施行セラルヘキモノニシテ、茲ニ所謂總選舉トハ當該町村ニ於ケル町村會議員ノ總選舉ノミヲ指シ其ノ他ノ總選舉ヲ包含セサルコト勿論ナリ、而シテ蘆原村ニ於テハ同法公布後未タ村會議員ノ總選舉ヲ行ハサルコト當事者間爭ナキ所ナレハ、本件決定ニ當リテハ同法中公民權ニ關スル規定ヲ適用スヘキ限リニ在ラス、從テ改正前ノ規定ニ基キ原告ニ對シ公民權ノ停止ヲ認メ本件決定ヲ爲シタルハ相當ナリ
(被選舉權喪失處分取消ノ訴、三年一五八號、三年一月一日行政三判決、法律新聞二九五六號一二頁)

改正前ノ町村制

第十八條二項 町村長ハ選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄町村役場又ハ告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ、關係者ニシテ異議アルトキハ縱覽期間内ニ之ヲ町村長ニ申出ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ縱覽期日滿了後三日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ
町村會ハ其送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

〔選舉人名簿縱覽期間ニ對スル異議ト申立期間〕 原告ハ右無効ノ理由ハ本件異議申立人カ縱覽期日經過後異議申立ノ追申トシテ申立テタルモノナレハ被告カ之ヲ採用シタルハ違法ナル旨主張スルモ、凡ソ異議ノ理由ハ其ノ決定アル迄ハ何時ニテモ之ヲ補充シ得ルモノナルコト當裁判所ノ判例(大正三年四月十六日宣告同二年第七十七號事件判決參照)トスル所ナルヲ以テ右主張ハ理由ナシ(村會議員選舉人名簿ニ關スル件、四年一五八號、四年七月一七日行政三判決、法律新聞三〇五七號一六頁)

〔供覽セサル選舉人名簿ト效力〕 法定ノ期日關係者ノ縱覽ニ供セザリシ町村會議員ノ選舉人名簿ハ其ノ確定ノ手續ニ違法アルモノナルコト當裁判所ノ判例(大正三年二月十九日宣告同二年第五百五十一號事件判決參照)トスル所ナリ、而シテ本件選舉人名簿ノ法定ノ縱覽期日ハ昭和四年二月二十三日ヨリ同年三月一日迄ナルヘキニ拘ラス、原告カ該名簿ヲ同年二月二十二日ヨリ同年二十八日迄縱覽ニ供シタルコトハ當事者間爭ナキ所ナルヲ以テ、該名簿ハ法定ノ期日縱

覽ニ供セサリシモノニシテ其ノ確定ノ手續ニ違法アルモノナルカ故ニ無効タルヘキモノトス
(村會議員選舉人名簿ニ關スル訴、四年一五八號、四年七月一七日行政三判決、法律新聞三〇五七號一
六頁)

第八十條 收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務及第七十七條ノ事務ニ關スル國府縣其他ノ公共團體
ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
町村ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ但シ副收入役ヲ置キタ
ル町村ハ此限リニ在ラス
副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス
町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得
但シ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

【役入役ヲ代理スヘキ吏員ニ非サル町村吏員ト税金受領權限】 原告ハ收入役不在ノ場合ニハ
一定ノ書記カ代理シテ税金ヲ受領スル本村ノ慣例ニ從ヒ大正十五年一月十日日本件税金全額ヲ本
村書記吉田莊之進ニ交付シタルカ故ニ同月十八日爲サレタル本件滯納處分ノ際原告ハ滯納者ニ
非スト主張ス、假ニ原告主張ノ如キ慣例アリ且吉田書記カ同日受領シタリトスルモ同書記カ改
正前ノ町村制第八十條第二項ニ依ル收入役ヲ代理スヘキ吏員ニ非サリシコトハ原告ノ争ハサル
所ナルカ故ニ同書記ニ受領ノ權限ナク從テ原告ハ適法ニ納稅義務ヲ履行シタルモノト云フヲ得
ス(村長ノ不當處分並ニ縣參事會ノ裁決ニ對スル不服ノ訴、二年四一號、四年六月二四日行政三判決、法
律新聞三〇四九號九頁)

法 例

第十條 動産及ヒ不動産ニ關スル物權其他登記スヘキ權利ハ其目的物ノ所在地法ニ依ル

前項ニ掲ケタル權利ノ得喪ハ其原因タル事實ノ完成シタル當時ニ於ケル目的物ノ所在地法ニ依ル

【領事裁判地域ト不動産取得ノ第三者對抗要件】 本件係争不動産ニ對シ被告等カ訴外鍋島正
喜ニ對スル債權ノ爲強制執行ヲ爲シタル事實ハ争ナキ處ナルヲ以テ先ツ本件不動産ノ所有者ハ
支那人タル原告ナリヤ將又鍋島正喜ナリヤニ付按スルニ本件不動産ハ元日本人小港丑治ノ所有
ナリシ處大正十五年一月二十一日支那人王老太太王崧岩ニ賣却セラレタルモ該不動産ヲ表面
支那人名義ト爲スコトハ對滿鐵會社關係ニ於テ不都合アリトシテ關係者合意ノ上登記簿上ノ名
義人ヲ日本人ナル鍋島正喜トシテ登記ヲ完了シタルモノナル事實ハ證人等ノ齊シク證言スル處
ニシテ右證言ハ證人矢野茂樹ノ證言ニ依リ其成立ヲ認メラルル甲第一號證ノ文言ト相俟テ措信
スルニ足り從テ本件不動産ノ所有者カ原告ナル事實ヲ認定スルニ十分ナリ、然ラハ原告ノ爲所
有權取得登記ナキ本件ニ於テ被告等ニ其所有權ヲ對抗シ得ルヤニ付按スルニ領事裁判ノ地域タ
ル外國ニ於テ外國人カ日本人ヨリ不動産ヲ取得シタリトスルモ日本法規ニ基キ登記ヲ爲ス必要
ナキヤ勿論ナリ、從テ登記ノ有無ニ依リ對抗關係ヲ判斷シ得サルヤ又論ヲ俟タサル處ナリトス
本件係争不動産ハ南滿洲鐵道株式會社奉天附屬地ニ現在スルモノナル處右鐵道附屬地ニ對シテ
ハ滿鐵會社カ土木、教育及衛生ニ關スル事項ヲ所管スル外一般行政權ハ關東廳ニ屬スレトモ滿
鐵會社及關東廳共ニ裁判權ヲ有セス駐在帝國領事官ニ於テ領事裁判權ヲ行使スル等其關係極メ
テ複雜ニシテ全然特種地域ニ屬ス、故ニ右附屬地ニ發生シタル事項ニシテ對外國人關係ニ日本

法規ヲ適用シ得ルヤ否頗ル疑問トスル處ナルノミナラス本件ノ如ク不動産ニ關スル訴訟ニ於テ國際私法ノ所謂所在地法ヲ附屬地ニ對シ主權ヲ留保スル支那國法ト解スヘキヤ或ハ又司法、行政ノ實權ヲ有スル日本國法ト解スヘキカニ就テモ議論ノ餘地アル處ナリ故ニ斯カル特種地域ニ於ケル特種事案ニ對シテハ附屬地ヲ法ノ空虛地域ト認メ宜シク條理ニ從ヒ判斷スルヲ妥當ナリトス、叙上説明シタル處ニ依リ本件ヲ按スルニ原告カ對滿鐵會社關係上止ムヲ得ス本件不動産ノ名義人ヲ鍋島正喜トシテ登記ヲ完了シタル事實ハ相手方ト通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ト謂ハレサルニ非ラサルモ本件不動産力眞ニ鍋島正喜ノ所有ニ非スシテ支那人タル原告ノ所有ナル事實ヲ確認シ得ル以上ハ鍋島正喜ヲ所有者ナリトシテ爲シタル本件強制執行ハ之ヲ許ス可カラサルモノト認ムルヲ相當トス(強制執行目的物ニ對スル異議事件、四年(民)六五號、四年一月二八日奉天日本總領事館判決、法律新聞三〇六一號一二頁)

裁判所構成法

第二條 通常裁判所ニ於テハ民事刑事事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

【住職任命無効確認ノ訴ト司法裁判所ノ管轄權】 本訴ハ眞言宗山階派管長タル被告和田大圓カ昭和三年八月三十一日其ノ宗派ニ屬スル紀三井山護國院ノ住職ニ被告小藪良順ヲ特任シタル行爲ノ無効確認ヲ求メントスルモノナルトコロ、明治十七年太政官布達第十九號ニ依レハ國家ハ寺院住職任命ヲ各宗派管長ニ委任シ管長ニ對シ住職任命ニ關スル條規ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘキ旨規定セル點等ヨリスレハ管長ノ寺院住職任命ニ關スル行爲ハ内務大臣ノ監督ニ屬スル行政事務ノ一ニシテ民事上ノ行爲ニ非サルコト明カナリ、從テ本件ノ如キ管長ノ爲シタル住職任命行爲ノ效力ノ有無ヲ確定スルコトヲ目的トスル訴ハ行政行爲ノ當否ニ付キ判斷ヲ求ムルモノニシテ民事訴訟ニ非ラス、原告ハ右任命行爲ハ公法的行爲ニアラス又前記布達ニ依ル任命行爲ハ當該宗制宗規ニ違反セサルコトヲ條件トシテ有效ナリト主張スレトモ任命行爲ノ性質如何ハ右說示ニヨリ之ヲ知ルヘク又當該宗制宗規ニ違反セルト否トニ拘ラス任命行爲其ノ者ノ效力如何ヲ確定スルコトハ司法裁判所ノ權限ニ屬セス(住職任命無効確認事件、三年(ワ)九八號、四年一月二八日和地民判決、法律新聞二九六〇號一一頁)

【外國ニ對スル民事訴訟ト裁判權】 國家ハ其ノ自制ニ依ルノ外他國ノ權力作用ニ服スルモノニ非サルカ故ニ不動産ニ關スル訴訟等特別理由ノ存スルモノヲ除キ民事訴訟ニ關シテハ外國ハ我國ノ裁判權ニ服セサルヲ原則トシ只外國カ自ら進ンテ我國ノ裁判權ニ服スル場合ニ限り例外

ヲ見ルヘキコトハ國際法上疑ヲ存セサル所ニシテ此ノ如キ例外ハ條約ヲ以テ之カ定メ爲スカ又ハ當該訴訟ニ付若ハ豫メ將來ニ於ケル特定ノ訴訟事件ニ付外國カ我國ノ裁判權ニ服スヘキ旨ヲ表示シタルカ如キ場合ニ於テ之ヲ見ルモノトス、然レトモ此ノ如キ旨ノ表示ハ常ニ國家ヨリ國家ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要スルハ勿論ニシテ假ニ外國ト我國國民トノ間ニ民事訴訟ニ關シテ外國カ我國ノ裁判權ニ服スヘキ旨ノ協定ヲ爲スモ其ノ協定自體ヨリ直ニ外國ヲシテ我國ノ裁判權ニ服セシムルノ效果ヲ生スルコトナキモノト謂ハサルヘカラス、然ラハ外國ニ對シ我國ノ臣民ヨリ民事訴訟ノ提起アリタルニ當リテハ叙上ノ如キ外國カ我國ノ裁判權ニ服スヘキ特別ノ事情ノ存スル場合ノ外我國ノ裁判權ハ外國ニ對シテ存在セサルモノニシテ該訴訟ノ不當ナルヤ極メテ明瞭ナリ、從テ抗告人所論ノ如キ本件手形ノ振出行爲ニ因リテ假ニ之ニ關スル訴訟ニ付中華民國ニ於テ我國ノ裁判權ニ服スル旨ノ當事者間ノ合意ヲ認ムヘキモノナリトスルモ未タ之ニ因リ中華民國ヲシテ我國ノ裁判權ニ服セシムルノ效果ヲ生セサルカ故ニ此ノ點ノ所論ハ採用ノ限リニ在ラス、而シテ我國ノ臣民ヨリ外國ニ對シテ民事訴訟ノ提起アリタルトキハ叙上特別ノ事情ノ存セサル場合ト雖仍ホ一般ノ規定ニ基キ訴狀ヲ相手方ニ送達シ期日ヲ定メテ當事者ヲ呼出シ以テ應訴ノ有無即本件ニ於テハ中華民國カ我國ノ裁判權ニ服スル意思ノ有無ヲ檢スヘキ機會ヲ與フヘシトノ所論ニ付テハ必スシモ論議ナキニ非スト雖我民事訴訟法ニ於ケルカ如ク同法第九十三條、第六十一條ニ基キ職權ニ依リ爲サル送達及期日ノ呼出ハ即我國權ノ行使ニ外ナラサルカ故ニ我國權ニ服セサル外國ニ對シテ之ヲ強フヘキモノニ非サルハ言フ俟タサル所ナルニ依リ叙上ノ特別事情ノ存セサル本件ニ於テハ此ノ如キ措置ヲ講スルノ餘地ナキモノト謂ハサルヘカラス、右說示ノ如クナルニ依リ所論ハ何レモ採用ニ由ナク原審ノ說明ハ必スシモ

明快ナラスト雖抗告ヲ棄却シタル點ニ於テ結局相當ナリ(訴狀差戻ノ命令ニ對スル再抗告、三年(ク)二一八號、三年二月二八日大ニ民判決、法律新聞二九五二號七頁)

【電話官廳ノ處分ニ對スル不服ト民事裁判所ノ管轄權】 被告ハ電話官廳カ電話加入名義變更ノ請求ヲ承認シ又ハ之ヲ却下スルハ行政處分ナルヲ以テ本件ノ如ク被告カ名義變更請求ヲ却下シタル場合之レニ對スル不服ニ付民事裁判所ニ訴訟ヲ提起シテ之カ救済ヲ求ムルハ不合法ナリト抗爭スルヲ以テ按スルニ、元來電話加入者ノ電話官廳ニ對スル電話使用ノ關係ハ私法上ノ契約關係ニシテ加入者ノ有スル電話使用權ハ一種ノ責任ナレハ電話官廳ハ其ノ義務者タルコト勿論ナリ、而シテ電話加入權ノ移轉ハ電話官廳ノ登錄ニヨリ右債權ヲ第三者ニ對抗シ得ルニ至ルモノナレハ電話官廳ハ電話加入權ノ移轉アリタル場合ニハ該官廳ノ正當ノ理由アル場合ノ外移轉登錄ニ協力スヘキ義務アルモノト云フヘク、若シ此ノ協力義務ノ履行ヲ爲ササルトキハ權利者ニ於テ該官廳ニ對シ其ノ履行ヲ請求シ得ヘキコト當然ナリト云ハサルヘカラス、然ラハ原告カ被告ニ對シテ電話加入名義變更ノ承認及名義書換ヲ求ムル爲當裁判所ニ本訴ヲ提起シタルハ適法ナリ(電話加入權名義變更請求事件、三年(ウ)二五八號、三年一月二一日大阪地五民判決、法律新聞二九五三號一四頁)

【用水權確認請求ト管轄裁判所】 被上告人等ハ常盤村大字常盤地内所在ノ富柳堰分水口ニ流入スル水ヲ同堰ヲ經テ富木館村大字富柳字早稻田字柳田字富岡及同村大字久井名館字北原所在ノ被上告人等所有ノ田地ヘ灌溉シ得ヘキ古來ノ慣行ニ依ル用水權ヲ有スルモノナルニ上告人等ハ被上告人等ノ右用水權ヲ否認シ富柳堰ヘノ分水口ヲ閉塞シタリトノ事實ヲ原因トシテ右用水權ノ確認ヲ求ムルモノナルコト記録上明ナリ、此ノ訴ノ趣旨ニ依レハ被上告人等ノ主

張スル用水權ハ私法上ノ權利ニシテ一私人タル上告人等カ右分水口ヲ閉塞シタル行爲ハ公法上ノ行爲ニ非ス從テ本訴ハ私法上ノ權利ヲ訴訟物トスルモノニシテ且公法上ノ行爲ノ排除ヲ目的トスルモノニ非ルカ故ニ民事訴訟トシテ司法裁判所ノ權限ニ屬ス(用水權確認請求事件、四年(オ)三八號、四年五月八日大四民判決、法律新聞三〇三三號一〇頁)

浦和裁判所代書人ニ關スル内規

【地方裁判所長ト司法代書人認可願拒否ノ適意】 地方裁判所長カ管内各種ノ事情ヲ斟酌シテ處分ノ標準タル内規ヲ設ケ之ニ定員ヲ定ムルモ該定員ニシテ相當ノモノナル以上該内規ニ準據シ定員超過ノ理由ヲ以テ出願ヲ認可セザリシトスルモ之ヲ以テ違法ナリト云フヲ得ス、原告ハ浦和地方裁判所々屬ノ司法代書人ハ從前十一人ナリシカ現今六名ニシテ過少ナリト云ヒ定員ノ定メ方ヲ不當ナリト攻撃スルモ東京地方裁判所外十一地方裁判所所屬ノ司法代書人員數取扱件數調書ニ依レハ東京地方裁判所ヲ除クノ外何レモ司法代書人一人當リ取扱件數千件以上ニシテ静岡地方裁判所ノ如キハ二千九百七十五件ニ達ス、故ニ一人當リ取扱件數千三百三十八件ニ過キサル浦和地方裁判所所屬ノ司法代書人六人ハ過少ナリト云フコトヲ得ス(司法代書人不認可ニ關スル訴、三年二〇三號、四年三月二日行政一判決、法律新聞二九九六號一一頁)

特許法

第一條 新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルコトヲ得 (民訴三九五條參看)

【硫酸亞鉛ノ製法カ新規ナル工業的發明ナリヤト審理不盡理由不備】

第十六條 帝國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル者ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ルニ非サレハ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權

若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スルヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ出願若ハ請求又ハ主張ヲ爲ス代理人ハ特ニ授ケラレタル權限ノ外本法又ハ本法ニ

基キテ發スル命令ニ依ル手續並ニ民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表ス

特許權者又ハ特許權ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ノ代理人ニシテ第一項ノ規定ニ依リ手續又ハ

主張ヲ爲スモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第

三者ニ對抗スルコトヲ得ス

【特許法一六條代理人ノ爲ス上告ト期間ノ計算】 職權ヲ以テ本件上告カ適法ナル期間内ニ提

起セラレタルヤ否ヲ按スルニ上告人カ帝國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサルニ由リ特許ニ關スル

出願請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スル爲テ特許法第十六條第

一項ニ依リ帝國內ニ住所ヲ有スル石次郎、古谷東太郎ヲ代理人ニ選任シタルコトハ本件記録

ニ依リ明ナリ、而シテ同條第一項ニ依リ選任セラレタル代理人ハ特許法又ハ同法ニ基キテ發ス

ル命令ニ依ル手續並民事訴訟ニ付本人ヲ代表スルコトハ同條第二項ノ規定スル所ナレハ如上ノ

手續又ハ權利主張ヲ爲スニ付テハ同條第一項ノ代理人ヲ以テ本人ト同一ノ地位ニ置キタルモノ

ニシテ從テ特許局ノ爲シタル審決ニ對シテ上告ヲ爲スヘキ一ヶ月ノ期間及民事訴訟法第六十七條ニ定ムル里程ノ割合ニ依ル伸張期間ハ其ノ代理人ノ住居地ヨリ起算スヘキモノニシテ本人ノ住居地ヨリ起算スヘキモノニ非ス、本件記録ニ依レハ右代理人石次郎カ原審決ノ送達ヲ受ケタルハ昭和三年十月五日ニシテ右代理人ノ住所ハ東京市内ニ在ルカ故ニ上告期間ハ同年十一月四日ヲ以テ滿了スヘク同日ハ日曜日ナレハ原審決ニ對スル上告ハ遅クモ昭和三年十一月五日迄ニ提起セサルヘカラサルモノトス、然ルニ本件上告狀カ當院ニ提出セラレタルハ昭和四年四月八日ナルコト同上告狀ニ押捺シアル受附印ニ照シ之ヲ認ムルヲ得ヘキヲ以テ本件上告ハ不變期間經過後ニ爲サレタルモノニシテ不適法ト謂ハサルヲ得ス (特許願拒絕査定不服事件、四年(オ)三五五號、四年七月一日大一小民判決、法律新聞三〇三四號九頁)

第八十四條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲ケル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第五十七條ノ規定ニ依ル特許又ハ許可ノ無効

二 特許權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第八條ノ規定ニ違反シ又ハ第五十七條第一項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

【特許權利範圍確認事件繫屬中ノ特許權讓渡ト當事者適格】 本件ニ於テ確認審判ヲ求ムルノ必要ハ被上告人其ノ人ニ於テ或ルコトヲ爲シ若ハ爲ササルカ爲ニ之ヲ生シタルニハ非スシテ實

ニ第四四〇九號ノ特許權ノ存スルコトニ起因スルモノナルカ故ニ此ノ特許權ニシテ存スル限リ確認ノ必要モ亦常在セリト云ハサルヲ得ス、故ニ此ノ理ヲ推ストキハ此ノ種確認事件ニ在リテハ現ニ右ノ特許權ヲ有スル者カ常ニ其ノ相手方ト爲ルヲ要シ從ヒテ又事件ノ繫屬中ニ於テ一般承繼ハ勿論特別承繼ニ因リ當該特許權カ他人ニ移轉シタルトキハ其ノ都度當然相手方ニ變更ヲ來シ此ノ承繼人カ從來ノ當事者ニ代リテ新ニ其ノ地位ニ就クモノト解スヘキハ寧ロ自明ノ結論ナラスンハアラス、然レトモ本案タル權利若ハ之カ存否ノ判斷ニ關係アル權利ニ付事件繫屬中特別承繼ノ生シタルカ爲其ノ承繼人當然當事者タル地位ヲ承繼スト云フカ如キハ現行ノ特許法ハ勿論民事訴訟法ニ於テモ等シク認メサルトコロナルヲ以テ前示ノ如キ單純ナル理論ハ今日未タ之ヲ採ルノ時期ニ達セサルト共ニ又事件繫屬中ナルノ一事ニ依リ特許權ソノモノノ特別承繼ヲ無効ナリトスル法規ノ一モ存セサル現在ニ於テ此ノ間ニ處スル取扱ハ之ヲ如何ニスヘキカト云フニ開ハ前記ノ如キ承繼アリタル場合ニ於テハ一面ニ事件ノ當事者タル地位ニハ何等ノ影響ヲモ及ホササルト同時ニ又一面ニ本案ノ點ニ關スル審決若ハ判決ニモ何ノ影響ヲモ及ホササルモノト解スルノ外アルヘカラス、即之ヲ詳言スレハ當初ノ當事者ハ依然トシテ其ノ地位ヲ失ハサルト共ニ一面承繼人ノ爲當然自己ノ名ニ於テ事件ニ關スル諸般ノ行爲ヲ爲スノ適格ヲ生スルニ至リ而シテ之ニ對スル審決若ハ判決ハ當然承繼人ニ其ノ效力ヲ及ホスモノト解スルヲ相當トセサルヘカラス、何者若シ之ヲ爾ラストシ相手方ハ今ヤ當該特許權ヲ有セサルカ故ニ之ニ對スル確認ハ最早其ノ必要ナシトノ理由ニ依リ請求人敗訴ノ審決若ハ判決ヲ爲スヘキモノトセムカ其ノ假處分ニ依ル處分禁止ノ如キ方法ノ一モ有セサル特許事件ニ於テ相手方ハ何時ニテモ其ノ特許權ヲ讓渡スコトニ因リテ以テ容易ニ請求人ヲシテ敗訴セシムルヲ得ヘク請求人ニ於テハ

殆ト手ヲ措クニ處ナキ窮地ニ立ツニ至ルヘケレハナリ、若シ夫レ斯ル解釋ヲ採ルモ特許承繼人ニ對シ甚シキ不利益ヲ與ヘサルコトハ特別承繼人ハ特許法第九十八條ニ所謂利害關係人トシテ參加ヲ爲シ得ルニ徴シ疑ナキノミナラス更ニ請求人ト相手方ト雙方ノ同意ヲ得テ以テ相手方ニ代リ其ノ地位ニ就クヲ得ルコトハ之ヲ事件ノ性質ト之ニ對スル禁止法規ノ一モ存在セサルトニ省ミ明白ナルヲ以テ此ノ點ヨリ云フモ亦承繼人ハ必スシモ自己ノ權利ヲ防衛スルノ途ナキヲ患ヒサラムナリ、夫レ爾リ然ラハ則チ被告主張ノ如ク其ノ有スル特許權ニシテ本件繫屬中他ニ讓渡セラレシ事實アリトスルモ開ハ本件ニ於テ毫モ之ヲ參酌スルヲ須ヒス(特許權利範圍確認審判請求事件、二年(オ)六四一號、四年一月三〇日大四民判決、法律新聞二九七〇號一二頁)

第四百條一項 審判ニ於テハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ證據ヲ爲スコトヲ得

【特許審判ト唯一ノ證據方法却下ノ當否】 民事訴訟ニ在リテハ原則トシテ裁判所ハ當事者ノ申出テタル證據ノミヲ斟酌スヘキモノナルカ故ニ係爭事實ニ對スル判斷ハ一ニ當事者ノ申出テタル證據ノミニ依リテ決セラルルモノト云フヘク從テ當事者カ係爭事實證明ノ爲申出テタル唯一ノ證據調ハ之ヲ排斥スルヲ許サスト雖特許ニ關スル審判事件ニ付テハ當該審判官ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ得ヘキモノニシテ係爭事實ニ對スル判斷ハ敢テ當事者ノ申出テタル證據ノミニ拘ラサルモノナルカ故ニ當該審判官ニシテ其ノ判斷上必要ナリト思料シタル證據調ハ當事者ノ申出ヲ俟タス進ンテ之ヲ爲シ得ルト同時ニ必要ナラスト思料シタルトキハ假令其ノ證據カ係爭事實ニ付唯一ノモノタル場合ニ於テモ之カ取調ヲ爲ササルヲ得ヘキモノトス、本件ニ付原審ハ證人木村兼次郎同尾埜好三ノ各供述ニ依リ係爭事實ヲ判斷スルモノト認メ申請ニ係ル所論ノ各證人ハ之ヲ取調フル必要ナキモノトシテ其ノ申請ヲ却下シタルニ外ナラサレハ該人證カ上告人

ノ爲唯一ノ證據方法ナリトスルモ右ノ却下ヲ以テ違法ナリト爲スヲ得ス、然リ而シテ原審カ其ノ却下ノ決定ヲ爲シタルコトハ記錄第三十七丁決定書ニ徴シ明瞭ニシテ又上告人カ原審ニ提出シタル新ナル事實及證據ハ審決ニ影響ナキモノトシ之カ説明ヲ爲ササリシモノナルコト原審決書末段ノ記載ニ依リ之ヲ了知シ得ヘキカ故ニ之等ノ點ニ付テモ亦原審決ニ違法アリト爲スヲ得ス(特許無効請求事件、三年(オ)一一五二號、四年三月一六日大四民判決、法律新聞二九九八號一三頁)

第一百十三條

第七十二條ノ規定ハ拒絕ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ其ノ査定ノ理由ト異ル拒絕ノ理由ヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十三條乃至第七十九條ノ規定ハ拒絕ノ査定ニ對スル抗告審判ノ請求ヲ理由アリトスル場合ニ之ヲ準用ス但シ特許スヘキ出願ニシテ出願公告アリタルモノニ付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトナク審

決ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ第五十三條ノ許可ヲ與ヘサル審決ニ對スル抗告審判ニ付之ヲ準用ス

【特許法一一三條ノ法意】

上告理由第一點ハ原審決ハ本願發明ノ要旨カ「サイホン」ノ最高部ニ開口スル排氣孔ヨリ排氣「ボンブ」ニテ排氣スルコトニ依リ「サイホン」ヲ始動スル装置ニアリト確定シ之ト原審ニ於テ意見ヲ徵シタル援用刊行物「ヒスコツクス」著「メカニカル、ムーブメント、デバイセス、アンド、アプライアンセス」中第一四八頁第五四六節ニ記載セラレタルモノトヲ比較シ依テ以テ本願ヲ新規發明ニアラストシテ拒絕セリ、然レトモ本件出題ノ初審ニ於テ審査官ハ前記刊行物ヲ援用シテ本願ハ之ヲ拒絕スヘキモノト認ムトノ通知アリタルニヨリ上告人ハ之ニ對シ其ノ斷定ノ誤レルコトヲ詳細ニ記述シタル意見書ヲ提出シタル所審査官ハ上告人ノ主張ヲ認メ該刊行物ハ本願ヲ拒絕スルノ資料ニアラストシ更ニ

實用新案公告第四七六七號ノ公報ヲ援用シ再ヒ本願ヲ拒絕スヘキモノト認ムトノ通知アリタルヲ以テ上告人ハ又之ニ對スル意見書ヲ提出シタル所遂ニ審査官ノ容ルル所トナラス結局本願發明ハ前記實用新案公告第四七六七號公報ヨリ容易ニ實施シ得ヘキモノニシテ新規ノ發明ヲ構成セストノ理由ニ依リ拒絕査定ヲ與ヘラレタルニヨリ上告人ハ右拒絕査定ニ對シ抗告審判ヲ請求シ本願カ拒絕理由ニ援用セラレタルモノト其ノ構造作用ニ於テ大ナル差異アルモノニシテ新規ノ發明ヲ構成スル所以ヲ縷々陳述シタルニ原審ハ該不服理由ニ一瞥ヲモ與ヘス初審査ノ拒絕理由以外事實ニ依據シ本願ヲ拒絕シタルハ違法ナリ、實用新案法第二十六條ニ據リ準用セララル特許法第七十二條ハ「審査官ハ出願ヲ拒絕スヘキモノト認メタルトキハ出願人ニ對シ拒絕ノ理由ヲ示シ期間ヲ指定シテ之ニ意見書提出ノ機會ヲ與フヘシ」又第一百十三條ハ「第七十二條ノ規定ハ拒絕査定ニ對スル抗告審判ニ於テ其ノ査定ノ理由ト異ナル拒絕ノ理由ヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス」ト規定シタルヲ以テ原審ニ於テ初審ノ拒絕理由ト異ナル理由ニヨリ本願ヲ排斥スルニハ須ク上告人ニ對シ意見書提出ノ機會ヲ與フヘカリシニ拘ラス事茲ニ出テス突如トシテ本願ヲ拒絕シタルハ法則ヲ正當ニ適用セザリシ違法アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ、然レトモ原審決カ上告人ノ本件出願ヲ以テ拒絕スヘキモノト爲シタル理由ハ恰モ曩ニ審査官ニ於テ之ヲ出願人タル上告人ニ開示シ以テ其ノ意見書提出ノ機會ヲ與ヘタルモノニシテ而モ之ニ對シ上告人ヨリ提出シタル昭和三年五月十九日附意見書ハ又本件記録中ニ存在スル次第ナルカ故ニ原審決カ恰モ此ノ提由ニ基キ以テ直ニ上告人ノ出願ヲ拒絕シタルハ毫モ實用新案法第二十六條特許法第一百十三條ニ違反スルコト無シ蓋同條ハ拒絕ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ全然新ナル拒絕ノ理由ヲ發見シ從ヒテ之ニ對シテハ出願以來意見書提出ノ何等ノ

機會モ未タ曾テ與ヘラレサリシ場合ノ規定ニ外ナラス、審査官ノ依テ以テ出願拒絶ノ理由ト爲シタルトコロト尙モ異ナル理由ニ基キ抗告審判ニ於テ審決ヲ爲サムトスル場合ハ己ニ其ノ點ニ付意見書提出ノ機會カ與ヘラレシト否トヲ問ハス更ニ抗告審判ニ於テ斯カル機會ヲ與フヘキモノナリト云フカ如キ趣旨ナラサルハ多言ヲ俟タス(特許願拒絶査定不服事件、四年(オ)四一八號、四年六月八日大四民判決、法律新聞三〇七五號一二頁)

第四百十七條 前條ノ規定ニ依ル無効ノ審判ハ本法施行前登錄セラレタル特許又ハ許可ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

【舊特許法ニ依ル特許ノ實施】 舊特許法ニ依ル特許カ現行特許法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキ最早他人ハ之ニ對シ無効審判ヲ請求スルコトヲ得サルハ特許法第四百十七條ノ規定ニ徵シ明ナレトモ此ノ規定アルカ爲直ニ斯ル特許發明カ他人ノ特許發明ト牴觸スル場合ニテモ尙自由ニ實施シ得ヘクシテ敢テ他人ノ特許權ノ實施許諾ヲ要セサルモノナリト解ス蓋特許無効ノ審判ト之カ權利範圍ノ確認トハ二者其ノ性質ヲ異ニシ前者ハ特許ナル行政處分ヲ覆ヘシ特許權ヲ最初ヨリ存在セサリシト爲スモノニシテ後者ハ發明ノ包容スル技術的範圍ノ限界ヲ定ムルモノナルカ故ニ或特許ニ對シ他人カ其ノ無効審判ヲ求メ得ヘカラサル場合ト雖特許權ノ範圍牴觸スルニ於テハ其ノ權利範圍ノ確認ヲ求ムルコトヲ妨ケラルルモノニ非サレハナリ

(特許權範圍確認請求事件、三年(オ)一〇二七號、三年一月一九日大三民判決、法律新聞二九五號一二頁)

【實用新案ノ類似認定】 本件上告人ノ有スル第一〇一八五九號登錄實用新案ハ「ストーブ」ノ中央底部ニ穿チタル圓孔ニ(2)ノ鐵板製ノ皿形換蓋ヲ嵌ミ破損スルトキハ更ニ(2)ヲ取り外シ得ル様爲シタル構造ヲ有スルモノニシテ被上告人ノ援用セル第九四七五二號登錄實用新案ハ蒸饅器ノ底板(4)ノ中央階段部(5)ニ穿チタル圓孔ニ換底板(6)ヲ取外シ得ル様嵌込ミ其ノ上部ニ蓋(1)ヲ被セテ之ヲ蒸饅器トシテ使用シ又外側ニ鏢(3)ヲ具ヘテ該鏢ニ依リ「ストーブ」ノ上ニ之ヲ載架シ以テ「ストーブ」ノ蓋トシ使用シ得ヘクナシタル構造ナルコトハ原審ノ確定シタル事實ナリトス、然リ而シテ原審カ上告人ノ有スル本件登錄實用新案ヲ無効トナシタル理由ハ叙上兩者ハ共ニ蓋ノ中央底部ニ穿チタル圓孔ニ換底板(換蓋)ヲ取外シ得ル様嵌込ミタル構造ヲ有スルモノニシテ前者カ其ノ換蓋ヲ皿形ノ鐵板ニテ構成シタルニ對シ後者ニ於テハ該換蓋ニ相當スヘキ換底板ヲ淺キ蓋(鐵板製ニ限定セス)ニ構成シタル差異アリ、然レトモ兩者ノ換蓋ハ孰レモ之ヲ表裏轉換シテ使用シ得ルモノナルヲ以テ右ノ差異ハ單ニ構造上ノ微差タルニ過キス兩者ハ同種ノ物品ニ關スル類似ノ考案ノモノナリ、而シテ前者即本件被上告人ノ有スル登錄實用新案ハ右第九四七五二號實用新案ノ登錄出願後ノ出願ニ係ルモノナルヲ以テ實用新案法第四條ノ規定ニ違反シタルモノナリト謂フニ在リ、然レトモ實用新案ハ物品ニ關シ形狀構造又ハ組合ハセニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ物品ノ型ニ與フル權利ナルコトハ

實用新案法

第一條 物品ニ關シ形狀構造又ハ組合ハセニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ型ニ付實用新案ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

【實用新案法 (一)條】 實用新案法 (一)條

實用新案法第一條ノ規定ニヨリ明ナルヲ以テ二個ノ實用新案カ同一又ハ類似ナルヤ否ハ單ニ其ノ形狀構造又ハ組合ハセニ係ル型カ同一又ハ類似ナルヤ否ヲ決スルヲ以テ足レリトセス叙上ノ形狀構造又ハ組合ハセニ係ル型カ實用上即經濟的又ハ技術的ノ利用ノ目的ニ於テモ同一又ハ類似ナルヤ否ヲ審究セサルヘカラス、然ルニ原審ハ本件上告人ノ有スル登録實用新案ト被上告人ノ援用セル登録實用新案トハ叙上摘示シタル如ク差異アルモ右ハ單ニ構造上ノ微差タルニ過キストナシ兩者ハ同種ノ物品ニ關スル類似ノ考案ニ外ナラサルモノト認メ果シテ兩者ハ其ノ實用上ニ關シテモ諸般ノ點ニ於テ相類似スルモノナルヤ否ヲ審査セスシテ輒ク上告人ニ不利益ナル審決ヲ爲シタルハ審理不盡若ハ理由不備ノ違法アリ (實用新案登録無效請求事件、四年(オ)一五九號、四年九月一九日大ニ民判決、法律新聞三〇六九號一一頁)

【實用新案ノ類似認定ニ付主張誤解又ハ理由不備】 上告人ハ原審ニ於テ(イ)號圖面及其ノ說明書ニ示ス糶摺臼ハ自己カ權利ヲ有スル第三八三三七號特許及其ノ追加タル第四二八〇二號特許ノ糶摺臼製造方法ヲ實施シテ製造シタルモノニ係リ間齒ハ「ゴム」ヲ混シタル粗鬆土塊ヲ以テスルコトハ當然其ノ特許權ノ行使ニ屬シ何等「ゴム」ヲ資料トシテ使用シタル本件登録實用新案ノ權利範圍ヲ犯スモノニ非サルヲ以テ(イ)號圖面及其ノ說明書ニ示ス糶摺臼ハ本件登録實用新案ノ權利範圍ニ屬セサル旨主張シタルモノナリ、而シテ原審ハ(イ)號圖面及其ノ說明書ニ示ス糶摺臼ニ於テハ間齒ハ脆弱ナル「ゴム」ヨリ成ルモノニシテ假令上告人カ主張スルカ如ク該間齒ノ資料カ粗鬆土塊ヲ混シタル「ゴム」ナリトスルモ脆弱ナル「ゴム」ノ一種ニ外ナラサルノミナラス(イ)號圖面及其ノ證明書ニ示ス糶摺臼カ第三八三三七號特許又ハ第四二八〇二號特許ノ方法ニ依リテ製造セラレタルモノナリヤ否ハ本件ト別問題ニ屬スルヲ以テ右特許權ノ存

在ハ本件ニ何等ノ關係ナシト判示シ上告人ノ前記主張ヲ理由ナシトシテ排斥シタルモノナリ、然レトモ上告人ノ所謂「ゴム」ヲ混シタル粗鬆土塊カ所論ノ如ク僅少ノ「ゴム」ヲ粗鬆土塊ニ混スルコトヲ意味スルモノナルニ於テハ之ヲ以テ「ゴム」ノ一種ト觀念スルコトヲ得サルヲ以テ上告人ノ製造スル糶摺臼ノ間齒ハ「ゴム」ヲ混シタル粗鬆土塊ヲ資料トスルモノニ非ストノ主張ニ對シ原審カ前記ノ如ク該間齒ノ資料カ粗鬆土塊ヲ混シタル「ゴム」ナリトスルモ脆弱ナル「ゴム」ノ一種ニ外ナラスト斷定シタルハ上告人ノ主張ヲ誤解シ上告人ノ主張セサル事實ヲ主張シタルモノトシテ判斷ヲ加ヘタル失當アルヲ免レス(登録實用新案權利範圍確認事件、四年(オ)四六八號、四年七月七日大ニ民判決、法律新聞三〇三七號九頁)

第三條

本法ニ於テ實用新案ノ新規ト稱スルハ實用新案カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

- 一 登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用ヒラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ
- 二 登録出願前帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

【實用新案權ト類否判定】 實用新案權ハ物品ノ形狀構造又ハ組合セニ關スル新規ノ工業的考案ヲ保護スルノ權利ニシテ特許權ノ如ク新規ナル工業的効果ヲ生セシムルヲ目的トスルモノニ非サルカ故ニ甲實用新案權ニ屬スル物品カ乙物品ニ類似スルヤ否ヤヲ判斷スルニハ兩者ノ效果カ類似スルヤ將タ別異ノモノナリヤヲ標準トス可キモノニ非ス、單ニ其ノ兩者ノ形狀構造又ハ組合セニ關スル外形的考案ノ類似スルヤ否ヤニ依リ之ヲ判定スヘキモノトス、從テ原審ニ於テ當該兩物品間ニ所論ノ如キ效果ノ異ナルモノ有リヤ否ヤニ付判斷スルコト無カリシハ寧ロ至當ニシテ固ヨリ何等ノ違法アルモノニ非ス(實用新案登録無效請求事件、三年(オ)六七二號、四年六月

大四判決、法律新聞二九八八號一五頁)

【除草機構造上ノ差異ト審理不盡理由不備】 原審ハ除草機ニ於テ除草爪ヲ釘テ以テ多角形轉軸ニ取附ケタルモノハ本願出願前公知ニ屬スル所ニシテ本願ハ釘ノ代リニ定着用トシテ普通ニ知ラルル「ステープル」ヲ使用シ之ヲ多角形轉軸ノ稜部ニ於テ各爪ニ跨ラシメテ打着ケタルモノナレハ當業者ノ特考ヲ要セスシテ容易ニ爲シ得ヘキモノト認ム、從テ本願除草機ハ右公知ノモノト類似セル旨判斷シテ上告人ノ實用新案登録願ヲ拒絕スルノ査定ヲ爲シタリ、然レトモ上告人ハ原審ニ於テ「本願考案ハ弛緩シ易キ爪ノ連續部ニ對シ太キ曲釘ヲ以テ各爪相互ニ跨リテ打着ケタル構造ナレハ爪ハ連鎖セラルルコトナリ各爪ハ個々ニ弛緩脫離スルコト絶對ニナシ、尙普通一般ニ鐵板爪ノ轉軸ニ取付クルニ直ナル丸釘ヲ用ヒテハ其ノ釘ノ徑ノ細キモノニテハ甚タ力弱タ之ニ反シ徑ノ太キヲ用ヒテモ反テ軸木ニ割目ヲ生シテ又不結果ヲ來スモノナルニ本願ノ如キ鋸ノ釘ヲ用ユレハタトヒ軸木ニ割目ヲ存セシモノニテモ良ク縮着セシムル特殊ノ效果ヲ得ルモノナリ」而モ本願ノ構造ニハ材料及工作共ニ頗ル簡單ニシテ其ノ效果ハ絶大ナルモノナレハ效果ニ於テハ本願ト前記公報ニ於ケル老案トハ雲泥ノ大差アルモノト信ス」ト陳述シタルコト原審記録ニ依リ明ニシテ若上告人ノ主張スル曲釘即「ステープル」ヲ用フルニ依リテ本願除草機ト從來公知トナレル除草機トノ間ニ其ノ主張スル如キ效果ノ差異アルニ於テハ本願除草機ノ構造ヲ以テ當事者ノ特考ヲ要セスシテ容易ニ爲シ得ヘキモノト謂フヲ得ス、從テ從來公知ノモノト類似セルモノト謂フコトヲ得サルモノトス、然ルニ原審カスノ如キ效果ノ差異アルヤ否ニ關スル判斷ヲ爲サシテ漫然如上ノ審決ヲ爲シタルハ審理不盡ニシテ且理由ニ不備アルモノト謂ハサルヲ得ス (實用新案登録願拒絕査定事件、三年(オ)一二六九號、四年四月八日大民判決、法

法律新聞三〇六九號九頁

第十一條

實用新案權者ハ他人ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登録實用新案ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案權又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ經過セサルトキハ此ノ限リニ在ラス 前項ノ規定ニ依リ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ登録實用新案ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルヲ得

【實用新案權ノ抵觸ト許諾ノ要否】 債權者カ登録第九六〇五四號及第一〇三五九七號ノ實用新案權ヲ有スル事實並訴外林茂雄カ登録第一三二六四三號ノ實用新案權ヲ有シ債務者カ該權利ニ基キ製作セラレタル債權者主張ノ如キ灌腸器ヲ販賣擴布シ居ル事實ハ當事者間ニ爭ナキトコロナリ、而シテ債權者ハ右林茂雄ノ有スル實用新案權ハ債權者ノ有スル各實用新案權ト抵觸スルモノナルヲ以テ債權者ノ許諾又ハ之ニ代ルヘキ審決ナキ限リ該權利ヲ實施シ得サルモノナリト主張スルヲ以テ、其ノ當否ヲ案スルニ實用新案法施行規則第二條ニ依レハ實用新案カ他ノ登録實用新案ヲ實施スルニ非サレハ之ヲ實施スルコト能ハサル場合ニハ登録出願ノ際考案相互ノ關係ヲ表示スルヲ要スルモノナリ、然ルニ訴外林茂雄カ前示實用新案出願ニ際シ斯ル關係ノ表示ヲ爲ササリシコト並該出願ニ基キ實用新案權ノ登録アリタルコトハ債權者ノ明カニ爭ハサルトコロナルヲ以テ訴外林茂雄ノ有スル登録第一三二六四三號ノ實用新案權ハ無條件ニテ登録セラレタルモノニシテ何人ノ許諾ヲモ要セスシテ之ヲ實施シ得ヘキモノトス、從テ假ニ該權利

ノ範圍カ事實上債權者ノ有スル登録實用新案權ト低觸スルモノナリトスルモ權利範圍確認ノ審決ニ因リ其ノ低觸スル事實ノ確定セサル限り該權利ノ實施ニ付債權者ノ許諾又ハ之ニ代ルヘキ審決ヲ受クルヲ要セサルモノト解スヘキヲ以テ斯ル確認審決アリタルコトニ付債權者ニ於テ何等ノ主張疏明ヲ爲ササル本件ニ於テハ林茂雄ノ權利ヲ實施スル債務者モ亦債權者ノ實施許諾ヲ得ルノ必要ナキモノト謂フヘシ、果シテ然ラハ債務者ノ右權利實施ニ付債權者ノ許諾ヲ要スルモノナリト主張シ之ヲ前提トシテ爲シタル債權者ノ本件假處分命令ノ申請ハ其ノ理由ナキコト明カナルヲ以テ之ヲ却下スヘク申請費用ハ債權者ヲシテ負擔セシムヘキモノトス(實用新案權侵害禁止假處分命令申請事件、四年(ヨ)一三四六號、四年一〇月五月大四民判決、法律新聞三〇四八號一五頁)

第二十六條 特許法第六條、第三十三條(中略)第一百十條乃至第二百二十八條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

【實用新案法二六條ノ法意】 (特許法一一三條「特許法一一三條ノ法意」參看)

商標法

第二條 左ニ掲ケル商標ニ付テハ之ヲ登録セス

- 九 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ
- 十一 商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルモノ

【商標組成ノ主要部分ノ類似ト商標ノ類似認定】 上告論旨第一點ハ原審ニ於テハ本件商標ハ圓ノ輪廓ノ中央ニ五稜星ノ圖形ヲ描キ更ニ之ヲ圍ミテ放射狀線ヲ正方形ニ象リテ配置シテ成リ舊第三十五類麻綱「マニラロープ」綿網締繩ヲ指定商品トシテ大正五年十二月五日登録セラレタル登録商標第八二八六號ニ類似ナリト爲シ其ノ根據トスルトコロハ本件商標カ五稜星ノ上部ニ光線ニテ半圓形ヲ描キ之ヲ北光ナル文字ニテ挾ミテ文字及圖形ヲ結合セシメテ成リ第三十五類「マニラロープ」南京「ロープ」「トワイン」ヲ指定商品トシテ昭和三年七月三十一日登録出願セラレタルモノニシテ兩者商標ニ於テ一見特ニ看者ノ印象ヲ深クスルハ五稜星ノ圖形ナルカ故ニ五稜星ノ圖形ハ其ノ要部ヲ成スモノトシテ兩者ハ外觀ニ於テ類似シ又共ニ星印トシテ取扱ハルルヲ自然トスルカ故ニ稱呼同一ナルノミナラス尙觀念モ同一又ハ類似ナリトスルニ在リ然レトモ援用登録商標ノ要部ハ五稜星ニ非ラス蓋援用登録商標ハ離隔的ニ觀察スルトキハ光線ヲ正方形ニ象リテ描キ殊更ニ赤色ニ着色(限定)セルヲ以テ一見特ニ看者ヲシテ軍旗ノ如ク思考セシメ中央ノ五稜星ハ單ニ對比的ニ觀察シテ之ヲ知得シ得ルノミ故ニ數多ノ光線ヲ正方形ニ象リタル點カ要部タルヘキニ反シ本件商標ハ正方形ニ數多ノ光線ヲ配置シタルコトナリ又北光ナル文字ヲ結合セシメタルヲ以テ本件商標全體ノ外觀ヨリシテ市場ニ於テ當業者及需要者ノ一

般カ採用登録商標ト混同誤認ヲ來スノ虞ナキモノトス、凡ソ商標法ノ類似商標ニ關スル規定ハ畢竟商標ノ混同誤認ヲ防止セムコトヲ目的トスルモノニ外ナラサレハ商標ヲ構成スル各部分ニ主要ナルモノト然ラサルモノトノ別アリトスルモ隔離觀察ニ於テ各部分ヲ總括シタル全體ノ外觀上尙モ之ト相紛ハシク混同誤認シ易キモノコソ商標法上類似スト謂ハサルヘカラス(御院大正九年(オ)第七二七號判決)然ルニ原審ニ於テハ商標ノ全體ヲ隔離的ニ觀察セスシテ漫然兩者商標ノ一部ヲ抽出シテ兩者商標ノ外觀類似ヲ決シタルハ商標法ノ類似商標ニ關スル規定ノ擬律ヲ誤リタルノ不法アルモノトスト云ヒ、同第二點ハ原審ニ於テハ本件商標ニ北光ナル文字存スルコトヲ認メ乍ラ漫然採用登録商標ト共ニ星印トシテ取扱ハルルモノト爲シ稱呼同一ナリト爲シタリ、然レトモ世人ヲシテ特ニ呼ハシムル爲特ニ其ノ名稱ヲ商標ニ表示スルコト普通ナレハ(明治四十四部如何ニ拘ハラス世人ハ特ニ其ノ表示スル名稱ヲ以テ取引セラルルコト普通ナレハ(明治四十四年商標ニ關スル審判第二一七號審決)本件商標ノ稱呼ハ北光ト爲スヘキカ極メテ普通ナルニ反シ採用登録商標ハ少クトモ北光ト稱呼セラルルコトナキヲ以テ稱呼上類似スルモノニアラス抑商標ノ稱呼ハ當該商品ノ商標ニ關シ市場ニ於ケル購買者ノ一般の注意力ヲ基準トシテ決定スヘキヲ通則トスルニ拘ラス原審ニ於テハコノ實驗則ヲ無視シタルノ違法アルモノトスト云ヒ、同第三點ハ原審ニ於テハ兩者共星印トシテ取扱ハルル結果トシテ觀念同一ナリト爲シタリ、然レトモ本件上告人カ昭和三年十一月三十日特許局ニ差出シタル意見書ニ於テ演述シタル如ク古來北光仍チ北方ニ輝ク星カ交通上重要ナル案内ヲ爲シ所謂頼リト爲スヘキモノト爲シタルコトハ當業者ニ於テ顯著ノ事實ナリ故ニ「ローブ」ノ種類ノ商品ニ北光ナル文字ヲ記載スルトキハ單ナル星ト觀念セラルヘキコトナキノミナラス前述ノ如ク採用登録商標ハ寧ロ軍旗ニ類似スル

コトニ依リ軍旗ナル觀念ヲ聯想スルヲ普通トシ縱令百歩ヲ讓リテ星ノ觀念ヲ生スルトスルモ容易ニ北光ナル觀念ヲ生セサルヲ普通トス故ニ兩者商標ハ觀念上類似セサルモノトス、抑商標ハ當該商標ヲ使用スヘキ商品ニ關スル普通ノ取引狀態ヲ標準トシテ決スヘキモノトス(大正十二年商標ニ關スル審判第四七〇八號乃至第四七一〇號審決)然ルニ原審ニ於テハ事茲ニ出テスシテ觀念上ノ類否ヲ決シタルノ不法アルモノトス、以上ノ如ク本件商標ハ採用登録商標ト外觀稱呼ハ勿論觀念ニ於テモ全然相違シ類似セサルヲ以テ商標法第二條第一項第九號ヲ適用スルノ由ナキモノトス、然ルニ原審ニ於テ漫然之ヲ適用シタルハ法律ヲ不當ニ適用シタルノ違法アルモノナリト云フニ在リ、按スルニ二個ノ商標カ類似スルヤ否ハ取引ノ實際ニ於ケル經驗則ニ照ラシ世人ヲシテ混同誤認ヲ生セシムル虞アリヤ否ヲ標準トシテ其ノ商標ヲ組成スル圖形文字構圖的意匠等ヲ總括シタル全體ニ付離隔的ニ觀察シテ之ヲ判斷スヘキモノニシテ縱令其ノ圖形文字構圖的意匠等ハ互ニ分離スヘカラサルモノニ非スシテ主要部ト然ラサルモノトヲ區別シ得ル場合ナリトスルモ其ノ主要部トシテ抽出セラルルモノカ取引上他ノ部分ニ對シ壓倒的重要價值ヲ有シ他ノ部分ハ顧慮セラルルコトナキ程度ニ在ラサル限り單ニ其ノ商標ノ組成上主要ナリトスル部分カ類似ストノ理由ノミニ依リテ兩者商標カ類似スト速斷シ得ヘキニ非ス、本願商標ハ五稜星ノ上部ニ七條ノ光線ニテ半圓形ヲ描キ之ニ「北光」ナル文字ヲ配シタルモノナルモ引用商標ハ中央ニ五稜星ヲ設ケ之ニ圓ヲ環ラシ更ニ放射狀ノ光線ヲ正方形ニ象リタルモノニ依リ中央部ノ五稜星ハ兩者ニ付素ヨリ輕視スヘカラサル組成部分タルヘシト雖他ノ部分ニ對シ壓倒的重要價值ヲ有スルモノト認メ難ク兩商標ノ圖形文字構圖的意匠ヲ總括シタル全體トシテノ外觀ハ他ニ特別ノ事情ナキ限り離隔的觀察ニ於テモ取引上世人ヲシテ混同誤認ノ虞ナシト認ムルヲ相當

トス、然ラハ原審カ此ノ兩商標ヲ相互ニ混同誤認ノ虞アリト爲スニ付他ニ特別ノ事情アリテ然ルコトヲ說示セサリシハ法律ヲ誤解シタルカ又ハ理由ヲ遺脱シタル不法アリ(商標登録願拒絶査定不服事件、四年(オ)一一〇四號、四年二月二四日大ニ民判決、法律新聞三〇八二號一五頁)

【商標ノ類似認定】 商標ハ文字圖形若ハ記號又ハ其ノ結合ヨリ成ルモノナルヲ以テ二個ノ商標カ外觀上相類似スルヤ否ハ其ノ文字圖形若ハ記號又ハ其ノ結合ノ全體ニ就キ離隔的觀察ニ於テ彼此混同誤認ヲ生スル虞アルヤ否ニ依リテ決スヘキモノニシテ濫リニ要部ナルモノヲ認メ其ノ内ノ一部ヲ抽出シ單ニ其ノ部分ノミヲ比較對照スルコトニ依リ決スヘキモノニ非ス、本件ニ於テ原審ノ確定シタル事實ニ依レハ上告人ノ有スル登録商標ハ長方形輪廓ノ上部ヲ劃シ其ノ中央ニ會ナル記號ヲ現ハシ其ノ左右ニ「元祖」下部ニ「小樽展覽會褒狀受領」ト記シ長方形輪廓ノ下部ハ縱ニ三段ニ劃シ中央ニハ「こしみそ」スリバチイラズ」其ノ左右ニハ「理想的家庭ノ要求衛生ト便利ト經濟ノ三徳アリ」又ハ「並賃こし仕候味噌再製所小樽區花園町東三丁目筑前屋商店」ナル文字ヲ配シテ成ルモノニシテ被上告人ノ使用スル(イ)號商標ハ長方形輪廓ノ上部ヲ劃シ其ノ中央ニ赤地ニ會ナル記號ヲ白拔シ其ノ左右ニ「再製」ト記シ長方形輪廓ノ下部ハ縱ニ三段ニ區劃ヲ設ケ中央ニハ赤地ニ「こしみそ」ト「スリバチイラズ」ト白拔シ其ノ左右ニハ「理想的家庭ノ要求衛生ト便利ト徳用ナル」又ハ「再製味噌賣捌所東京麻布富士見町四十七番地堺屋關根麻二郎商店」ナル文字ヲ赤色ニテ現ハシテ成ルモノナリト云フニ在リ、而シテ右二個ノ商標ハ其ノ全體ニ就キ其ノ輪廓並文字記號ノ配置ニ於テ彼此類似シ離隔的觀察ニ於テ混同誤認ヲ生スル虞アルモノト認メ得ラレサルニ非ス、然ルニ原審ハ濫リニ該二個ノ商標ノ要部ハ會合ノ記號ニ在リト認メ右兩記號ハ外觀ハ勿論稱呼及觀念上ニ於テ彼此截然區別シ得ルヲ以

テ商標全體トシテ相類似セスト爲シ果シテ二個ノ商標ノ全體ニ就キ離隔的觀察ニ於テ彼此混同誤認ヲ生スル虞アルヤ否ヲ審査セスシテ輒スタ上告人ニ不利益ナル結果ヲ爲シタルハ審理不盡若ハ商標ノ類否識別ニ關スル法則ニ違背シタル不法アルモノニシテ本論旨ハ其ノ理由アリ原審決ハ此ノ點ニ於テ全部破毀ヲ免レサルモノトス(登録商標權利確認請求事件、四年(オ)六三號、四年六月一七日大ニ民判決、法律新聞三〇三一號一四頁)

【商標類似認定ニ付實驗則ノ違背又ハ理由不備】 原審ノ確定シタル事實ニ依レハ本願商標ハ松葉ト鶴トノ各圖形ヲ組合セタル紋様ヲ描出シ其ノ下部ニ「松の友」ノ文字ヲ縱書シ右紋様の圖形ト文字トノ間ニ構成上何等ノ軒輕ナキモノニ係リ登録第一七五〇〇九號商標ハ「松の色」ノ文字ヲ縱書シタルモノナリト云フニ在リ、然リ而シテ商標カ本願ノモノニ於ケル如ク圖形ト文字トノ結合ニ依リテ成立シ其ノ構成上兩者ノ間ニ輕重ノ差ナキモノニ在リテハ圖形モ亦該商標ノ重要ナル構成要素ノ一ニ外ナラサルヲ以テ特段ノ理由ナキ限り取引上ニ於テ右圖形ノ部分ヲ無視シテ該商標カ單ニ文字ヨリ成レルモノト目スヘカラサルハ實驗則上當然ナルカ故ニ原審カ若稱呼上本願商標ハ「まつのともし」ト云ヒ引用商標ハ「まつのいろ」ト稱シ互ニ相類似スルモノナリト論斷セムトセハ宜シク先ク本願商標ノ圖形ノ部分ヲ無視シ單ニ其ノ下部ニ存スル文字ニノミ着眼シテ他ノ商標ニ對スル類似性ヲ決スルニ足ルヘキ特別ノ理由ヲ舉示スヘキモノトス、然ルニ原審カ事茲ニ出テス本願商標ノ文字ノミニ留意シテ引用登録ト類似スルモノト斷定シ以テ本件請求ヲ排斥シタルハ實驗則ノ違背又ハ少クトモ理由不備ノ違法アルモノニシテ原審決ハ破毀ヲ免レサルモノトス(商標登録願拒絶査定不服事件、三年(オ)一三九三號、四年四月四日大ニ民判決、法律新聞三〇〇一號一五頁)

【商標登録ニ付商品ノ混同誤認ヲ生スル虞アリヤ否ノ決定時期】 上告理由第二點ハ原審決ハ「又抗告審判請求人ハ本件登録第一八五八七九號商標ハ前記米國法人「マツクギルマニユフア」クチュアリングコムパニー」ノ標章ト同一ナルカ故ニ前者ヲ附シタル商品カ後者ヲ附シタル商品ト混同ヲ生スル虞アリト主張スル所アルモ抗告審判請求人ノ擧ケタル事實又ハ當審ニ於ケル證人ノ證言ニ依ルモ Levolier ナル標章ハ本件商標登録出願前右米國法人ノ標章トシテ帝國內ニ於テ相當廣ク世人ニ認識セラレタルモノト認メ得サルヲ以テ抗告審判請求人ノ此ノ點ニ關スル主張モ之ヲ採擇スルヲ得ス」ト判示セラレタリ、然レトモ商標法第二條第一項ノ各號ハ各自獨立シテ登録セサルモノヲ規定シタルモノニ係リ同一事項ヲ重複シテ規定シタルモノト解スヘキニアラス、而シテ第八號ニハ「取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ」ト規定シ第十一號ニハ「商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルモノ」ト規定セルカ故ニ第十一號ニ該當スルヤ否ハ同一商品ニ付廣ク認識セラレル他人ノ標章ナリヤ否ヲ判斷スルノ要ナク之トハ獨立シテ商品ノ混同誤認ヲ生スルヤ否ヲ判斷スヘキ筋合ナルニ拘ラス原審決カ Levolier ナル標章ハ本件商標登録出願前米國法人ノ標章トシテ廣ク認識セラレタルモノト認メ得サルカ故ニ商品ノ混同誤認ヲ生セスト斷定スルハ第八號ト第十一號ト混同シ兩者ヲ同一視セル不法アリ且本件ノ事實ハ(一)上告人ハ原審ニ於テ被上告人ハ本件登録商標ノ Levolier ナル文字カ米國法人「マツクギルマニユフア」クチュアリングコムパニー」ノ電氣機械器具ニ使用スル標章トシテ代表的ノモノナルコトヲ知りテ本件商標ノ登録出願ヲナシタルコトヲ主張シ甲第一號證(被上告人ノ作成セル訴狀)ニ依リテ之ヲ立證シ又甲第四號證(「スキツチ」ノ實物)ニ依リテ前記米國法人カ商標ニ使用スル態様

ヲ立證セリ(原審抗告審判請求書理由第四項及補充書第七項並第一審々判請求書中立證方法ノ項參照)(二)被上告人ハ第一審ニ於テ被上告人カ前掲米國法人ノ製品ヲ一手ニ輸入販賣スル便宜上本件商標ノ登録出願ヲナシタルコトヲ自白セリ(第一審答辯書第二項及第三項參照)(三)前記米國法人ノ製品(スキツチ)ニ「レボリア」(Levolier)ノ「マーク」アルモノハ大正十四年ノ秋被上告人ヨリ遞信省ニ提出シ遞信省ニ於テハ之ニ基キ前記「マツクギル」會社ノ「スキツチ」ニハ「レボリア」ノ「マーク」アルコトヲ知り之ニ基キ大正十五年四月ヨリ六月ニ亘リテ行ハレタル函館、東京、名古屋、西宮、大阪、京都等ニ於ケル郵便局又ハ電話局ノ電燈工事ノ公入札仕様書中ニ「マツクギル」會社ノ「スキツチ」ヲ使用スヘシ云々」ノ文字ヲ置キタル事實アリ(原審證人名達隆義證言參照)(四)前記米國法人「マツクギル」會社ノ「レボリア」ノ「マーク」アル電氣器具ノ「カタログ」ハ大正十四年ノ末横濱市「シーベルヘグナー」會社ニ頒布ヲ受ケ同會社ノ其ノ「カタログ」ヲ直ニ上告人ニ送付シ上告人ハ大正十五年三月中並其ノ後同會社ノ手ヲ經テ前記米國法人ノ製品タル「レボリアスキツチ」ヲ米國ニ注文セル事實アリ(原審證人羽二生長太郎證言並甲第二號證參照)(五)本件商標ハ大正十五年四月六日ノ出願同年十月十九日ノ登録ニ係ルモノニシテ被上告人ハ其ノ登録ヲ受ケタル後一方ニ於テハ前記米國法人「マツクギル」會社ノ製品(「レボリア」ナル英文字ノ「マーク」アルモノ)ヲ輸入シテ販賣シナカラ他方ニ於テ之ト同種ノ「スキツチ」ヲ帝國內ニ於テ自ラ製造シ之ニ前掲米國法人ノ使用スルト同一ナル本件登録商標ヲ使用シツツアルコトヲ主張シ其ノ事實ヲ立證スル爲メ甲第六號證ノ一及二(「スキツチ」ノ事物及其ノ容器ナリ)ヲ提出シタリ(原審辯駁書並補充書第四項及再辯駁書第四項參照)故ニ原審ニ於テハ須ラテ前述ノ如キ事實ノ存否ヲ確メタル上進テ前掲米

國法人「マツクギル」會社カ製造シ且被上告人ノ知悉セル代表的ノ *Levolier* ナル商標ヲ使用スル電氣機械器具(特ニ「スキッチ」)ト被上告人カ其ノ後製造シテ本件登録商標ヲ使用スル同ノ電氣機械器具トノ間ニ商品ノ混同誤認ヲ生スル虞ナキヤ否ヲ審理判斷スヘキ筋合ナルニ拘ラス此等ノ各證據並事實ニ付毫モ審理判斷ヲ下シタル形跡ナキハ明ニ審理不盡理由不備ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ、仍テ審按スルニ商標法第二條第一項ハ商標ニシテ同項所掲ノ各號ニ該當スルモノナルトキハ之ヲ登録スヘカラサルコトヲ定メタルモ其ノ商標カ右各號ニ該當スルヤ否ヲ決スルニ付テハ何レノ時期ヲ以テ標準トナスヘキヤヲ明示セス廻テ之ヲ明示セスト雖之カ爲直ニ右各號ヲ通シ一様ニ登録出願ノ時又ハ審査ノ時ヲ以テ如上標準時期ト爲スノ趣旨ナリト言フヲ得ス這ハ須ク右各號ニ付之ヲ審究スルヲ要ス、而シテ同項第十一號ニ於テ登録禁止ノ一場合トシテ商標カ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムヘキ虞アル場合ヲ掲ケタル所以ノモトハ蓋スル商標ノ登録ヲ許ストキハ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ結果一般取引ノ安全ヲ害シ公益ニ反スルカ故ニ外ナラス同法第二十二條ハ右第二條第一項第五號第八號乃至第十號等ニ違反シテ爲サレタル登録ニ對スル無効審判ノ請求ハ利害關係人ニノミ之ヲ爲スコトヲ許シタルニ反シ右第十一號ニ違反シテ爲サレタル登録ニ對スル無効審判ノ請求ハ營ニ利害關係人ノミニ止マラス審査官又之ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨定メタルニ觀ルモ亦以テ這ノ間ノ消息ヲ推知スルヲ得ヘシ、然リ而シテ假令登録出願當時ニ在リテハ何等商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞ナカリシ商標ト雖其ノ後ノ事情ノ變化ニ因リ之ヲ登録スヘキヤ否ヲ審査スルノ時ニ於テ如上ノ虞アルモノト爲リタリトセンカ之カ登録ヲ許ストキハ前叙ノ如キ公益ニ反スル結果ヲ生スヘキハ明ニシテ從テ斯ノ如キ場合ニ於テハ其ノ登録ヲ禁スルニ非サルヨリハ到底右規定ノ精神ハ之ヲ

貫徹スルヲ得サルヤ論無シ、然レハ右規定ニ因リ登録スヘカラサルモノナリヤ否ヲ決スルニ當リテハ其ノ之ヲ審査スルノ時ニ於テ當該商標ハ如上ノ虞アルモノナリヤ否ニ依ルヘク其ノ登録出願當時ノ状態ヲ標準トスヘキモノニ非スト解スルヲ相當トス、蓋商標登録ノ出願アリタル場合當該商標カ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムヘキ虞アルモノナリヤ否ヲ決スルニ付標準時トシテ採ルヘキモノハ登録出願ノ時ト登録許否審査ノ時トノ二者ヲ出ツヘカラス、今若シ後者ヲ採ルトキハ出願者ハ出願後ノ事情ノ變更ニ因リ或ハ登録ヲ拒絕セラルルノ厄ニ遭フコトヲ免レスシテ之ニ對スル保護薄キノ憾ナキニ非スト雖取引ノ安全ヲ保チ公益ヲ維持スルニ於テハ甚適切ナリト謂フヘシ、之ニ反シ前者ニ依ランカ出願者ノ保護ニ付テハ盡セリト雖取引ノ安全ト公益ノ維持トハ則チ得テ望ムヘカラス此ノ二途ノ間ニ於テ出願者ノ利益ヲ犧牲ト爲シ公益ノ爲ニ圖レルモノ即右規定ノ趣旨ナリトス、從テ登録カ右規定ニ違反シテ爲サレタルコトヲ理由トシ該登録ノ無効審判ヲ求ムル請求ノ當否ヲ判斷スル場合ニ於テモ亦當該商標カ右審査當時詳言スレハ其ノ最終ノ時即登録ヲ許可シタル査定若クハ審決又ハ判決ノ時ニ於テ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムヘキ虞アリタルヤ否ニ依リテ之ヲ決スヘク出願當時ノ状態ヲ以テ標準トナスヘキモノニ非サルコト多言ヲ俟タス、今本件ヲ觀ルニ上告人ハ原審ニ於テ本件登録商標 *Levolier* ナル文字ヲ草書體ニテ現ハシ第六十九類電氣機械器具其ノ他ヲ指定商品トスルモノナル處米國法人マツクギルマニユフアクチュアリングコムパニーハ本件商標登録出願前ヨリ其ノ後ニ亘リ其ノ製造ニ係ル電氣機械器具ニ付右ト同一構成ヲ有スル商標ヲ使用シツツアリシモノニシテ本件登録商標ハ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムル虞アリタルモノナレハ其ノ登録ハ無効トスヘキモノナリト主張シタルモノナルヲ以テ原審ニ於テハ須ラク本件商標ハ其ノ審査ノ最終時ニ於テ果シ

テ上告人主張ノ如ク商品ノ誤認又ハ混同ヲ生スヘキ處アルモノナリシヤ否ヲ判斷シ之ヲ消極ニ決スル場合始メテ上告人ノ請求ヲ排斥スルヲ得ヘキモノナルニ拘ラス事茲ニ出テス右 Levollar ナル標章カ本件商標登録出願前右米國法人ノ標章トシテ帝國内ニ於テ廣ク也人ニ認識セラレタリトノコトハ之ヲ認ムルヲ得ストシ依テ本件商標ハ其ノ登録出願當時商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムヘキ處アリタルモノニ非スト爲シ以テ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ是即法則ヲ不當ニ適用シタルモノト謂ハサルヲ得ス若シ又原判示ニシテ本件商標ハ審査當時ニ於テモ亦如上ノ處アリシモノニ非ストスル趣旨ナリトセムカ宜シク該判斷ヲ下シタル理由ヲ說示スヘキモノナルニ拘ラス何等其ノ説明ヲ與フル所ナカリシハ理由不備ノ違法アルモノト謂フヘシ(商標登録無効請求事件、三年(オ)一〇五六號、四年一〇月二六日大四民判決、法律新聞三〇七七號九頁)

【世人ヲ欺瞞スル處アル商標】 商品ノ出所若クハ品質等ヲ辭句ヲ以テ記述セル商標若有リトスレハ格別爾ラサル限り商標ソノモノカ所謂世人ヲ欺瞞スル處アリトノコトハ實ニ嚴格ニ云ハハ有リ得サルコトニ屬ス、而モ尙コレ有リトスル所以ノモノ开ハ商標ニ由ル聯想ノ爲商品ノ出所若クハ品質ニ付誤認ヲ來ス場合ヲ指スモノニ外ナラス、故ニ葡萄ノ能ク葡萄酒ヲ醸生スルコトヲ知ラサルモノハ葡萄ノ商標ヲ見ルモ其ノ商品ヲ認メテ以テ葡萄酒ト爲サス、蜜蜂ノ能ク蜂蜜ヲ聚蓄スルコトヲ知ラサルモノハ其ノ商品ヲ認メテ以テ蜂蜜ト爲サス、夫レ爾リ故ニ今或商號ヲ有スル商人ノ製造販賣ニ係ル或商品カ優良品トシテ世上ノ聲價ヲ博セル場合ニ別ニ人アリ之ト同種類ノ商品ニ或商標ヲ使用セリトセムニ此ノ商標タル彼ノ商號ト同一ニモ非ス類似ニモ非ス又之ヲ以テ其ノ構成ノ一部トセルニモ非スト雖而モ此ノ商標ハ容易ニ彼ノ商號ヲ聯想セシムルモノアリ依テ此ノ商品ハ彼ノ商人ノ製造販賣ニ係ル優良品ナリト誤認セシムルノ處アルト

キハ是亦所謂商標ソノモノカ當該商品ノ品質若クハ出所ニ付世人ヲ欺瞞スルノ處アル場合ニ外ナラス當院判例ノ趣旨亦此クノ如キノミ原審決ハ此ノ意味ヲ解セス爲ニ審理不盡ノ違法ヲ犯シタルモノトス(商標登録無効請求事件、三年(オ)一三一六號、四年五月二二日大四民判決、法律新聞三〇三三號一三頁)

第七條 商標權ハ登録ニ依リ發生ス

商標權者ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ付其ノ商標ヲ專用スルノ權利ヲ有ス
商標權カ其ノ登録商標ノ使用ノ態様ニ依リ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル意匠權ト低觸スル場合ニ於テハ商標權者ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非レハ其ノ態様ニ於テ登録商標ヲ使用スルコトヲ得ス

【商標無効審決確定前ノ商標專用行使ノ權利侵害ノ存否】 不法行爲ノ成立ニハ故意又ハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタルコトヲ必要トス、然ルニ本件ニ於テ上告人ノ主張ニ依レハ被上告人ハ明治四十三年二月十七日其ノ製造販賣ニ係ル商品砂糖豆ニ安積豆ナル商標ノ登録ヲ受ケタルトコロ上告人ノ爲シタル無効審決ノ請求ニ因リ大正十一年四月二十七日特許局ニ於テ右登録商標無効ノ審決アリテ該審決ハ同年七月五日確定シタルモノナルヲ以テ被上告人ハ右無効審決ノ確定ニ至ル迄ハ商標權者トシテ砂糖豆ニ安積豆ナル商標ヲ專用スルノ權利ヲ有シタルモノトス、從テ商標登録以後ハ他人ノ同一商品ニ右登録商標ヲ使用スルコトヲ禁止シ得ヘキモノナルヲ以テ被上告人カ他人ヲシテ同一商標ヲ使用スルコトヲ禁止シ其ノ他專用權行使ノ方法トシテ採リタル所爲ハ特別ノ事情存セサル限り素ヨリ適法ノ行爲ニシテ之ヲ故意又ハ過失ニ因ル權利侵害ノ行爲ト爲スヘキモノニアラス、然ラハ被上告人商標登録後上告人ノ主張スルカ如ク上告人ニ商標使用禁止ノ催告ヲ爲シ看板ヨリ安積豆ナル文字ノ抹消ヲ求メ又上告人ノ使用スル

「安積名物さとう豆」ノ商標ノ使用ヲ禁止シ新聞其ノ他ニ登録商標安積豆ノ廣告ヲ爲シ該商標使用以外ノ安積豆ノ模造品ナル如ク世人ニ疑念ヲ懷カシムル所爲ヲ爲シタリトスルモ之一ニ被上告人ノ商標專用權ノ行使ヲ爲シタルニ止ルヲ以テ故意又ハ過失ニヨル權利侵害ノ不法行爲ヲ以テ目スヘキモノニアラス、尙ホ上告人ハ被上告人ニ於テ前示無効審決確定後ニ於テモ新聞雜誌ニ「登録商標安積豆本舖製造安積豆ニ類似品有之候間御買求ノ節ハ商標ニ御注意願上候云々」ノ廣告ヲ掲ケ其ノ他郡山驛構内外數ヶ所ノ廣告板ニ登録商標安積豆ノ廣告ヲ爲シタルコトヲ以テ不法行爲ナリト主張スルモ斯ル廣告ハ普通商人ノ商品販賣ノ手段ナリト認メ得ラレサルニ非サルヲ以テ單ニ登録商標ノ文字ヲ使用シタル一事ニ因リ直ニ被上告人カ故意又ハ過失ニ依リテ上告人ノ權利ヲ侵害スル行爲ト爲スニ由ナキモノトス、斯ノ如ク上告人ノ主張事實ニ依リテ業ニ既ニ上告人ノ本訴請求ヲ認容シ得サルヘキモノナルカ故ニ上告人ノ請求ヲ棄却シタル原判決ハ結局正當ニ歸スルニ因リ假ニ論旨ヲ以テ理由アリトスルモ原判決ハ之ヲ破毀スヘキモノニ非ス(損害賠償請求事件、三年(オ)一一二九號、四年二月二日大民判決、法律新聞二九八四號一頁)

第八條

商標權ノ效力ハ普通ニ使用セラレル方法ヲ以テ自己ノ氏名名稱若ハ商號又ハ其ノ商品ノ普通名稱、產地、品位、品質、效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス

但シ商標登録後惡意ヲ以テ氏名名稱又ハ商號ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
商標權ノ效力ハ第二條第三項ノ規定ニ依リ權利ヲ要求セザル旨ヲ申出テタル部分自體ニ及ハス

【商標法八條ノ解】

商標法第八條ハ商標權ノ效力ハ其ノ商品ノ普通名稱ヲ表示スルモノニ及トノ規定ニハ非スシテ普通ニ使用セラレル方法ヲ以テ其ノ商品ノ普通名稱ヲ表示スルモノニ及

ハストノ規定ニ外ナラサルコトハ明文ノ上ニ顯然タリ、而シテ茲ニ所謂普通名稱トハ固有名詞ニ對スル普通名詞ノ義ニ過キス、當該商品ノ名稱トシテ一般ノ間ニ普遍的ニ了知セラレ居ルモノト云フ意味ニ非サルカ故ニ之ヲ或ハ爾カク解セルカ如キ原判決ハ此ノ點ニ於テ失當ニシテ所論ハ理由アリト云ハサルヲ得ス、然レトモ本件ニ於ケル問題ハデリス若ハ *dehis* ナル語ソノモノハデリス即和名苗栗藤ナル植物ヲ以テ製シタル殺虫劑ノ吾國ニ於ケル普通名稱ナリヤ否ト云フ一點ニ止マルニ非ス、況ヤデリスナル語カ南洋産ノ或植物ノ吾國ニ於ケル普通名稱ナリヤ否ノ如キハ更ニ以テ問題ニ非ス、本件ニ於ケル問題ハ上告人使用ニ係ル商標詳言スレハ或種ノ字態ト字配ト形狀ト下ニ一定ノ外觀ト稱呼ヲ有スル一ノ商標中ニ存スルデリス若ハ *dehis* ナル語ハ果シテ普通ニ使用セラレル方法ヲ以テ當該商品(即デリス製殺虫劑)ノ普通名稱ヲ表示スルモノナリヤ否實ニ此ニ外ナラス、而モ第一審以來上告人ハ只管デリスナル語ソノモノヲ捉ヘ或ハ之ヲ以テ或種殺虫劑ノ普通名稱ナリト抗爭シ或ハ之ヲ以テ或種植物ノ普通名稱ナリト抗爭シ絶エテ問題ノ核心タル普通ニ使用セラレル方法ト云フ點ニ觸ルルコト無ク而シテ裁判所モ亦唯此ノ抗辯ソノモノヲ排斥スルニ急ニシテ普通ニ使用セラレル方法ト云ヘル法規ノ文字ハ殆ト之ヲ省サルニ似タルハ彼此共ニ背緊ニ中ラサルニ庶幾シト云フ可キナリ、然ルニ翻テ原審ノ確定セル事實ノ如何ヲ觀ルニ此ノ點ニ關スル原判示又動モスレハ不十分ナルヲ免レスト雖熟々判文ノ前後ヲ細讀スルトキハ上告人ノ使用ニ係ル商標ハ即成立ニ争無キ甲第二號證ノ一、二ニ表示セラレアルモノニシテ其ノサンリンデリスナル商標中デリストアル部分ハ被上告人ノ登録商標ト全然其ノ形狀及稱呼ヲ一ニスル事實ノ確定セラレアルコトヲ窺フヲ得可ク而シテ其ノ *Saundelis* 中ノ *dehis* カデリスト稱呼ヲ一ニスルコトハ原判決ニハ毫モ言及スルトコロ無キモ

這ハ特ニ判示ヲ俟ツマテモ無ク當然自明ノコトニ屬ス、然ラハ則チ上告人ノ使用ニ係ル當該商標中ニ存スルデリス若ハ *Paris* ナル文字ハ一ノ語自體トシテハ或種ノ殺虫劑若ハ或種ノ植物ヲ表示スル一ノ普通名稱ニ外ナラスト假定スルモ同商標中ニ存スル一ノ文字トシテハ自家ノ製造販賣ニ係ル商品ナルコトヲ特ニ表彰スルノ記號則チ所謂商標ノ構成部分トシテ使用セラレアルコト當該商標ノ外觀上一見則チ歷々タルカ故ニ之ヲシモ尙且普通ニ使用セララルル方法ヲ以テ當該商品ノ普通名稱ヲ表示スルモノト云フヲ得可キヤ否商標法第八條ノ適用從ヒテ又有リヤ否則チ多ク云ハスシテ可ナリ原審ノ判斷ハ窮極ニ於テ正鵠ヲ失ハス所論ハ第一審以來ノ抗辯ヲ反覆強調スルモノニ外ナラスト雖其ノ抗辯自體ノ己ニ肯緊ニ中ラサルハ前叙ノ如シ(商標使用禁止請求事件、四年(オ)二號、四年四月二四日大四民判決、法律新聞三〇〇四號九頁)

第十五條

商標權者故意ニ其ノ登録商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依ル商標ノ登録ヲ取消スヘシ
前項ノ規定ニ依リ商標ノ登録ヲ取消サレタル者ハ取消ノ審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス

【商標法一五條ノ「附記又ハ變更ヲ爲シテ登録商標ヲ使用シタルトキ」ノ解】 商標法第十五條第一項ニ商標權者故意ニ其ノ登録商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムル虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スヘシト規定シタルハ蓋シ商標權者カ故意ニ登録商標ニ附記變更ヲ爲スコトニ依リ其ノ外觀ニ變更ヲ加ヘ之ヲ使用シ以テ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシメントスル不正手段ヲ防止シ斯ル不正手段ニ對スル制裁トシテ其ノ商標登録ノ取消ヲ許容シタル趣旨ナルコト明ナルヲ以テ同條ニ所謂附記又ハ變更ヲ爲シテ登録商標

ヲ使用シタルトキトアルハ登録商標ヲ其ノ指定商品又ハ指定商品ト類似スル商品ニ使用シタル場合ヲ指スノミナラス登録商標ヲ其ノ指定商品ト類別ヲ異ニスル商品ニ使用シタル場合ヲモ包含スルモノト解セサルヘカラス、何トナレハ商標權者カ故意ニ其ノ商標ノ外觀ヲ變更シ之ヲ類別ヲ異ニスル商品ニ使用シ商品ノ出所ニ付誤認又ハ混同ヲ生セシムル虞アル場合ニ於テハ之ニ對スル制裁トシテ前記ノ規定ヲ適用シ其ノ登録商標ノ取消ヲ認ムルハ其ノ立法ノ趣旨ニ適合スルモノナルヲ以テナリ、原審決ハ本件登録商標第一九六〇三二號ハ雲上ニ立テル男女二體ノ神像ノ中間下方ニ「筑波山ノ夫婦」ト小サク書シタル構成ヲ有シ第五十類他類ニ屬セサル紙製容器包装紙袋紙牌ヲ指定商品トシテ昭和二年七月六日ノ登録出願同三年一月二十一日ノ登録ニ係ルモノニシテ上告人ノ有スル登録商標第九八一九號ハ「夫婦餅」ナル文字ヨリ成リ舊第四十三類菓子(但シ粟おこしヲ除ク)ヲ指定商品トシテ大正七年十二月十日登録セラレタルモノナル處被上告人カ其ノ商品餅菓子ニ使用セルコトニ付當事者間ニ爭ナキ甲第一號證ニ示ス商標ハ中央ニ顯蓋ニ「夫婦餅」ト大書シ其ノ上部及下部ニ筑波山ノ圖形ヲ表ハシ上部ノ中央ニハ山ヲ背景トシ雲上ニ立テル男女二體ノ神像ヲ表ハシ其ノ兩側ニ「筑波山みやげ」「商標登録」「意匠登録」ノ文字ヲ書シ中央兩側ニハ提灯ノ圖形ノ中ニ「筑波大権限」「元祖筑波山天狗堂」等ノ文字ヲ書シタルモノナル事實ヲ確定シタルニ拘ハラス商標法第十五條第一項ニ附記又ハ變更ヲ爲シテ登録商標ヲ使用シタルトキトアルハ登録商標ヲ其ノ指定商品或ハ少クトモ指定商品ト類似スル商品ニ使用セル場合ヲ指スモノト解シ上告人ノ請求ハ被上告人カ甲第一號證ニ示ス商標ヲ其ノ商品菓子ニ使用セルコトニ在リ、而シテ本件登録商標ノ指定商品ト菓子トハ同一又ハ類似ノ商品ニ非サルヲ以テ上告人ハ商標法第十五條第一項ノ規定ニ依リ被上告人ノ有スル本件

商標ノ登録ヲ取消シ得ヘキニ非ストシテ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ前記法條ノ解釋ヲ誤リタル違法アリ(商標登録取消請求事件、四年(オ)九〇〇號、四年一月二三日大ニ民判決、法律新聞三〇八六號一四頁)

【商標法一五條ニ依ル商標ノ取消】 商標法第十五條第一項ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スニハ商標權者カ其ノ登録商標ニ附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用スルニ當リ其ノ結果商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルコトヲ認識スルヲ以テ足リ必シモ他ノ商標權者ノ利益ヲ侵害スル目的ヲ以テ之ヲ使用スルコトヲ必要トセス、而シテ原審決ハ上告人カ其ノ登録商標ニ附記變更ヲ爲シテ以テ使用スルニ當リ之カ爲ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムル虞アルコトヲ協議シ居リタルモノト解シ得ヘシ(商標登録取消請求事件、三年(オ)六一六號、四年七月一〇日大ニ民判決、法律新聞三〇六二號九頁)

【商標法一五條ニ依ル商標ノ取消】 商標法第十五條第一項ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スニハ商標權者カ其ノ登録商標ニ附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用スルニ當リ其ノ結果商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルコトヲ認識スルヲ以テ足リ必シモ他ノ商標權者ノ利益ヲ侵害スル目的ヲ以テ之ヲ使用スルコトヲ必要トセス、而シテ原審決ハ上告人カ其ノ登録商標ニ附記變更ヲ爲シテ以テ使用スルニ當リ之カ爲ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムル虞アルコトヲ協議シ居リタルモノト解シ得ヘシ(商標登録取消請求事件、三年(オ)六一六號、四年七月一〇日大ニ民判決、法律新聞三〇六二號九頁)

- 一 第十四條、第十五條又ハ第三十一條ノ規定ニ依ル商標ノ登録ノ取消
 - 二 第十六條ノ規定ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ノ無効
 - 三 商標權ノ範圍ノ確認
- 前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第二條第一項第五號第八號乃至第十號、第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得
- 第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

【登録商標無効事件ト共同審判請求ノ許否】 登録商標ノ無効審判請求ニ付商標權ノ共有ニ非サル場合ニ共同審判請求ヲ爲シ得ヘキモノナリヤノ點ニ付商標法ニ明規ナシト雖同一登録商標ノ無効ヲ同一原因ニ基キ數人ヨリ主張セラルル場合ニ之カ共同審判請求ヲ許容スルトキハ審判ノ抵觸ヲ防止シ得ルノミナラス國家ノ勞力並當事者ノ審判費用ヲ輕減シ得ル實益ノ存スヘキハ論ヲ俟タサル所ニシテ何等ノ弊害ヲ生スルコトナシ、加之特許局ニ於テ事件ノ實際ニ於テ併合審理ヲ不得策ナリト認メタルトキハ辯論及審判ヲ分離シ得ヘキモノナレハ假ニ弊害ヲ生スヘキ場合アリトスルモ之ヲ除去シ得ルカ故ニ前記ノ場合ニハ共同審判請求ヲ許容スヘキモノナリト解スルヲ妥當ナリトス(商標登録無効審判請求事件、三年(オ)七七八號三年一月三〇日大ニ民判決、法律新聞二九五二號九頁)

【同一若ハ類似商標ノ登録無効ヲ請求シ得ル利害關係人ノ範圍】 周知標章ト同一若クハ類似ナルノ故ヲ以テ商標ノ登録無効ヲ請求スル場合ニ於テハ利害關係人ノ意義ハ之ヲ限局シテ解釋スヘキモノニ非スシテ其周知ノ標章ト紛ハシキ商標ノ使用ニヨリテ損害ヲ蒙ル者例ヘハ右周知標章ヲ附シタル商品ヲ取扱フ者等ヲ包含シ單ニ該標章ノ所有者ノミヲ指稱スルモノニ非ス(商標登録無効請求事件、四年(オ)八五八號、四年一月三〇日大ニ民判決、法律新聞三〇八三號一〇頁)

商標法施行規則

第十六條 特許法施行規則第一條乃至第三條、第五條乃至第三十六條、第三十七條ノ二、第三十九條乃至第四十三條、第四十六條乃至第四十八條、第五十條乃至第五十二條、第五十五條乃至第六十五條 商標法施行規則 (一六條)

條、第六十七條乃至第六十九條、第七十四條第二項及第七十五條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

【審判請求ノ目的タル權利ノ承繼ト審判請求書ノ訂正】 上告論旨第一點ハ原判決ハ其ノ理由ニ於テ抗告審判ノ請求ヲ爲スニ當リテハ審判ニ於ケル當事者ヲ以テ抗告審判被請求人ト爲スヘキモノニシテ原審判決後ニ當該係争事件ニ關スル權利移轉アリタル場合ニ其ノ權利承繼人ヲ以テ抗告審判請求ノ相手方ト爲スコトヲ得ル場合ノ外審判ノ當事者ニ非サリシ者ヲ以テ抗告審判被請求人ト爲スヲ得サルモノトスト宣示セラレタリ、然レトモ被上告人ハ初審ニ於テ審判被請求人廣中金作ノ承繼人トシテ自己ニ利益ナル審決アリタキ旨ノ本案ノ答辯ヲ爲シ應訴シタルニナラス被上告人ノ答辯ニヨリ上告人カ錯誤ノ事實ヲ知り相手方ノ表示ヲ訂正セント欲シタルニ初審ハ其ノ餘裕ヲ與ヘス直ニ却下ノ審決ヲ與ヘタルカ爲上告人ハ抗告審判ノ請求ト同時ニ之カ訂正ヲ爲シタルモノナリ、抑モ商標登錄無効審判ノ目的ハ特許局ノ爲シタル商標ノ登錄ナル行政處分ノ當否ヲ判定スルニアリ是レ民事訴訟ノ目的カ當事者間ノ法律關係ヲ確定スルニアルト異ナル主要點ナリ即民事訴訟法ニ於テハ甲ニ對シ或債權ヲ有スル者カ訴訟ノ途中ニ於テ乙ニ對シ債權アリトノ理由ニヨリ甲ヲ乙ニ變更シテ同一訴訟ヲ維持スルコトノ許サレサルハ固ヨリ商標法第二十四條ニ於テ準用スル特許法第七十七條ハ「特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定判決又ハ判決ノ登錄アリタルトキハ何人ト雖同一事實及同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコトヲ得ス」ト規定シ一事不再理ノ原則ヲ定メタリ而シテ茲ニ所謂同一事實トハ特許權者ノ何人タルヲ問ハス特許權其ノモノニ存スル法的事實ヲ指稱スルモノニシテ或特許權カ甲ニ屬シタル場合ニ甲ヲ相手方トシテ爲シタル確定審決又ハ判決ノ登錄アリタル後

其ノ特許權カ乙ニ讓渡セラレタリトスルモ乙ニ對シテ前ト同様ノ審判請求ヲ爲シ得サル法意タルハ疑ナキ所トス、果シテ然ラハ商標登錄無効審判ニ於テハ商標權其ノモノヲ以テ請求ノ對照物ト見ルヘク其ノ權利者カ甲ナルト乙ナルトニヨリ請求ノ要旨ニ變化アルヘキ道理ナシ商標ハ登錄セララルコトニヨリ獨占權ヲ生シ從テ之カ有效ナルト無効ナルトハ公益ニ重大ナル關係アルヲ以テ登錄無効審判ハ職權審理主義ヲ採用シタルノミナラス公益ヲ維持スル必要上審判ノ請求權ヲ審查官ニ與ヘタリ故ニ實質上ヨリ謂ヘハ利害關係人ノ手續ヲ俟ツ迄モナク審理ヲ遂ケ若シ其ノ登錄ニ不法アラハ直ニ之ヲ無効ト爲スヘキモノナリ、然レトモ一度登錄セラレタル商標ヲ無効トシ其ノ權利ヲ消滅セシムル場合最モ不利益ヲ受クヘキ者ハ商標權者ナルニ因リ法律ハ審判請求アリタルトキハ之ニ請求書ノ副本ヲ送達シ又口頭辯論審理期日ニ出頭セシメ無効請求ニ對スル答辯ヲ爲サシムルコトトシタリ、翻テ被上告人ハ廣中金作ノ死亡ニ因リ昭和二年六月二日家督相續ヲ爲シ前主金作ノ人格ヲ其ノ儘承繼シ而カモ初審以來本案ノ答辯ヲ爲シ居ル者ナレハ原審ハ抗告審判被請求人ノ表示ヲ廣中小七ト訂正スルコトヲ容認スヘキ理由アルニ拘ラス之ヲ排斥セルハ不法ナリト信スト云ヒ、同第二點ハ商標原簿ハ商標權者ノ何人ナリヤ又ハ商標權ノ移轉等ヲ證明スヘキ唯一ノ公簿ナリ商標法第二十四條ニ於テ準用スル特許法第四十五條ハ特許權ノ移轉ハ其ノ登錄ヲ受クルニアラサレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト規定シ其ノ記載ヲ尊重シ實體上ノ權利主體ノ何人ナルヤヲ問ハス之ヲ信シテ取引ヲ爲シタル者ニ不利益ヲ蒙ラシメサルナリ、然レハ則チ原簿ノ記載ハ絕對的ノ證明力ヲ有スルモノト謂フ可シ上告人ハ初審ノ審判ヲ請求スルニ當リ該原簿ヲ閱覽シタル所權利者トシテ廣中金作ヲ表示セラレタルニ由リ之ヲ信シテ審判ノ相手方トナシタリ、然ルニ其ノ手續カ違法ナリト謂フハ條

理ニ反ス今若シ審判ヲ請求スルニ當リ原簿ノ記載ヲ信用スルニ足ラストセハ利害關係人又ハ審
 査官ハ何ニヨリテ實體上ノ權利者即適法ナル審判被請求人ヲ了知スルヤ而カモ之ヲ敢テセサル
 ヘカラストセハ夫レハ不能ヲ強フル結果トナルヘシ、論者或ハ謂ハン商標權者カ生存セルヤ否
 ハ戶籍ノ謄本ニヨリテ之ヲ知り得ヘシト然レトモ戶籍簿ノ記載ハ人ノ死亡ト同時ニ完了スルモ
 ノニアラサルノミナラス戶籍役場ニ於テ其ノ謄本ノ交付以後ニ於テ死亡スルコトアルヘキハ想
 像ニ難カラス又生存者タルコトヲ確メタル上審判請求書ヲ作成シテ特許局ニ提出スル手續中ニ
 相手方死亡スルヤモ計リ知ルヘカラス、如斯如何ニ綿密ナル注意ヲ拂フト雖尙且避ケ得ヘカラ
 サル事項ニ關シ審判請求人ニ其ノ責任ヲ負ハシムルハ不能ヲ責ムルモノト謂ハサルヲ得ス、殊
 ニ商標登錄無効審判ヲ請求スル期間ニ一定ノ制限アリ法定ノ期間内ニ提起シタル審判請求ナル
 ニ拘ラス審判請求人ノ責ニ歸スヘカラス事實ニ因リ其ノ手續ヲ無効ニ歸セシムルハ正鵠ヲ得
 タルモノニアラス上告人カ原審ニ於テ此ノ點ヲ極力主張シタルニ對シ原審ハ通常ノ民事訴訟ニ
 於テ適用セラルル法則ト之ト全然其ノ性質ヲ異ニスル商標登錄無効審判ニ適用シ依テ上告人ノ
 主張ヲ排斥シタルハ不法ナリト信スト云ヒ、同第三點ハ法ハ怠慢者ヲ保護スルモノニアラス被
 上告人ハ昭和二年六月二日父金作ノ死亡ニ因リ家督相續ヲ爲シ其ノ人格ヲ承繼セルニ拘ラス未
 タ特許局ニ對シ相續ニ基ク商標權移轉登錄ノ申請ヲ爲ササルモノナリ今若シ被上告人カ相續後
 遲滯ナク移轉登錄申請ヲ爲シタリトセハ上告人ハ斯ル錯誤ニ陷ラサリシナリ商標法第十四條ニ
 於テ商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ因ルモノヲ除クノ外移轉アリタル日ヨリ一年
 以內ニ商標權移轉ノ登錄ヲ申請セサルトキハ審判ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消スヘシト規定セルニ
 徴スレハ商標法上相續ニ依ル商標權ノ移轉ハ營業上ノ同一性ヲ失ハサルモノト認メラレタルニ

外ナラス即實質上ノ權利者カ被相續人ナリヤ將タ相續人ナルヤハ取引上何等支障ヲ來タササル
 モノト認メ其ノ過怠ニ對シ毫モ制裁ヲ加ヘサルナリ、果シテ然ラハ被上告人ハ相續開始セルニ
 拘ラス移轉登錄申請ノ手續ヲ採ラサル怠慢ヲ理由トシテ自己ニ利益ナル裁判ヲ得ヘキ謂レナシ
 又商標權ノ移轉ハ登錄ヲ受クルニアラサレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ストノ第三者保護ノ規
 定ヲ手續ヲ懈怠セル被上告人ニ適用スルコトノ不當ナルハ多言ノ要ナシ、要之相續ノ開始ト同
 時ニ之ニ基ク移轉登錄ヲ申請スル者ト相續開始後一年有餘何等ノ手續ヲ爲ササル懈怠者トヲ比
 較シ前者ノ受ケタル保護ヲ後者ニ於テ受クルモノトスルハ主客轉倒ノ論ニシテ識者ノ採ラサル
 所ナリ、然ルニ原審ハ如斯見易キ法理ヲ無視シ上告人ニ不利益ナル審決ヲ與ヘタルハ不法ニ法
 則ヲ適用シタル譏アルヲ免レサルモノト信スト云ヒ、同第四點ハ家督相續人ハ被相續人ノ人格
 ヲ其ノ儘承繼スルモノニシテ法律上同一人ト看做サルモノナリ、從テ權利ノ主體トシテノ人
 格ハ單一ナリサレハ被相續人ニ對シテ爲サレタル手續モ相續人ニ對シテ爲サレタル手續モ共ニ
 單一ナル人格ヲ相手方トスルモノナレハ其ノ間ニ何等ノ差異ヲ認ムヘキ理由ナシ、嗣テ被上告
 人ハ昭和二年六月二日相續スルト同時ニ被相續人廣中金作ノ人格ヲ承繼シタルモノナレハ被相
 續人ノ死亡後其ノ名義ニ於テ爲シタル手續ハ當時其ノ人格ヲ承繼セル相續人ニ爲シタルモノト
 見ルハ極メテ妥當ナリ、誰カ世上ニ存在セル死者ヲ相手方トシ審判ニ於テ之ト相爭フノ愚ヲ敢
 テセンヤ加之相續開始ト之ニ基ク商標權移轉登錄ノ手續ヲ爲ス間ニハ事實ニ副ハサル登錄(即
 現ニ生存セサル者カ權利者トシテ表示セラレタル)アルモ相續ニ基ク移轉登錄完了スレハ相續
 開始ノ時ニ遡及シ其ノ間ニ何等ノ間隙ナキ連續シタル狀態トナルモノナリ、審判手續ノ中途ニ
 於テ權利ノ承繼アリタル場合ニ處スル方法ハ法律ニ規定セラレ特許局ニ對シ手續ノ開始セラレ

サル以前ノ承繼ニ關シテ何等ノ規定ナシト雖規定ナキカ故ニ其ノ手續ヲ不適法トナス結論ニ到達セス、畢竟原審ハ本件審判ノ請求カ實質上ノ權利者被上告人ヲ相手方トシテ提起セラレタルコト明白ナルニ拘ラス請求書ニ廣中金作ナル死亡者ヲ表示セルノ故ヲ以テ直ニ不適法ナル請求トシテ之ヲ排斥シタルモノニシテ到底法則ヲ不法ニ適用シタル違法ヲ免レサルモノト信スト云ヒ、同第五點ハ原審決ハ審判被請求人ノ表示ヲ誤記トナシ抗告審判請求ノ際ニ之ヲ訂正スルカ如キハ審判請求ノ要件ノ欠缺ヲ補正セントスルモノニシテ之ヲ爲スヲ得サルモノトスト宣示セラレタリ、然レトモ本件審判ノ請求ハ前述ノ如ク第一五二八七號商標ノ登録無効ヲ其ノ權利者ニ對シ提起シタルモノト認メ得ヘキハ勿論ニシテ其ノ權利者ノ氏名ヲ表示スルニ當リ廣中金作トナシタルモノヲ當時相續セル廣中小七ニ訂正スルハ請求ノ要旨ヲ變更スルモノト謂フヘカラス商標法第二十四條及特許法第百十條ニ據リ準用セララルル特許法第八十六條ハ「審判ノ請求ハ審判請求書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スヘシ」ト規定シ審判請求ノ絶對的形式要件ヲ明示セリ、然ルニ商標法施行規則第十六條ニ依リ準用セララルル特許法施行規則第五十一條ハ審判又ハ抗告審判ノ請求書ノ記載要件トシテ(一)當事者及代理人ノ氏名名稱及住所又ハ居所(二)審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示(三)一定ノ申立及理由(四)利害關係人カ審判ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ利害關係ヲ掲ケタリ、而シテ右條件中一定ノ申立及理由ハ特許法ニ於テ特ニ規定セラレタル關係上必須條件(御院ニ於テハ上告理由ヲ上告狀ニ記載セスシテ後日補充スルコトヲ容認セラレ居レリ)ト見ルモ其ノ他ノ條件ヲ後日補充シ訂正スルコトハ請求自體ノ要旨ニ何等影響ヲ及ホササルモノト謂フヘシ從來特許局ニ於テモ亦一般ニ認メラレタル所ニ屬ス、然ルニ原審ハ本件係争ニ於テ初審ノ審判被請求人トシテ廣中金作ト

表示シタルヲ抗告審判ニ於テ其ノ家督相續人タル廣中小七ニ訂正シタルハ審判請求ノ根本ニ變更ヲ來スモノノ如ク誤解シ之ヲ許容セサリシハ法則ヲ不法ニ適用シタルモノト信スト云フニ在リ、依テ按スルニ本件ニ於テ上告人カ無効審判ヲ求ムル登録商標ノ權利者タリシ廣中金作ハ當時既ニ死亡シテ其ノ家督相續人タル被上告人カ相續ニ因リテ其ノ商標權ヲ承繼シテ權利者ト爲リタルモノナルトコロ上告人カ本件無効審判請求書ニ相手方トシテ廣中金作ノ氏名ヲ記載シタルモノナルコトハ記録上明ナリ斯ル場合ニ於テハ特別ノ事情ナキ限り相手方ノ氏名ヲ誤記シタルモノト解スヘク從テ之カ訂正ヲ爲シ得ヘキモノナルニ拘ラス原審ハ斯ル訂正ヲ許スヘキモノニアラスト前提シ被上告人ヲ被請求人ト表示シテ爲シタル抗告審判ノ請求ヲ不適法トシテ却下シタルハ審判請求書ノ訂正ヲ不法ニ禁止シタル違法アルニ歸ス(商標登録無効請求事件、四年(オ)、二九九號、四年九月二六日大一民判決、法律新聞三〇六九號九頁)

計理士法

第一條 計理士ハ計理士ノ稱號ヲ用ヒテ會計ニ關スル検査、調査、鑑定、證明、計算、整理又ハ立案ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

附則三項 本法施行ノ際迄引續キ一年以上會計ニ關スル検査、調査、鑑定、證明、計算、整理又ハ立案ノ業務ニ従事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ六日以内ニ出願シタルトキニ限り第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス計理士試験委員ノ銓衡ヲ經テ計理士タルコトヲ得

【計理士法一條ニ所謂會計ニ關スル整理ノ解】 計理士法第一條同法附則第三項ノ規定ニ依ルトキハ、計理士又ハ同法施行以前ニ於ケル所謂會計士ナルモノハ會計ニ關スル検査調査鑑定證明計算整理又ハ立案ヲ爲スコトヲ業トスルモノナルコトヲ認ムヘク、本件被告人ノ爲シタル所爲ハ其ノ何レニモ該當セサルコト明白ナリ論旨ノ主張ハ之等ノ所爲ヲ以テ同法ニ所謂會計ニ關スル整理ニ該當スルモノナリト言フニ在ルモノノ如シト雖同法ニ所謂會計ニ關スル整理トハ會計事項ニ付組織又ハ秩序ヲ與フルヲ指稱スルモノト解スルヲ至當トス（明治三十九年三重縣令二五號違反被告事件、三年（れ）一八七五號、四年二月四日大ニ民判決、法律新聞二九五五號九頁）

明治三十九年三重縣令二五號

【三重縣令二五號ニ所謂財産上ノ紛議ニ關與ノ解】 抵當不動産ニ對スル競賣ノ申立又ハ債務履行ノ催告ノ如キハ三重縣令第二五號ニ所謂民事訴訟事件ノ中ニ包含セサルモノト言フヲ得ヘ

キモ、同縣令ニ所謂財産上ノ紛議トハ民刑訴訟事件ニ限ラス、汎ク財産上ノ權利ノ主張又ハ義務ノ履行ニ關シ當事者間争ノ存スル場合又ハ争ナキモ其ノ満足ナル結果ヲ得サル場合ヲ指稱スルモノト解スヘキモノニシテ、債務者カ債務ノ履行ヲ爲ササル場合ノ如キ正ニ之ニ該當スルモノト云フヘク、而シテ苟モ其ノ紛議ニ關與スル以上其ノ關與ノ方法手段ノ如何ハ固ヨリ問フ所ニ非サルヲ以テ、單ニ之ヲ裁判外ノ請求ニヨルト裁判所ニ對シ非訟事件トシテ保護ノ請求ヲ爲ス場合トヲ問ハス何レモ同縣令ニ所謂關與ナリトス（明治三十九年三重縣令二五號違反被告事件、三年（れ）一八七五號、四年二月四日大ニ民判決、法律新聞二九五五號九頁）

【三重縣令二五號一項但書ノ解】 三重縣令第二十五號第一項本文ノ規定ハ代理人ナルト否トヲ問ハス同縣令ニ所謂特別ノ權能ナクシテ自己ノ利益ヲ圖ルノ目的ヲ以テ濫ニ他人ノ紛議ニ關與スルヲ禁止スル規定ナリト解スヘク、同縣令第一項但書ノ規定ハ法令上直接ニ他人ノ紛議ニ關與スルノ權能ヲ認メラレタル場合ヲ除外シタルニ過キササルモノト解スヘキモノトス（明治三十九年三重縣令二五號違反、三年（れ）一八七五號、四年二月四日大ニ民判決、法律新聞二九五五號九頁）

出版法

第三條 文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘシ

【官廳、資本家ニ對スル反抗懲慝ノ文書ト出版法三條】 原判示事實ニ依レハ被告人ハ謄寫版ヲ以テ「マタゴマカシノ安全週間長時間ノ勞働テ何カ安心タ」ト題シ資本家ハ勞働者カ病氣ニ侵サレ又怪我テモスレハ工場設備ノ不完全之ヲ誘起スルモノナルニ拘ラス直ニ勞働者ノ不注意ノ爲ナリト云フ資本家ハ勞働者ヲ屠殺者ノ如キ工場ニ入レテ自己ノ利益ノミ之レ圖ル官廳並ニ資本家ハ之ヲ糊塗スル爲安全週間ヲ宣傳ス、勞働者ハ斯ノ如キ宣傳ニ從順ナルヲ要セサル旨ノ文詞ヲ掲載頒布シタルモノナルコト明ナレハ其ノ文書タルヤ店舗ノ開設商品ノ賣價其ノ他ノ事項ヲ廣ク世間ニ告知シテ取引ヲ誘發シ若ハ選舉ニ關シ投票ヲ勸誘スル等ノ文詞ヲ掲載シタルモノト其ノ性質ヲ異ニシ官廳並ニ資本家ニ對スル勞働者ノ反抗ヲ懲慝スル文書ニ外ナラサレハ出版法第九條ノ引札ニ非スシテ同法第三條ノ文書ニ該當スルモノナルコト論ヲ俟タス(出版法違反被告事件、四年(れ)一七一號、四年四月三〇日大刑判決、法律牒開二九九五號九頁)

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖畫ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

【出版法二四條發行人印刷人ノ氏名ノ解】 出版法第二十四條ニ發行人印刷人ノ氏名ハ發行ヲ爲シ印刷ヲ爲ス自然人ノ氏名ヲ云フモノナレハ押收ノ文書ニ存スル發行者印刷者北海道勞働者

農民協會準備會十勝支部トノ記載ハ同條ニ所謂發行人印刷人ノ氏名ヲ記載シタルモノト云フコトヲ得ス(出版法違反被告事件、四年(れ)一七一號、四年四月三〇日大刑判決、法律新聞二九九五號九頁)

醫師法

第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者、停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

〔齒科醫ノ口蓋扁桃腺炎治療ト醫師法違反〕 被告人ハ醫師ノ免許ナクシテ昭和三年二月二十六日頃ヨリ四日間ニ亘リ佐々木滿三郎(當時二十一歳)ノ依頼ニヨリ同人ヲ診察シタル結果齒牙ニ基因セル急性扁桃腺炎ト診斷シ之ニ對シ、ルゴール氏液ノ塗布、下熱劑ピラミトン、含嗽劑硼酸水ヲ投藥シ診斷書ニ通ヲ作成シ以テ醫業ヲ爲シタルト云フニアリ、仍テ按スルニ被告人カ右ノ如ク醫師ノ免許ヲ受ケスシテ佐々木滿三郎ノ依頼ニ應ジ診察ノ結果齒牙ニ基因スル急性扁桃腺炎ト診斷シ右ノ如ク投藥治療ヲ爲シ診斷書ニ通ヲ作成シタル事ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ明ナリト雖被告人ハ大正十五年中醫科醫師ノ免許ヲ受ケ爾來肩書地ニ於テ齒科醫ヲ開業シ來リシモノナルコトハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認メ得ヘキヲ以テ本件訴訟事實カ醫師法違反ノ犯罪ヲ構成スルヤ否ヤハ一ニ被告人ノ爲シタル右急性扁桃腺炎ノ投藥治療カ齒科醫師ノ業務ノ範圍内ニ屬スルヤ否ヤニ依リテスルヘキモノトス、而シテ齒科醫師法中齒科醫師ノ業務範圍ヲ規定セル明文ノ存スルモノナシト雖モ同法第十一條第二項並ニ證人奥村鶴吉ノ訊問ノ結果ニ徵スレハ齒科醫師ハ齒牙齒根ノ疾病治療ノ外金屬充填鑲嵌義齒、齒冠繼續及加工齒列端正並口蓋補綴ノ技術ヲ其業務ノ主タル目的トスルモノナルコト疑ナク其目的ヲ達スルカ爲メニ口腔内ニ於ケル他ノ疾病ノ治療若クハ手術ヲモ施スコトノ必

要アルヘキハ理ノ見易キトコロニシテ是即チ前記證人ノ訊問ニヨリ明ナル如ク齒科醫師ヲ養成スル齒科醫學校ニ於テ口腔外科ナル一ノ科目ヲ設ケテ之カ教授ヲナス所以ナリ、左レハ齒牙齒根ノ疾病以外ノ口腔内ニ於ケル他ノ疾病ノ治療若クハ手術ヲ爲スコトモ亦齒科醫師ノ業務ノ從タル目的ノ一ニ屬スルモノト解スルヲ相當トス、然リ而シテ鑑定人都築正男ノ鑑定書ノ記載ニヨレハ扁桃腺ニハ口蓋扁桃腺、舌扁桃腺、咽頭扁桃腺ノ三種アルコト明ニシテ證人奥村鶴吉ノ訊問ノ結果ニヨレハ口蓋扁桃腺ハ口腔内ニ屬スルコトヲ認ムルニ足ル、被告人カ投藥治療シタル佐々木滿三郎ノ急性扁桃腺炎ナリシコトハ被告人ノ供述ニヨリ之ヲ認ムルニ足ル、然ラハ被告人ノ佐々木滿三郎ニ對シ爲シタル本件投藥治療ノ行爲ハ齒科醫師タル被告人ノ正當業務行爲ニ屬シ從ツテ醫師法第十一條ニ違反スル犯罪ヲ以テ目スヘキモノニアラス(醫師法違反被告事件四年七月三日東京地方裁判所第四刑事部判決、法律新聞三〇一四號八頁)

齒科醫師法

第十一條 免許ヲ受ケスシテ齒科醫業ヲ爲シタル者、停止中齒科醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條若ハ第七條ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

醫師ニシテ特ニ内務大臣ノ許可ヲ受ケスシテ齒科専門ヲ標榜シ又ハ齒科醫業中金屬充填、鑲嵌、義齒、齒冠繼續又ハ架工、齒列矯正並口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

【金冠、金隙齒嵌入手術】 齒牙ニ疾患ナキニ拘ラス單ニ裝飾ノ目的ヲ以テ金冠ヲ施シ若ハ金隙齒ヲ嵌入スルカ如キ行爲ト雖其ノ施術方法ノ當ヲ得ルト否トニ依リ齒牙ノ健全ニ影響ヲ及ホスヘキハ當然ナルヲ以テ此等ノ行爲モ亦齒科醫術ノ範圍ニ屬スルコトハ當院ノ判例(大正十五年(れ)第一七六三號同年九月三十日宣告)トスルトコロニシテ猶之ヲ變更スルノ要アルヲ見ス、原判示ニ依レハ被告人ハ齒科醫師ノ免許ナキニ拘ラス判示期間内ニ藤原傳藏外十數名ニ對シ料金ヲ得テ金冠金隙齒義齒等ヲ嵌裝シ以テ齒科醫業ヲ爲シタリト云フニ在リテ被告人ノ行爲ハ齒科醫師法第十一條ニ該當スルコト明ナリ(齒科醫師法違反事件、四年(れ)九二四號、四年十月十一日大四刑判決、法律新聞三〇五九號一四頁)

【金冠、金隙齒嵌入手術】 齒牙ニ疾患ナキニ拘ラス單ニ裝飾ノ目的ヲ以テ金冠ヲ施シ若ハ金隙齒ヲ嵌入スルカ如キ行爲ト雖其ノ施術方法ノ當ヲ得ルト否トニ依リ齒牙ノ健全ニ影響ヲ及ホスヘキハ當然ナルヲ以テ此等ノ行爲モ亦齒科醫術ノ範圍ニ屬スルコトハ當院ノ判例(大正十五年(れ)第一七六三號同年九月三十日宣告)トスルトコロニシテ猶之ヲ變更スルノ要アルヲ見ス、原判示ニ依レハ被告人ハ齒科醫師ノ免許ナキニ拘ラス判示期間内ニ藤原傳藏外十數名ニ對シ料金ヲ得テ金冠金隙齒義齒等ヲ嵌裝シ以テ齒科醫業ヲ爲シタリト云フニ在リテ被告人ノ行爲ハ齒科醫師法第十一條ニ該當スルコト明ナリ(齒科醫師法違反事件、四年(れ)九二四號、四年十月十一日大四刑判決、法律新聞三〇五九號一四頁)

獸醫師法

第六條 開業ノ獸醫師ハ診察又ハ治療ノ需アル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

獸醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書、檢案書又ハ死産證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

【他人ニ對スル債務不拂ト獸醫師ノ應招義務】 獸醫師法第六條ノ規定ハ獸醫師ニハ其ノ業務ニ關スル應招義務アル事ヲ認メ、只タ正當ノ事由アル場合ニ限り此ノ義務ヲ免除スル趣旨ニシテ、正當ノ事由アルヤ否ハ社會通念ニ基ク道義上ノ價值判斷ニ委シタルモノト認ムヘキ力故ニ診斷治療ヲ需メタル者ノ他人ニ對スル債務ノ不履行ヲ以テ正當ノ事由アルモノト爲シ從テ應招ヲ拒ム行爲ノ違法ヲ否定スルモノト爲スコトヲ得サレハナリ、又獸醫タルカ故ニ特ニ應招義務ニ付キ寛大ニ解セサルヘカラサル理由ナシ(獸醫師法違反被告事件、四年(れ)六八七號、四年八月一日大刑二判決、法律新聞三〇六四號一〇頁)

【他人ニ對スル債務不拂ト獸醫師ノ應招義務】 獸醫師法第六條ノ規定ハ獸醫師ニハ其ノ業務ニ關スル應招義務アル事ヲ認メ、只タ正當ノ事由アル場合ニ限り此ノ義務ヲ免除スル趣旨ニシテ、正當ノ事由アルヤ否ハ社會通念ニ基ク道義上ノ價值判斷ニ委シタルモノト認ムヘキ力故ニ診斷治療ヲ需メタル者ノ他人ニ對スル債務ノ不履行ヲ以テ正當ノ事由アルモノト爲シ從テ應招ヲ拒ム行爲ノ違法ヲ否定スルモノト爲スコトヲ得サレハナリ、又獸醫タルカ故ニ特ニ應招義務ニ付キ寛大ニ解セサルヘカラサル理由ナシ(獸醫師法違反被告事件、四年(れ)六八七號、四年八月一日大刑二判決、法律新聞三〇六四號一〇頁)

藥劑師法

第十一條 藥劑師毒藥又ハ劇藥ヲ配伍シタル調劑ヲ爲シタルトキハ處方箋ニ檢印シ其日附ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ但シ處方箋ニ指定スル使用期間ニ對スル調劑ノ全部ヲ了ラサルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ處方箋ニ調劑ノ年月日及調劑量ヲ記入シ記名捺印スヘシ

【藥劑師ノ毒藥劇藥調劑ノ責任】 藥劑師法第十一條第一項ハ藥劑師毒藥又ハ劇藥ヲ配伍シタル調劑ヲ爲シタルトキハ處方箋ニ檢印シ其ノ日附ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ但シ處方箋ニ指定スル使用期間ニ對スル調劑ノ全部ヲ了ラサルトキハ此ノ限ニ在ラズト規定シ其ノ第二項ハ前項但書ノ場合ニ於テハ處方箋ニ調劑ノ年月日及調劑量ヲ記入シ記名捺印スヘシト規定スルカ故ニ藥劑師使用期間ヲ指定シタル處方箋ニ基キ劇藥ヲ配伍シタル調劑ヲ爲シタル場合ニ於テ使用期間ニ對スル調劑ノ全部ヲ了リタルトキハ同條第一項前段ノ手續ヲ爲スヘク若シ其全部ヲ了ラサルトキハ各個ノ調劑カ互ニ連續シテ爲サレタルト否トニ拘ラス其都度同條第二項ノ手續ヲ爲ササルヘカラサルモノナリ、原判決認定ノ第二ノ事實ニ依レハ被告人ハ醫師橋本欽治ノ作成ニ係ル患者精松ミノ子ニ對スル藥劑スコボエキスヲ配伍シ使用期間ニ付數日持長約五日後ウロトロビン及スコボエキスヲ除外スル旨ノ記載アル處方箋ニ基キ昭和三年二月二日同月四日同月六日ノ三回ニ亙リミノ子ノタメニ調劑ヲ爲シタルカ其所定(スコボエキスノ配伍ヲ含ム)ノ使用期間ニ對スル調劑ノ全部ヲ了ラサル間ニ於テ被告人ハ故ナク處方箋ニ調劑ノ年月日及調劑量ヲ

記入シテ記名捺印スルコトヲ怠リタリト云フニ在ルヲ以テ被告人ノ所爲ハ前示藥劑師法第十一條ニ違反スルコト明ナリ(藥劑師法違反被告事件、三年(れ)一七九九號、四年一月二五日大四刑判決、

法律新聞二九五〇號一五頁)

【處方箋使用期間ノ記載】 醫師荒井恒雄ノ作成ニ係ル患者岩間壯二ニ對スル處方箋ニハ當分持長トノ記載アリタルモノニシテ當分持長トハ所論ノ如ク幾分長期間使用ヲ持續スヘキコトヲ指定シタルモノナルコト誠ニ明瞭ナリ、然リ而シテ原判決ノ認定シタル第一事實ハ原判決引用ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ヘク判示ノ如ク四回ニ劇藥配伍ノ調劑ヲ爲シタルハ孰レモ處方箋ニ指定シタル期間ニ對スル全部ノ調劑ヲ了リタルモノニアラサルヲ以テ被告人カ其ノ都度遲滞ナク處方箋ニ調劑ノ年月日及調劑量ヲ記入シ記名捺印スヘキニ之ヲ怠リタルハ明ニ藥劑師法第十一條ニ違反スルモノナリ(藥劑師法違反被告事件、三年(れ)一七九九號、四年一月二五日大四刑判決、

法律新聞二九五〇號一五頁)

鍼灸術營業取締規則

第十二條

免許鑑札ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ若ハ停止中營業ヲ爲シタル者又ハ第六條第七條ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

【味噌灸施術ト鍼灸術營業取締規則】

上告趣意書原判決ハ法令ヲ不當ニ適用シタル不法アリ、即チ其理由ニ於テ「被告人ハ灸術營業ノ免許鑑札ヲ受ケスシテ昭和三年六月十三日ヨリ

同月二十九日迄ノ間ニ前肩書ノ被告人宅及石川縣能美郡白峯村桑島酒井末次郎宅外一個所ニ於テ酒井まん外數人ニ灸術即チ人體ノ皮膚ニ直接摺リ味噌ヲ塗布シ又ハ紙片ニ摺リ味噌ヲ塗リタルモノヲ皮膚ニ宛テ該味噌ニ艾ヲ貼シ之ヲ灼キテ人體ニ溫熱ヲ與フル方法ノ味噌灸ト稱スル灸術ヲ施シテ報酬ヲ受ケ以テ灸術營業ヲ爲シタルモノナリ」ト判示セラレ内務省令鍼灸術營業取締規則ヲ適用シ被告人ニ對シ有罪ノ判決ヲ與ヘタリ、然レ共被告人ノ施術シタル灸點ハ呼ヒ易キヲ以テ自ラ味噌灸ト稱呼シ居レトモ一種ノ禁厭ニシテ鍼灸術營業取締規則ニ所謂灸術ニハ非ス、即チ判旨記載ノ如ク直接ニ人體ニ艾ヲ當テスシテ皮膚ニ紙片ヲ置キ又ハ紙片ヲ置カスシテ適宜ノ分量ノ摺リ味噌ヲ皮膚ニ附着セシメ其上ニ艾ヲ當テ而シテ火ヲ點シテ之ヲ灼キ身體ニ溫熱ヲ與フル方法ニシテ世間普通ニ行ハル灸點トハ大ニ異レリ、從テ皮膚ニ火傷ヲ生スルコトナク又燒痕ヲ殘スコトハ絕對ニアルコトナシ、然ルニ原審判決ハ右施術方法ヲ認定シ乍ラ尙ホ之ヲ灸術ナリトシ「灸術トハ艾ヲ人體ニ貼シ之ヲ灼キテ人體ニ溫熱ヲ感セシムルモノヲ指稱スルモノニシテ必スシモ艾ヲ直接皮膚ニ貼スルコトヲ要セス又艾ノ灼熱ニ因リ皮膚ニ火傷ヲ與フルコトヲ必要トセサルモノト解スヘキモノトス」艾ヲ直接皮膚ニ貼セサルモ艾ノ灼熱カ皮膚ニ塗レル味噌ヲ透シテ人體ニ溫熱ヲ與フルモノモ亦通念上灸術ナリト稱スルコトヲ得ヘシ」ト判示セラレタリ、然レ共民間ニ於テ古來ヨリ用ヒラレツツアル弘法大師ノ灸ナルモノハ艾ヲ紙ニ卷キ込ミ葉卷煙草又ハ萬年筆位ノ太サノ棒狀ヲ造リ其先端ニ火ヲ點シテ人體ニ當テ以テ溫熱ヲ與ヘ諸病ヲ治療スル方法ナレトモ人體ニ火傷ヲ生スルコトナキヲ特長トス、此施術ヲ世俗一般ニ灸ト呼稱シ居レトモ何人モ之ヲ灸術ト見營業鑑札ヲ受ケテ施術ヲ爲シ居ルヲ聞カス又之カ施術ヲ爲セル者ヲ處罰シタル例ヲ聞カス(第一審鑑定人綠川門彌訊問調書參照)之レ即チ灸術ニ類似シテ其性質ハ取締規則ニ所謂灸術ニ非ラサルカ爲メナリ、之ト均シク本件被告人ノ爲シタル灸術モ亦味噌ヲ通シテ人體ニ溫熱ヲ與フルモノナレハ絕對ニ火傷ヲ生スルコトナキヲ特長トス、然レ共原審判決判旨ノ如ク火傷ヲ生セサルモノ人體ニ溫熱ヲ與フル方法ナラハ灸術ナリト解スルトキハ「弘法大師ノ灸」モ亦灸術トシテ之ヲ罰セサルヘカラサル理ナリ又結果ニ於テ人體ニ溫熱ヲ與フル方法ヲ以テ灸術ナリトセハ身體ニ玻璃棒ヲ以テ硝酸ヲ點滴スレハ(火傷ヲ生シ温熱ヲ與フ)ル方法モ灸術ナリト謂ハサルヘカラス、然レ共右說示ノ方法カ灸術ニアラサルコトハ御院判例(大正五年刑事判決錄第一七五九頁)ノ示ス所ナリ又漆灸ナルモノアリ其名ハ灸ト稱スレトモ身體ノ灸所ニ生漆ヲ塗布シテ諸病ヲ治療スル方法ニシテ此方法ハ身體ニ灼熱ヲ加フルコトヲ目的トスルコトハ吾人ノ實驗上當然推測シ得ル事實ナリ、然ラハ漆灸モ亦身體ニ溫熱ヲ與フル結果ヲ生スルヲ以テ灸術ト謂ハサルヘカラス、然ルニ之ヲ灸術ト解スヘカラサルコトハ御院判例(大正七年刑事判決錄第一二八頁)ノ示ス所ナリ、更ニ又「糸底ノ灸」ナル方法民間ニ行ハレリ斯ハ吸物用ノ椀ヲ身體ノ疾患アル個所ニ伏セテ其糸底ニ艾ヲ載セ之ニ火ヲ點シ

テ灼キ人體ニ溫熱ヲ與フル方法ナリ之ニ因リテ疾病治療ノ效果ヲ收メツツアルモノナリ、之レ本件被告人ノ行爲ト殆ト軌ヲ一ニスルモノニシテ艾ト人體ノ中間ニ椀ヲ用フルカ又ハ摺リ味噌ヲ用フルカノ差異アルノミナリ勿論火傷ヲ生スルコトハ絶對ニアリ得ヘカラサル所ナリ、此方法モ亦灸ト呼稱セラレツツアレトモ取締規則ニ所謂灸術ニ非サルコトハ判斷ヲ俟タシテ明カナル所ナリ、何トナレハ椀ヲ伏セテ其糸底ニ灸點ヲナスモノナレハ溫熱ノ度弱ク人體ニ危害ヲ生スル虞ナク且醫療スル知識ヲ必要トスルコトナキヲ以テ何人モ此方法ヲ施スコトヲ得ヘク又何人カ之ヲ行フモ人體ニ危害ヲ生スルコトナシ、從テ之ヲ取締ルヘキ必要ハ全然ナシト云ハサルヘカラス即チ右方法ハ一種ノ禁厭ナリ、然ラハ味噌灸モ之ト方法ニ於テ五十歩百歩ノ差アルノミナレハ禁厭ニ屬スルモノト斷定スルヲ相當トス、以上三個ノ引例ハ即チ艾又ハ藥品其他ノ方法ヲ以テ人體ニ溫熱ヲ與フル施術ハ必スシモ灸術ト解スヘカラサルコトヲ證明スルモノナリ換言スレハ灸術トハ艾ヲ直接ニ人體ノ皮膚ニ附着セシメ之ニ點火シ以テ疾病ヲ治療スル方法ナリト解スヘキモノトス即チ(一)艾ヲ皮膚ニ直接附着セシメ之ヲ灼クコト(二)其結果トシテ火傷ヲ生スルコトヲ要件トセサルヘカラス之レ御院判例(大正七年刑事判決録第四八頁)ノ示ス所ナリト信ス、之ヲ要スルニ原審判決ハ鍼灸術營業取締規則ニ所謂灸術ノ解釋ヲ誤リ不當ニ法令ヲ適用シタルモノナルヲ以テ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在リ

(判決理由) 鍼灸術營業取締規則ニ所謂灸術ハ直接又ハ間接ニ艾ヲ皮膚ニ貼シ之ヲ灼キ因テ皮膚ニ火傷ヲ生セシメ若ハ單ニ身體ニ溫熱ヲ與ヘ以テ疾病ヲ治療スルノ術ヲ指稱ス是レ當院判例ノ趣旨トスル所ナリ、原判示ニ依レハ被告人ハ灸術營業ノ免許鑑札ヲ受クルコトナクシテ堀井まん外多數ノ人々ニ對シ其ノ皮膚ニ摺リ味噌ヲ塗布シ又ハ紙片ニ摺リ味噌ヲ塗りタルモノヲ皮

膚ニ宛テ味噌ニ艾ヲ貼シ之ヲ灼キ人體ニ溫熱ヲ與フルノ方法ヲ施シテ報酬ヲ受ケ以テ灸術營業ヲ爲シタルモノナレハ其ノ行爲ハ同規則第十二條ニ該當スルモノトス(鍼灸術營業取締規則違反被告事件、四年(れ)五四號四年三月一五日大四刑判決、法律新聞二九八一號五頁)

工場法

第十九條 前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工場主ニ代ルモノトス但シ第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

工場主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナレ場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

【工場管理人ト工場法ノ適用】 被告人ハ判示株式會社喜多組高松工場ノ管理人ナル所同工場設置ニ係ル電動機ノ使用ニ付所轄警察署ノ認可ヲ受ケスシテ判示期間之ヲ連續使用シタリト云フニ在レハ右無認可使用行爲ハ香川縣令工場取締規則第十五條、第二十三條第一項ニ違背スル處罰行爲タルハ勿論ニシテ斯ル場合ニ工場主タル株式會社又ハ其法定代表者カ處罰セラルヘキモノナリヤ將又該工場ノ管理人カ處罰セラルヘキモノナリヤハ工場法及工場法ニ基キ發セラレタル香川縣令工場取締規則ニ照シ決セラルヘキモノトス、論旨ニ依レハ同縣令工場取締規則ハ工場法ニ對スル特別法ナルカ故ニ其ノ適用ニ付テハ工場法ニ優先スヘキモノナリト云フニ在ルモ誤レリ、蓋シ工場法ト之ニ基キ發セラレタル同縣令トハ法律ト命令トノ關係ニシテ普通法ト特別法トノ關係ニ非サルカ故ニ工場法ニ基キ發セラレタル香川縣令カ其ノ規定ノ内容趣旨ニ於テ工場法ト同一ニ歸スルトキハ香川縣令ノ適用ニ代フルニ工場法ヲ以テスルモ違法ニ非サルノミナラス若シ兩者ノ規定相抵觸シ其ノ内容趣旨共ニ相容レサルニ於テハ寧ロ工場法ノ規定ヲ適用スヘキモノト謂フヘケレハナリ、仍テ工場法ヲ查閱スルニ同法第十八條第一項ニ工業主ハ工

場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得トアリ同法第十九條第一項ニハ前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス、但シ第十五條ニ付テハ此ノ限リニアラストアリ、又同第二項ニ於テ工業法人アル場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事業務ヲ執行スル社員會社ヲ代表スル社員取締役業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シト規定シアルヲ以テ是等ノ規定ヲ參照スルトキハ工場法ニ於テ工業主カ其ノ法人タルト否トヲ問ハス工場管理人ヲ選任シタルトキハ工場法及工場法ニ基キ發スル命令ノ適用ニ付テハ工場管理人ヲシテ工業主ニ代リ其ノ適用ヲ受ケシムル趣旨ニシテ若ハ其ノ工業主カ法人ニシテ且工場管理人ノ選任ナキ場合ニハ同法第十九條第二項所定ノ決定代表者ヲシテ法人ニ代リ其ノ適用ヲ受ケシムルノ法意ナリト解スヘク之ヲ論旨引用ノ香川縣令工場取締規則第十條第二十五條ニ對照スルモ其ノ規定ノ趣旨ニ於テ同一ニ歸シ其ノ間毫モ背馳スル所ナシ、又論旨引用ノ同取締規則第二十七條第二項ニ依ルモ同項ハ法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ同規則ノ罰則中罰金料ノ規定ノミヲ適用スヘク此ノ場合ニハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トスル趣旨ノ規定ニシテ工場管理人ノ選任アル場合ニ於テハ全然其ノ適用ナキモノナルコト明ルカ故ニ該規定ノ存在ハ毫モ叙上ノ解釋ヲ妨タルモノニ非ス、然ラハ右工場法第十九條第一項ニ依ルモ香川縣令工場取締規則第二十五條ニ依ルモ判示違反行爲ニ付判示罰則ノ適用ヲ受クヘキ者ハ工場管理人タル被告自身ニシテ工業主タル判示株式會社又ハ其ノ法定代表者ニ非サルコト寡ニ明瞭ナルヲ以テ原判決ハ工場法第十九條第一項ヲ適用シ管理入タル被告人ヲ處罰シタルハ正當ニシテ擬律錯誤ノ違法ナシ(香川縣令工場取締規則違反被告事件、四年(れ)七五四號、四年九月二七日大一日刑判決、法律新聞三〇五一號一五頁)

大正十三年內務省令第二十六號 勞働者募集取締令

第四條 勞働者ノ募集ニ從事セントスル者ハ左記事項ヲ具シ其ノ寫眞ニ葉ヲ添ヘ募集主ノ連署ヲ以テ其ノ住所地所轄地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 募集主ノ住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名
- 二 募集従事者ノ本籍、住所、氏名、職業及生年月日
- 三 募集従事者ノ履歴
- 四 募集従事期間
- 五 募集従事區域
- 六 應募者ノ就業場ノ名稱、所在地及事業ノ種類

募集従事期間ハ三年以内トス

第一項規定ノ許可ヲ受ケタル者更ニ他ノ募集主ノ爲ニ募集ニ從事セントスルトキハ從來ノ募集主ノ承諾ヲ添ヘ第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ申請スヘシ

〔就業場外ニ於ケル應募者ノ引率行爲ト勞働者募集令違反〕 被告人兩名カ各住所地所轄地方長官ヨリ勞働者募集従事者タルノ許可ヲ得スシテ昭和四年五月八日ヨリ同月十日マテニ亘リ募集主タル北海道雨龍郡雨龍鐵道工事施行者菱田組ノ爲東京市下谷區上野驛ヨリ前記雨龍郡深川驛ニ至ルマテノ間同工事ニ從事スヘキ應募勞働者中原清康外七十四名ヲ引率シタル事實ハ原判決摘示ノ被告人義信及明雄ニ對スル司法警察官ノ各聽取書中ノ供述記載及原審ニ於ケル證人小

山勇之助ノ供述ニ依リ之ヲ認ムルコトヲ得、而シテ大正十三年內務省令第三十六號勞働者募集取締令第四條ノ所謂募集ノ意義ニ付テハ同令中ニ明示スルトコロナキモ同令第二條ニ依リ縱令職工鑛夫又ハ土工夫其ノ他ノ人夫ヲ募集スル場合ト雖應募者就業ノ爲住居ヲ變更スル必要ナキトキ又ハ單ニ廣告ニ依リ募集シ就業場ニ於テノ募集ノ取扱ヲ爲ストキハ同令ノ適用ヲ除外セラルル結果同令ハ勞働者カ就業場外ニ於テ應募シ其ノ住居ヲ變更スル必要アル場合ニノミ特ニ適用セラルルモノト解セラルルノミナラス同令第十四條ニハ應募者ヲ引率シテ出發セムトスルトキハ其ノ出發三日前迄ニ應募者ノ住所氏名及生年月日ト共ニ出發ヨリ就業場到着マテノ旅行豫定及之カ變更アリタルトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘキ旨ヲ規定シ又同第十五條ニハ應募者ト共ニ汽車汽船其ノ他ノ交通機關以外ノ場所ニ於テ宿泊セムトスルトキハ豫メ宿泊所在地管轄官署ニ宿泊所應募者男女別員數宿泊所到達及出發ノ日時等ノ事項ヲ届出ツヘキ旨ヲ規定スルヲ以テ其ノ住居ヲ變更セシメ之ヲ就業地ニ引率シ甫メテ募集ノ目的ヲ達スル如キ場合ニ於テハ該引率ノ行爲ハ募集行爲トシテ主要ナルモノト解スルヲ相當トス、然レハ原判決ニ於テ被告人兩名カ判示ノ如ク應募勞働者ヲ引率シタル事實ヲ認定シ被告人等ヲ同令第四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケスシテ勞働者ヲ募集シタルモノトシテ同第二十一條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ又刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス、(勞働者募集取締令違反被告事件、四年(れ)一〇〇五號、四年一〇月二一日大五刑判決、法律新聞三〇七五號一頁)

傳染病豫防法

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

【他市町村傳染病患者ノ治療ト費用負擔者】 原告主張ノ南島クマカ被告飯田町在住者ニシテ昭和三年九月中疾病ニ罹リ同月十日原告ノ經營ニ係ル上飯田町所在ノ飯田病院ニ赴キ診察ヲ求メ原告病院ニ收容試験ノ結果翌十一日病原菌ヲ檢出シ眞症腸チブスト決定シ爾來該患者ヲ原告病院ノ隔離室ニ收容シ同年十月三日迄治療ヲ施シ原告主張ノ如キ費用ヲ要シタルコトハ當事者間ニ爭ナシ、原告ハ南島クマハ自宅治療ヲ爲ササルニ依リ被告町ニ於テ引取治療ヲ爲スヘキ義務ヲ管理シタリト主張シ、被告ハ他町村ニ於テ發生シタル傳染病患者ヲ引取リ治療ヲ爲スヘキ義務ナシト抗辯スルニ付按スルニ傳染病豫防法第三條ニ依レハ醫師カ傳染病患者ヲ診斷シタルトキハ患者ノ所在地ノ市町村長若クハ所轄警察署長ニ届出ヲ爲スヘク、同法及長野縣令傳染病豫防法施行細則ニ據レハ腸チブス患者ハ所轄警察署長ノ許可ヲ得レハ自宅治療ヲ爲スコトヲ妨ケサルモ若患者若クハ其扶養義務者カ自宅治療ヲ求メサル場合ニハ同法令ニ從ヒ患者ハ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘキヲ原則トス、而シテ同法ニ據レハ傳染病ノ治療其他防疫ノ事務ハ市町村ニ於テ處理スヘキモノトシ市町村ニ於テ傳染病患者ヲ傳染病院若クハ隔離病舎ニ入ラシメ其治療ニ要シタル諸費用等ハ同法第二十一條第三號第四號ニ依リ市町村費ヲ以テ負擔トスヘキ旨ノ規定アルヲ以テ長野縣ニ於テハ縣令ニ依リ腸チブス患者カ自宅治療ヲ爲ササル場合ニハ市町村ハ右法令ニ依リ市町村自ラ傳染病患者ノ治療ニ付キ必要ナル事務ヲ處理スヘキ義務アルハ論ヲ俟タサルモ市町村カ叙上ノ事務ヲ處理スヘキ義務アル場合ハ(一)自己ノ市町村内ニ於テ傳染病患者カ發生シタル場合(其患者カ住民タルト否トヲ不問)ノミナルヤ(二)又ハ他市町村内ニ於テ發生シタル場合ト雖モ其患者カ自己市町村ノ住民ナル場合ニハ尙之カ治療義務アリヤ否ヤニ付傳染病豫防法ノ規定ヲ按スルニ同法第三條ニ依レハ醫師カ傳染病患者ヲ診斷シタルトキハ患者ノ所在地ノ市町村長若クハ警察署長ニ届出ツヘキ旨ノ規定、同法第五條第八條ニ傳染病患者アリタル家云々ノ規定、同法第九條ノ傳染病患者ハ當該吏員ノ認可ヲ得ルニアラサレハ他ニ移スコトヲ得サル旨並傳染病豫防法執行規則等ニ鑑ミレハ傳染病豫防法ニ於テ市町村カ傳染病患者ヲ治療スヘキ義務アル場合ハ自己ノ市町村内ニ於テ傳染病患者カ發生シ且患者カ自己市町村内ニ所在スル場合ニハ其患者カ其住民ト否トヲ不問右法令ニ依リ傳染病患者ノ治療其他必要ナル處置ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スヘキモノトス、反之假令自己ノ市町村住民ト雖モ他ノ市町村内ニ於テ傳染病患者ト診斷決定セラレタル場合即(一)ノ場合ニハ其市町村ニ於テ患者治療ノ義務ヲ負擔スヘキ患者ノ住居スル市町村ハ單ニ自己ノ住民ナル故ヲ以テ此ノ義務ヲ負フヘキ謂レナシ、蓋シ傳染病患者ト診斷決定シタル者ハ之レヲ他ニ移轉スルコトハ防疫上最モ危險多ク且之ヲ移轉スルコトハ不可能ナル場合アルノミナラス患者ニ對シ應急治療ヲ施シ病菌ノ傳播ヲ防ク等其他必要ナル處置ヲ講スルニハ患者ヲ其儘其發生地ノ市町村ニ抑留スルヲ以テ防疫上必要ニシテ且便宜多キヲ以テ其患者ハ自己市町村ノ住民ト否トニヨリテ區別ヲ設クヘキ理由ナキヲ以テ傳染病患

傳染病豫防法 (三條)

者ト診斷セラレタル當時患者ノ所在地市町村ニ於テ治療義務ヲ負擔スルヲ至當トスヘケレハナ
リ(購チアス患者治療費請求事件、四年(ハ)一四八號、四年九月二七日飯田區判決、法律新聞三〇四三號
四頁)

古物商取締法

第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾分ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交
換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

【古物商ト新物賣買】 古物商取締法第一條ニ依レハ古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品
若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フトアルヲ
以テ營業ノ目的物カ主トシテ一度使用シタル物ナル以上ハ偶新物ヲ賣買交換スルコトアルモ古
物商タルコトヲ妨ケサルモノト解スヘキモノトス、然レハ則チ古物商カ叙上ノ新物ヲ賣買スル
ニ於テハ古物ノ場合ト同シク同法第十一條ニ則リ該物品ニ付其ノ帳簿ニ所定ノ記載ヲ爲スヘキ
ハ勿論ナリ、而シテ原判決力證據ニ憑リ認定シタル事實ハ被告人ハ行政廳ノ免許ヲ受ケ古物商
ノ營業ヲ爲シ居ル以上主トシテ一度使用シタル物ノ賣買交換ヲ業トスル者ナルコト自ラ明ナル
ヲ以テ谷口啓二ヨリ買受ケタル鐵材カ新物ナレハトテ買讓受明細帳ニ其ノ買受ノ記載ヲ爲スノ
要ナシト云フヘカラス、然レハ原判決力判示ノ買受品ニ付其ノ新古ヲ明示セサリシトスルモ其
ノ理由ニ缺クルトコロナシ(古物商取締法違反被告事件、四年(レ)九四九號、四年一〇月一五日大四刑
判決、法律新聞三〇六〇號一頁)

阿片法

第三條 阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品及製藥用品ニ限テ封緘ヲ施シ之ヲ賣下ケ又ハ交附スルモノトス
 阿片ハ政府ノ賣下ケタルモノ又ハ交附シタルモノニ非サレハ之ヲ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ
 得ス

阿片法三條二項ニ所謂阿片ノ授受】 被告カ葺田誠逸ヨリ見本阿片二匁ノ交付ヲ受ケタルコ
 トハ阿片法第三條第二項ニ所謂阿片ノ授受ニ該當スルコトハ前點説明ノ如シ而シテ苟クモ阿片
 ノ授受アリタル以上ハ其ノ目的カ見本ノ爲ナルト否ト繼續所持ノ意思アリシヤ否ト所有權ノ移
 轉ニアルト否トハ問フトコロニ非サルヲ以テ原審カ被告ノ所爲ヲ阿片法第三條二項ニ問擬シタ
 ルハ正當ニシテ毫モ擬律錯誤ノ違法アルコトナシ (阿片法違反被告事件、四年(れ)二九一號、四年
 五月一七日大判判決、法律新聞三〇三一號一〇頁)

大正九年內務省令四十一號

第二條一項 「モルヒネ」「コカイン」

且荷受人カ其ノ輸入又ハ移入ニ付輸入地又ハ移入地當該官憲ノ許可ヲ受ケタルモノナルコトノ證明
 ナ添ヘ業務所在地地方長官ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

- 一 品名及數量
- 二 荷受人ノ氏名又ハ商號及業務所在地
- 三 輸出又ハ移出ノ豫定期日
- 四 輸出港名又ハ移出港名

【大正九年內務省令四十一號違反罪ノ組成物件ト沒收】 「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ
 取締ニ關スル大正九年內務省令第四十一號第二條第一項ニ輸出トハ海上ニ在リテハ帝國領土外
 ニ仕向ケラレタル船艦ニ目的物ヲ積載スルニ依リテ其ノ行爲完成スルコトハ夙ニ當院ノ判例ト
 スル所ナリ (大正十五年(れ)第七七一號事件同年八月二日判決) 原判示事實第一ノ(三)ニ依レ
 ハ被告人宗太郎ハ內務大臣ノ許可ヲ受ケス昭和三年七月十六日頃鹽酸ヘロイン(鹽酸ヂヤアセ
 チールモルヒネ)四千オンスヲ支那山東省青島直隸路七十號藥種商古賀靖二ニ送付スル爲大阪
 港出帆ノ汽船日光丸ニ積込ミタリト云フニ在ルカ故ニ縱令其ノ後發覺マテ該藥品並之ト共ニ同
 船ニ積込ミタル貨物ニ付所論ノ如ク稅關ノ檢査ヲ經サリシトスルモ該藥品ノ輸出ヲ遂ケタルモ
 ノト認ムヘク其ノ所爲ヲ以テ該藥品ノ輸出準備行爲ニ過キスト云フヲ得サルヤ明白ナリ、然ラ
 ハ原審カ右檢査ノ有無ニ付辯護人ヨリ申請シタル證人訊問ノ申立ヲ却下シ被告人宗太郎ノ右所